

て謂はば彼のチタ統一會議に於て敗北せる一派の腹癒やせに過ぎぬ様にも思はれる、何となれば國民議會の存置期間は、憲法議會召集までといふではないか、それに改造されんとする内閣は聯合内閣といふもの、共產黨を中堅せる内閣であるばかりか、其内閣が責任を負ふ所の國民派を操縦する共產黨が勢力を占めて居るではないか、果して然らば形式上國民議會は極東政府の沿海洲に施行する諸法令に對して協賛權を有するものとした、所で又沿海洲に行はる、極東政府の主權は、必ず浦潮國民議會より成る浦潮政府を通じて行はるゝものとした所で何れも紙上の空文に過ぎぬのである、斯く觀じ來れば既に極東政府を承認後の浦潮政府も又浦潮議會も如何なる形式を設くとも、所謂骨拔齧で詮する所極東政府の傀儡たるを免がれぬことは事實である、世間では極東政府を勞農政府の出張店であると謂つて居るが、浦潮政府の出張店なる極東政府の其又出張店であると見れば間違ないのであらう、出張店の其又出張店であるから、將に改造されんとする浦潮政府の今後の營業振りも大抵察するに難からぬのである、況んや其存在には憲法議會召集までなるおや、且つ夫れ此將に改造されんとする浦潮政府の役割なる者を見るに、果して前觸れ通りとすれば要所々々は共產黨と農民派で固められたるもの、如く、尤も財務と司法は社會民主黨に残してあるとあるが、此内財

務はヒヨツとすれば共產黨か乃至農民派で占むるではあるまいか、彼の改造内閣の首相アントーノフ氏は沿海洲の財政整理問題を眼前の重要問題として擧げて居るのに徴しても、左様想像されるのである、同時に吾人の所見を以てすれば改造内閣の眼前の重要問題は、アントーノフ首相の言の如く沿海洲の財政整理も然ることながら、併し外交と軍事も之に次ぐ眼前の重要問題であると思ふ、然るに首相アントーノフ氏の言に據れば、對外政策は隣接國との從來の協約を繼承し、若し之が變更を要する場合は國民議會の承認せる極東政府が、之を行ふべきもので、且つ同協約の存在する間は極東政府の軍隊を沿海洲に入るゝの意圖なしとある、且つ沿海洲政權組織法案中にも極東政府の沿海洲に施行する諸法令に對する國民議會の協賛權から外交と軍事を除外して居る、是に由りて之を觀ると改造政府は政府と稱するも外交軍事に關する權能は早く業に暗に極東政府に委讓の意を込めかして居るのである、是れでは名は政府であるけれども事實は一地方政廳に過ぎぬのである、それも是れも憲法議會召集と共に浦潮政府は一地方政廳に變形して國家問題は、極東政府に委讓する準備と見れば見られる、勿論國民議會が既に極東政府を承認せる以上、早晚此に至るが當然の順序である唯斯うなると改造内閣の外交軍事の兩部は單に現状維持に止まり、何等積極の權能なきものなる

それでも改造内閣は外交と軍事は此儘に放任して置いて、當分専ら内政の整理にのみ力を致す積りかも知れぬ、又外交軍事沿海洲承權から除外してあるのみならず、現狀變更を要する場合は極東政府をして之に當らしむるからは、假に日本軍など、交渉の起りたる場合は改造内閣は玄關番乃至受附役のみを勤める積りかも知れぬ、斯る場合には日本軍は此玄關番乃至受附役のみを勤める改造内閣を如何に觀るだらうか、觀じ來れば此政權過渡期は大に奇態を呈する譯である、此等は勿論憲法議會に於て何とか決定する譯けであらうが、何れにしても極東政府と日本とは以時までも背中合ではかり居られぬ譯になつて來たのである、同時に統一を完成したる後ちの極東政府にとりては、日本は依然として背中合せして居るか、それとも向き直つて貰ふかが同政府にとつては重大問題である、但し背中合せの日本に向き直つて貰ふには極東政府たる者、日本の機嫌を直すべく大に努めねばならぬ。

以上吾人は極東一角における政權過渡の局面は、頗る興味ある局面なると共に重大視して措かぬのである、因つて揣摩憶測を叙すること斯くの如くである。

## 政局の分野

極東統一問題に對する態度に關して、一時沸騰せる當地の政局も龍頭蛇尾を以て一段落を告げたと共に方面は一轉して憲法議會召集なる輪廓の下に、政局の中心は今や選舉に向つて集中中である、別言すれば政局の中心は輪廓から内容に抽象的から現實的に向つて進展中である、而して目下中心集中中の選舉の結果は逆略するの限りでは無いが、併し是れとても必ずしも爲得られないでもない、何故なれば浦潮議會は極東憲法會議を縮小した様な者であつて、極東憲法議會を縮小した者とも見るべき浦潮議會の議員は農民派が多數を占め、次に共產黨が多數を占めて居る點から推して極東憲法議會の議員も選舉の結果、浦潮議會と大同小異と見て大差ないのであらう、尤も選舉法に於ては軍隊を選舉區として二千人の軍人から一人の割合を以て議員を出すことになつて居るが、此軍隊選出の議員は何派に屬する者が多數を占めるかは疑問であるが、併し軍隊なる者は元來農民の集團であるから、矢張軍隊選出の議員の多數も農民派に屬する者が多數を占むるものと見て間違ないであらう。

斯く觀察し來れば浦潮議會の議員は農民派が多數を占むるが如く、將に選舉せられんとす

る極東憲法議會の議員も農民派が多数を占め、次に共産黨が多数を占めるであらう、斯くて農民派と共産黨が浦潮議會を左右せる如く、極東憲法議會の將來も農民派と共産黨が左右することになるではあるまいか、而して將來極東憲法議會を左右する農民派と共産黨を更に仔細に點檢すれば農民派の議員にして、共産黨もあり共産黨の議員にして農民の利害を代表する者もあるべく、此間の區別は之を明瞭にすることは頗る困難ではあるが、大別して共産黨は工業即ち職工乃至労働者にして農民派は農民の代表者と見ることが出来る、斯んな風で政局が輪廓から内容に向つて進展し、抽象的より現實的となるに従つて社會民主黨とかエスエルの如き革命準備時代の遺物たる、所謂政治屋は漸次其影が薄くなり、之に反して各職業に立脚し又は之を代表する黨派の勢力を占むるに至ると共に政治問題は、段々現實的となるのみならず深刻になり行くのである、蓋し斯る傾向は獨り極東の現局ばかりでなく、何國の政局を問はず、當然經過せねばならぬ行程である。

斯くの如く近く召集せられんとする、極東憲法議會の大勢が果して上述の如しとすれば、今後の極東の政局の大勢は農民派と共産黨の行動に依りて決定さるゝ譯けである、然るに最近當地の政局に於ては、農民派と共産黨は聯繫してと云はんよりは、共産黨は農民派を操縦

して同一の歩調を保持して來たのであるが、憲法議會召集後に於ける農民派と共産黨は將來も依然同一の歩調を保持して行くであらうか、如何うかは大に注目し値する問題である、即ち農工兩派が何處まで聯繫を保持して行くであらうかの問題である、工業の發達せる國は共産政治を實現し易いか、之に反して農業國は困難であるといふのも、ツマリ農工の衝突の一端を語るものである、只だ當地における最近の政局の如く、共産黨が依然として農民派を巧に操縦して行くことが出来れば、極東は勿論共産黨の天下であることは當然であるが、之に反して兩者の間に一朝乖離を來すこともあらば、將來の政局の龜裂の端緒となるであらう、現に沿海洲政廳員選出問題に對して農民派は自派の代表者六人を主張し、共産派は之に對して四人を主張して居る、以てその關係の一端を窺ふを得るのである。

之を要するに極東今後の政局は、農民派と共産黨を中心として其他の各派は之と離合合散して消長するのではあるまいか、極東の將來が純赤となると桃色となるも、以上兩派を中心とする各派の消長に依つて決定する問題である、換言すれば巧に農民派を操縦する者は極東の政局を左右する者である、而して今日までは此農民派を巧に操縦し來りたる者は共産黨である、共産黨は身を農民派の中に投じて農民派として農民派を操縦して居る、之に反してエ

スエルでも社會民主黨でも、彼等は未だ革命準備時代の夢から覺めず、各職業に立脚し又は之を代表せんとせず憲法議會召集と共に、政局が輪廓から内容に抽象的から現實的に進展するに従つて彼等の影は日一日と薄くなり行くのである、彼等たる者若しも將來共政界に生命を維持せんと希ふならば、農民派となるか工業派となるか二者、其一を選ばねばならぬのである、今や當地の政局の中心は歳末をかけて憲法議會の選舉に集中されあるを觀て、吾人は將來の極東政局の分野に對して敢て逆睹を試むること斯くの如くである。

### 憲法會議

最近のチタ電報に徴するも、極東憲法議會は昨十二日午後六時を以て開會された筈である昨日のチタ發電に依れば同議會はチタ政府に依りて開會さるべきものか、又は同議會の長老に依りて開會さるべきものかに就て問題があつた様であるが、同問題は如何に決定したかは其後の消息に接しないが、何れにしても同議會は昨十二日午後六時を以て開會式を挙げたものと見て差支ないのであらう、赤旗は同議會は血を以て開いた議會であると謂つて居るが、それは事實である同議會が今日開會の運びに至るまで、多大の血が注がれたことは事實で

あるそれ丈同議會は極東の爲めには重大なる議會であることも、何人も之を認むる所である極東の内治外交の基礎的問題の解決は一に同議會の双肩に懸つて存するのである、斯くて同議會に依りて極東の内治外文の基礎的問題が平和の間に解決せらるゝことにもならば、吾人は極東の爲めに大に慶賀して措かざるのである、之と同時に吾人は暗中飛躍を試みつゝあるが如く傳へられある、彼の反動派なる者も既に同議會が開會されたる以上は萬事を同議會に依りて平和の間に解決の方針に出づべきものなることを感念せねばならぬと思ふのである、曲りなりにも憲法議會なる者が開設せられたからは、之が操縦の策に出でずして反對に干戈を弄することもあつては陰謀的であると、同時に更に對外關係を複雑に導く恐れが無いと制限らないのである、兎も角極東の内治外交の基礎的問題を平和の間に解決する機關が開設せられたるに拘はらず、之を無視して干戈に依りて解決せんとすることは、極東を永く戰時状態に置くものにして極東自身は勿論隣接諸國にとりては、甚だ迷惑を感ずるのである、此迷或露領に對する出兵とも亦駐兵ともなるのである、赤旗は曰く同議會に依りて重要な内治問題も解決せられ、且安寧秩序も回復されたならば日本は聲明に基きて當然撤兵すべきものである、若し之に反して此に出でざることあらば、日本は内外を欺く者であるとコハ御尤

もの次第である、元來日本が出兵し又駐兵する所以は極東の安寧秩序は、則ち日本の安寧秩序であるから之を維持回復の意に出でたるもので、其結果が露國の一黨一派に及ぼす利害關係は日本の關係する所では無いのである、何れにしても露國の内亂が隣接國に出兵、又は駐兵の機會を與へたのであつて、其責は露國の内亂其者が之を負はねばならぬのである、此内亂が芟除された以上は日本は撤兵すべきは言を俟たぬのである、尤も將來に於て自衛と平和の見地から日本は極東共和國に對して何等か注文があるであらう、之に對する極東共和國の應答より來る日本の態度如何に至りては吾人の關知する所ではない、それから赤旗は極東憲法議會は極東露國が流血の努力に依りて開會の運びに至らしめた様に解釋して居るが、併しその此運に至らしむべく、日本軍の助成も亦與つて力あつたことは之を無視出來ぬと思ふ、之に對して赤旗は日本が若しも武力干渉をしなかつたならば、彼の反動派をば苦もなく一掃して極東は一舉して勞農露國の下に統一したのであらうと曰ふのであらう、是も一理である併しながら反動な派の者があつて、之が爲めに極東は禍亂の中に陥つたことは事實である、此事實に對して日本は自主自衛の見地から行動の自由を有して居るのである、此自由行動が露國の一黨一派に對して如何なる影響を及ぼすとも、それは日本の責任ではないことは上述

の通りである、兎も角日本も極東の現状に對しては稍々諒解する所ありて、亦日本の利害の上から考慮した結果、極東憲法議會を開催して民主政治の極東共和國を建設するのが最も適當の策と信じて、爾來此方針に向つて相當の助力をしたことは事實が之を證明して居るのである。之を要するに國際關係に於ては厚意なる者は要求すべきものではなく、諒解に頼るべきものである、過去における日本の對極東行動は吾人敢て之を論せぬ、只だ憲法議會を基礎として民主政治の極東共和國建設に對しては、日本は之に同意するであらう、而して氣運を此に向はしむべく一臂の力を致した筈である、其結果昨十二日午後六時を以て同議會が開會式を擧ぐるに至りたることは、吾人は大に慶賀の意を表して措かぬのである、同議會を基礎とする極東共和國なる者が、將來日本の意向をも尊重し協力して極東の平和維持の方針に出でんとすることは日本の最も歓迎して措かざる所であらう、吾人は此に一言吾人の希望を述べ以て憲法議會開會の祝辭とする次第である。

## 共和國の目鼻

極東政府は今や憲法議會を召集し、同議會における各政派の憲法に對する意見の宣言を見

るに大體に於て大同小異なるより觀るも、近く極東共和國の憲法も制定せらるゝであらう、尤も憲法の制定は單に國家の基礎が紙上に於て確定せる丈で、之に依りて事實上國家が統一さるゝまでには、幾多の實際問題に逢着すると共に幾多の時日を要するであらう、兎も角憲法が制定せらるゝれば、極東共和國の内部丈は目鼻が附くことになる、否近き將來に於て極東政府は早晚紙の上丈に於ては、目鼻の附くこと丈は山が見えたのである、只だ併し内部に於て目鼻が附いた丈では其國家は半面の國家であつて、未だ兩面を具備したる國家を以て目することは出来ないのである、吾人は斯る國家を稱して半身不隨の國家といふのである、憲法議會における各政派は、何れも口を揃へて極東は既に統一の緒に就いたから日本は撤兵すべきものであると唱へて居る、けれどもそれは露國から主觀したる場合に於てのみ、然るのであつて外國から客觀したる場合は上述の如く、將に半面丈の目鼻が附かんとして居るのであつて、兩面共に目鼻が附くの運びに至つて居るのではない、國外より之を觀る時は矢張吾人の所謂半身不隨の國家を免かれぬものである、隣接地境に斯る半身不隨の國家の存在すると云ふことは不安である、日本が露國の領土内に駐兵する所以即ち此不安に對する自衛に外ならぬであらう、此時に當りて極東共和國の目下の急務は憲法の制定に依りて事實上、極東

の統一實權に力を致すと共に此事實に立脚して、極東共和國をして兩面に目鼻を附けしむべく、徐ろに諸外國をして之を承認せしむべく方法を講ずることが順序である、國家が事實上に統一し安寧と秩序も事實上に回復維持さるゝに至らば、撤兵を要求せずとも撤兵せざるを得るのである、極東共和國の各政派は日本の駐兵は反動派を支援するものである、といふけれども過去はイザ知らず、コルチャーク没落以後の日本軍の態度は嚴正中立である、日本軍の態度が嚴正中立であつたればこそ、ロザノフもセミヨノフもコルチャークに次いで没落したのではないか、何れにしても極東共和國をして兩面の面目を具備せしむるには、内に於ては事實上半面の目鼻を附けしむると共に、此事實に立脚して諸外國をして徐ろに納得して之を承認せしめ、斯て兩面の目鼻を附しむるの策に出づることが順序である、吾人の此言をなすは他でもない、極東共和國の各政派は極東共和國をして兩面の面目を具備せしむべく其言動の順序が兎角内外轉倒の觀があるからである、換言すれば彼等は主觀があつて客觀が無いのである、それから兩面の面目を具備せしむべく、其取る所の順序のみならず手段が餘りに策略に流れて内外をして納得せしむべく、誠意に缺ける所があると思ふからである、昨電に據ればクラスノシチエコフは憲法議會に於て、露領の漁場が日本人に占領せられて居

るのは露國の主權が侵害されたのであると唱へ、強固なる抗議を提議するそである、又蒙古駐在支那武官から彼地における露國反動派を討伐すべく、極東政府に向つて出兵を請求して來たと報じて居る、日本人が露領の漁場占領が何故に露國主權侵害となるか、吾人は甚だ理解に苦しむのである、蒙古駐在の支那武官が極東政府に出兵を請求したる其裏面には如何なる魂膽が伏在して居るかは、吾人の得て知らざる所ではある、けれども此事實は日本の露領駐兵は反動派を支援するものであるといふ、極東共和國各政派の主張を裏切つたものである、即ち日本軍の駐屯せざる地方にも反動派は出沒して居るでは無いか、若しも日本が蒙古の如く無力であつたならば、滿鮮の安寧と秩序は露國の反動派の爲めに破壊されたであらうソハ兎も角以上はクラスノシチヨコフが極東共和國をして両面の面目を具備せしむべく、何等かの機會と理屈とを發見して、何んとかして日支兩國をして極東政府と公式交渉を開始せしむべく動機を作らんとする一種の策略とも邪推し得るのである、尤も此處がクラスノジチヨコフの遣手たる所以と見れば見られないでは無いが、併しながら隣接諸國をして納得して極東共和國をして両面の面目を具備せしむべく承認せしめんとするには誠意が無いと思ふ、吾人は極東政府のみならず憲法議會の各政派も此誠意を希望し休ぬのである。

### 極東共和國を祝福す

憲法議會は憲法を可決し、次いで同議會を其儘第一回國民議會に代用し選舉委員會を選舉し廿七日を以て開會せることは昨紙報道の通りである、斯くて極東共和國も成文上に於て先づ以て完成を告げた譯である、久しく各洲割據中に在つた極東も兎も角統一の一段落を告げたのは極東の爲めに大に慶賀して措かぬのである、併し吾人が再三論じた通り極東共和國は成文上に於て完成したが、事實上の完成は寧ろ是れからであらう、彼の統領府員やら内閣議長の就任式上に於てニキホロフ氏が演説した通り、極東共和國は今や一切を舉げて窮境に在るので之が復興は協力一致の一大努力を要するのである、而して若しも此協力一致の一大努力が一步を誤ることもあらば、折角制定發布せる憲法も空文に歸して失うのである、一切を舉げて窮境中に在る極東共和國にとりては、經濟財政の復興は急務中の急務であることは勿論であるが、經濟財政の復興は交通機關の復興と相待たねばならぬことも勿論である、而して交通機關の復興は困難である、けれども之を破壊するのは極めて容易であるのである、此點に於て彼のセミヨーフカツベル及びウンデル等の連中が邊境に出沒して居るといふこと

は辛ふじて成文上丈も完成を告げればかりの極東共和國の爲めに、甚だ懸念に堪えぬのである、之を要するに今後に於ける極東共和國の事實的完成は極東共和國上下を擧げて、協力一致の一大努力に依らねばならぬこと、共に、諸外國就中隣接諸國の厚意に待たねばならぬであらう、隣接諸國の厚意にして缺くる所があつたならば、表面丈完成を告げたる極東共和國の運命は旦夕を料られぬと謂つても不可は無いのであるまいか、是に於てか極東共和國をして名實共に之を完成せしむるには之を内にしては、上下を擧げて協力一致の一大努力を要すると共に之を外にしては、特に隣接諸國の厚意を待たねばならぬのである、而して隣接諸國の厚意を得るには自家の境遇を自覺して氣を下し、心を低ふして諒解ある親善關係を打ち立てねばならぬのである、然るに吾人の所見を以てするに新に完成を告げたる、極東共和國は自家の境遇を自覺し、恭謙抑損の態度を以て隣接諸國の厚意の下に、親善關係を打ち立つべく、餘りに因襲的倨傲心に囚はれて居るのではあるまいか、吾人は極東共和國の事實的完成の爲めに常に之を遺憾とし、且つ機會ある毎に砌々懇々の情を致して止まぬ所以である、尤も境遇は如何しても自覺さねば止まぬものである、極東共和國を建設するに至つた、其事が既に大なる自覺である、それに憲法議會に於て外資を誘入すべく、内外人に利權提供を決議

したのも自覺の一つである、而して吾人が將來の極東共和國に對して是非共希望して措かざる點は極東は地理的に於ても、民族から觀ても對隣接諸國關係から觀ても特殊の地方であるといふことを自覺して、從來の征服的關係の下に在りたる歐露より之を離脱せしめ、多數を占むる民族の利害に重きを措き隣接諸國と經濟的共存の下に、之が開發擁護の方針に出づること是れである、之に反して侵略的帝國主義に換ゆるに共產的帝國主義を以てし、飽まで赤大根の帝國主義を發揮しやうとするならば、極東の平和は當分得て望めないであらうと思ふ極東の平和が得て望めないとするれば、全露の復興も得て望めないのである、名義上極東を獨立として共和國を建設しても、歐露が事實に於て舊來の征服的態度を以て之に臨むといふこともあらば、隣接諸國に對する露國年來の一大脅威であるのである、露國年來の一大脅威に對しては餘國はイザ知らず、日本は極力之に反抗せねばならぬのである、是れは野心でも又帝國主義でもない、自衛上當然此に出でねばならぬのである、然り極東共和國たる者は自家の境遇を自覺すると共に隣接諸國の地位をも自覺して、恭謙抑損の下に隣接諸國と諒解ある親善關係を打ち立つるを得て、而して後ち始めて事實的に極東共和國が完成するのであらう若し然らずして赤大根の帝國主義を以て、極東共和國の名の下に内外を一時的瞞着せんとす



るが如き非心ありとすれば、隣接諸國と諒解ある親善關係の下に其厚意は得て望めぬのである、隣接諸國と諒解ある親善關係の下に其厚意が得て望めぬとすれば、形式的に完成を告げたる極東共和國は上下を擧げて、如何に協力一致の一大努力を以てするとも、之を顛覆することは一舉手一投足の業である、吾人は今次完成を告げたる極東共和國に對して慶賀の意を表すると共に之が發達隆昌を望むの情切なる者あるより茲に平生の所論を繰返して、祝辭に代ゆる所之である。

### 統一の端緒

チタ直電に據れば、憲法案も決定すると共に廿三日を以てジレクトリヤと閣員の選任を行ふそうである、而して各派に對する割り當は、共產黨と農民派の多數派から六名エスエル派からは一名なそうである、而して目下病中のクラスノシチョコフ氏は、少くも今後半年間位は政治の實際に立ち觸はることは出来ないであらう、けれども矢張り總統には氏を推すであらうといふことである、内閣議長はニキホロフ氏でエスエル派からはマンヌウエートウルトツプ及びボグレベーツキーの三氏、而して穩健派からは二名、其内一名はビナシツク氏等

が入閣する筈なそうだが、是に由りて之を観ると何の彼のと問題があつたが、結局聯合政府と決定したものらしい、斯くして極東の政局が統一の一大段落を着くることにもなれば、誠に結構な譯である、元來聯合なる者は問題の起り易いもので、近き過去に於ては浦潮政府の聯合内閣が其實例を示して居るのである、尤も浦潮政府の聯合内閣は非社會黨とも謂ふべき有産階級と極端なる社會黨の過激派との聯立であつたから圓滑を望むことは無理であつたが、之に反して此度の極東政府の聯合政府、聯合内閣は極端と穩健の差こそあれ齊しく是れ社會黨の聯合であるから案外に圓滑を保つて行くかも知れぬ、而して各派に對する頭領と閣員の割當豫定なる者を見るに、内閣を任免する權能を有する七名の頭領の内一名はエスエル派から、而して其他は共產黨の兩派から出だし病氣中で實際政務に當られぬとしても、クラスノシチョコフ氏を總統に、而して内閣議長にニキホロフ氏を推し、閣員はエスエルから三名、穩健派から二名參加せしむるとある、而して其他は何れも共產黨の兩派が之を占めるであらう、果して然らば共產黨が優勢の地位を占めたばかりでなく、大體の實權は同黨に歸した譯けである、前に憲法議會の劈頭に於て發表したる憲法に對する各派の宣言を観るに、大同小異であるから、今日聯合政府聯合内閣が組織せらるゝは當然の結果であつて、彼此の間優

劣の跡はあるけれども到頭無事に統一が保たれて行くべき筈のものであるが、之に反して若しも乗離を生ずる場合ありとすれば、それは政策問題からであらう、併し彼の共産黨も内東に於ては極端に共産政治を實現することは不可能であるといふことを觀念して居るらしいら政策問題から乗離を來さすには濟むかも知れぬ、如何うか左様あつて欲しいものである、斯くして極東の政局が統一の緒に就いたとして、是れからが建設時代である、彼の極東聯合政府と聯合内閣とは椅子の數から頭數、それに勞農階級に對する地位から謂へば共産黨の方が優勢であつて大體の實權も同黨の手に掌握されて居るもの、建設時代に入つてからはエスエルや穩健派の人材は共産黨たる者、大に之を利用否重用する必要があるではあるまいか、亦エスエルや穩健派たる者も區々たる政策問題から聯合を破滅して見た所で、根本から大勢を轉回して天下を同派の手に收めるといふことは、兵力を有せぬ同派としてはセミヨノフとかカツベルの力に頼らねばならぬであらう、此處が同派にとつて大に考慮を要する所である、共産黨を牽制々肘の位地に立つて彼をして極端に走らしめざる様に努力し、以て着々極東の統一の實を擧ぐることが同派の爲めにも、極東共和國の爲めにも取るべき道であるまいか、蓋し極東目下の急務は先づ以て之が統一の實を擧げて諸外國をして之を承認せしむるに

在るであらう、而して此極東統一の實が擧がれば彼の機會だにあれば爆發せんとして居る、反動派も自然大勢の不可なるを知つて、之を斷念するに至るであらう、論じて此に至り吾人の特に一言を要するは正當の順序を踏んで極東が統一の緒に就くといふことは、我日本は衷心之を希望して居ることである、而して極東共和國の名の下に極東が今日稍々統一の端緒を開くに至つたことは之が動機を興ふべく、日本の力も與つて大に在つたと思ふ、之を要するに極東の事は何を謂つても、日本の意嚮を閉却しては不可である、若し日本の意嚮を閉却して、而して日本の反感を買つたとすれば折角統一の緒に就かんとする極東は何時でも之を逆轉せしむることが出来るのである、極東共和國が建設の首途に際し、吾人は平生の所論をば茲に重ねて繰り返す所である。

### 憲法草案上程に就て

去十一日開催の憲法議會は極東共和國の憲法草案の審議を上程した、憲法議會は愈々以て憲法議會の實を擧ぐべく着手しかけた譯けである、同憲法草案を見るに大體に於て主權、國民議會、政府及び閣議、國民議會及び政府選舉等に分たれ主權は國民議會に在ること、政府

は國民議會より選舉すること、國民議會の選舉は普通選舉に據ること、戦線に在る者を除く以外は軍隊も選舉に參與せしむること等にて、取り立て、何等異とするものも無く、普通の共和國の憲法である、去れば同草案に對する議會の審議は單に形式に止まり、何れ多數を以て承認可決さるゝであらう、同憲法が憲法議會の承認可決を得て、而して後ち極東共和國なる者は茲に合法的體面を具備する譯けであるが、同憲法に基きて國民議會を選舉し、同議會に依りて政府を選舉するのが順序であるが、此等の順序を廢して憲法の承認可決と共に憲法議會が同憲法に據りて選舉せられたる國民議會の資格を以て、政府を選舉するの略式に出づるや否やは得て知るべからざるも、國家創造の際なれば複雑なる手數と形式を略し、略式に依り憲法議會が憲法に據りて選舉せられたる、國民議會の資格を以て政府を選舉するの順序に出づるであらう、憲法が制定せられ之が運用の任に當る政府も組織されて、極東共和國は初めて體用共に完きを得るのである、即ち國家の體面を具備した譯けである、但し是れ丈では主觀的國が成立した丈で、客觀的國家の成立は未だしである、國民の承認したる國家であるけれども、諸外國は未だ之を承認しない國家である、諸外國をして之を承認せしむる問題は是れからである、換言すれば憲法の制定と政府の選舉に依りて、半面の國家は成立を告げ

たるもの、他の半面の國家は未だ以て成立しないのである、而して内面の成立丈も相應に困難であるが、同時に外面の成立はより以上に困難であらう、特に極東共和國に於て其然るを見るのである、蓋し法は死物である之を運用するは人に在るのである、既に國民の承認を得て内面丈は成立しても、之が運用如何に依りては何時瓦解せぬとも限らぬのである、而して諸外國の承認を得ると否とは、之が通用如何が最も重大の關係を有して居ることは言を俟たぬのである、吾人は前に極東政府が諸外國に對して承認を請求するに當りて、未だ憲法も制定せざるに此舉に出づるのは、前後本末を轉倒せるものであることを再三論じたのであるが若しも彼の目下議會に於て上程審議中の憲法が議會の承認可決を得て、且つ政府も組織せらるゝにも至らば、一方諸外國に對して之が承認や請求の準備が出来た譯けである、併し準備だけにては諸外國はオインソレとは之を承認せぬであらう、是に於て之が運用が重大の問題である、抑極東共和國が國家の體用を具備すると共に、諸外國の承認を求むるに當りては日支兩國の如きは重大の關係を有することは勿論にして、就中我日本とは重大の關係を有するのである、假りに歐米各國が極東共和國を承認したとするも、之と重大の關係を有する日支兩國若くは日本が之を承認せざる場合には、極東共和國は幾多の不便を感ずるであらう、否歐

米各國は極東共和國を承認せんとするに當りては、先づ以て日支特に日本の意嚮如何を參考せねばならぬであらう、果して然らば日本と極東共和國とは重大の關係を有するのみならず極東共和國の成立如何は日本の意嚮如何に懸りて存すと謂ふも不可はないのである、尤も歐米各國は勿論極東共和國までが、日本に對して侮蔑的態度を以て臨むを常とすれば、極東共和國は歐米各國の承認を得るに重きを置き、日本の承認の如きは或は眼中に置かざると共に歐米各國も亦日本の意嚮の如きは、之を一顧だにも附せずして承認の舉に出づるやも知れざれども、併しソハ決して極東共和國の爲めに永遠の利益でないと思ふ、何となれば極東共和國と日本とは隣接國にして密接の利害關係を有するからである、否日本は極東共和國の死命を制し得る地位に居るからである、因て吾人は將に國家の體用共に完備し、諸外國の承認請求に出でんとする、極東共和國に對して相も變らず、前以て切々偲々の情を致す所である。

### 未成品の國家

吾人は昨紙上に於て目下上程審議中の憲法案が承認可決さるゝと共に、同憲法に基き國民

議會を召集し、同議會に依りて政府を選挙するのが當然の順序なるが、果して此順序に出づるや否やは得て知るべからず、國家創造の際なれば此等複雑なる形式と手数を略して、憲法議會の國民議會の資格を以て、政府を選挙組織の形式手續に出るであらうと論じて置いたのである、マンズウエート氏のチタ通信に據れば、該問題に關しては吾人の所見の如く二派に分れて居るらしい、即ち國民議會も政府も期限は二ヶ年とすると共に、共產派は憲法に基き國民議會の選挙を略して現在の憲法會議の會期を二ヶ年に延長し、例會召集をなし、而して現在の憲法議會から政府を選挙せしめようといふのに對して、反共產派のエスエル其他は假りに現在の憲法議會をして、政府を選挙せしむるとしても、それは臨時的政府にして如何しても八月を期して憲法に基き、國民議會を選挙せしめねばならぬ、而して憲法議會選挙までは現在の憲法議會の幹部を執行機關として、臨時政府の任に當らしめようといふのである、以上二派の意見が衝突中に在るらしい、此二派の意見の中其何れが勝を制するかは論ずるまでもなく、今日までの憲法議會の大勢が之を暗示否明示して居る、蓋し正式の順序から謂へば憲法制定と共に憲法議會は之を解散して憲法に基きて、新に國民議會を選挙し同議會に依りて政府を選挙すること、即ち反共產派の主張が正當である、併しそれは形式であつて現在

の憲法議會を國民議會と改稱せしめて、それをして政府を選擧せしめるのも、彼の憲法に基き新に選舉せる國民議會をして政府を選擧せしむるのも、事實に於ては大差は無いのであらう、否國家草創の際なれば繁文褥禮を避けて簡易直截に出づるの方が機宜に適する策であらう、尤も反共產派は憲法に基く國民議會を選擧して、之に依りて政勢を轉回しようといふのであらう、けれどもそれが成功するや否やは甚だ疑問である、否斯くては稍々安定せんとする政情が容易に安定せないことになる、彼の反共產派は相も變はらず、形式に拘泥する傾向がある、斯る傾向は劣敗者の愚痴として免かれぬのである、政情不安定中に在る極東の爲めに圖るに吾人は共產派の肩をもつ譯けではないが、遅巧よりも拙速を貴び、共產派の主張に賛成せざるを得ないのである、兩派の意見中何れが勝を制するか未知數であるが、既往に於ける憲法議會の大勢が既に之を暗示、否明示して居るが如く無論共產派の主張に係る、現在の憲法議會を延長して、それをして政府を選擧せしむる方が勝を制するではあるまいか、サテ共產派の主張が勝を制して、現在の憲法議會が延長され同議會が憲法に基きて、選舉されたる農勞民議會の資格を以て政府を選擧したりとして、極東共和國は對內的丈には國家として體用共に完備を告ぐる譯けではあるが、併しそれは單に成文上の完備であつて、未だ實力的

に國家の完成とは謂へぬのである、諸外國の承認が無い間は半面的對內的國家であるばかりでなく國家として存在すべく、實力に於て未だ以て完備を以て目されぬのである、國家としては成文上の資格も必要であるが、之を運用すべく兵財の實力が必要である、然るに極東共和國は辛ふじて成文上の資格を具備した丈で、之を運用すべく兵財の實力が未だ完備して居らぬ、加之ならず反政府派が相應の勢力を有して居るのみでなく、クラスノとニキホの兩雄は病臥中に在り、ウンゲルがチタの横腹を突かんとして虎視眈々として居る、沿海洲には二萬のカツベルが脾肉の嘆を發しつゝ風雲を望んで居る、旅順に監禁的生活を送つて居るセミヨノフも、此儘歴史中の人物として葬らるゝことは承知しまい、露西亞人は口を開けば日本人は野心があるとか、内政に干渉するとか謂つて攻撃するが、日本が眞に野心あり又干渉せんと欲するならば、今日の極東共和國の如きは一兵をも用ゐずして、一と睨らみで朝飯前に之を攪亂、又は破壊し得るのである、而してその此に出でないのは日本が偽善心と虛榮心に囚はれて居るばかりか、出來得るならば露國の反省を待つて、將來は理解ある日露親善關係を實現したいと思ふからである、之を要するに憲法に基きて國民議會を選擧して、それをして政府を選擧せしむるとも、又現在の憲法議會を延長して、それをして政府を選擧せしむる

とも、何れにしても文面上否紙上の争議であつて、實質的に極東共和國は未成品の國たるを免かれぬのである、而して之を未成品の儘存続せしむるも、將た之を成品たらしむるも日本の胸三寸に在りて存するのである、故に若しも露國が眞に復興を望まんとすれば、先づ極東安定を得て、進んでは勞農露國をも漸次復興の端緒を開かしめんとするには、日本の厚意に待たねば如何しても駄目である、此點はレーニン御大はチャンと承知して居るのであらう、彼の非社會黨派の官僚の遺物は慾張の没曉で相手にならず、エスエル其他の灰色派は英米崇拜の且つ利己一點張りにて、表裏反覆信を措く能はず多少變通の才があつて、案外話せる者は共產黨であるが、是は傲慢不遜である日本の當局も眼界と尻の穴を少し大きくする必要ありと共に共產黨も政府位は棒に振る度胸が無くては、卿等の志業も結局蹉跎に終るのであるまいか。

### 緩衝國の彈條

憲法議會は去十七日を以て第三回會議を開らき、各地よりの祝電朗讀やら各部の委員選舉を行つた後將に制定せられんとする、憲法に關する宣言に對する豫備審議に移り副議長ポロ

ダウキン氏は農民派を代表して意見を述べた、氏の意見なる者は是れやがて極東共和國憲法の骨子とも見るべく、同時に氏の此意見は農民派の意見といふものゝ、其實は共產黨の意見と見て差支ないのであらう、それを農民派の代表者をして述べしめたる所は、吾れ心あり人をして之を言はしむの筆法で、此處が共產黨の遣り口の上手な所であらう、ボルダウキン氏に依りて代表されたる農民派の意見なる者の大要を観るに、四民平等とか言論出版集會等の自由とか政教の分離などは先づ月並として、其中で共和國の生命とも見るべきものは、國民の教育と醫療は無料として國家の事業とすること、勞働義務年限を十八才より五十五才までとし老幼は國家之を扶養すること、それから税金は單に累進法所得税に止め私有權を認むるけれども土地山林鑛山水等は私有を許さざること、銀行鑛山商工業等は私營を許すも國家のカントロリの下に置くこと、但し必要な場合には軍用、又は國有乃至專賣とすることあるべし、多數勞働階級の利益を圖る方針の下に、外國人に特種利權を許して經濟的共存を圖ることなどが緩衝國としての共和國の骨子であらう、此等骨子に就ては是れまでに共產黨の口から何度か漏らされた、處で別段耳新しいものは無い、之を要するに全部共產政治を施行はしないが、私有權と商工業の私營と外國人の特種利權をも承認するといふのである、此數點

が緩衝國の彈條と見べるきものであらう、所が吾人の茲に大に注目を要する點は、上述の如く私有權や商工業の私營や外國人の特種利權をも承認するといふものゝ、それは條件附の承認で謂はば監視附の承認であることのそれである、且つ累進法の所得税を賦課するといふのである、加之ならず必要な場合には徵發するといふのであるから、是れでは私有資本の立瀬が無いではあるまいか、果して然らば承認されても承認されないと同じことになる、結局共產政治といふことになるのである、是れでは共產政治を排斥して資本主義の民主政治を主張した者にとつては朝三暮四の愚弄を受けたことになつて、餘り有難くないことになる、ソハ兎も角として露國の現状はレーニン御大の言ふ如く、如何しても一時外國の資本を誘入しなければ産業の復興は望めないのであるが、上記の如く私有權や商工業の私營や、外國人の特種利權等を承認するとしても條件附監視附であつて、之が活動の餘地が無いとすれば外國の資本を如何して誘入する積なのだらうか、此處に矛盾が生ずると共に産業の復興は常分望めないことになるではあるまいか、尤も然る場合は露國に現存する資本で協力して遅々として産業の復興を圖るといふのかも知れぬが、それは所謂逆施行日暮れ道遠しではあるまいかそれから果して上記の骨子より成る憲法が實施さるゝことゝなれば、先づ以て私有資本の事

業は漸次衰微することになる、而して對外貿易などは自然國家の經營に移るであらう、けれども外資が流入せず、従つて産業が遅々として復興せずとすれば對外貿易も容易に復興せぬことになる譯けである、此時に當り鑛山や林業や漁業を國家經營として物々交換の資料に充つることになるであらう、けれどもそれも資本が無くては出来ない相談である、斯く觀察して來ると露國の私有資本征伐の革命は随分奇抜で、之を完成すれば誠に結構ではあるが、前途尙ほ幾多の難關が横はつて居る様に思はれる、それにも拘はらず露國の革命派の意氣込は如何しても之を貫徹しなければ承知しないらしい、ソコで之に對する諸外國たる者は之に對して彼派の希望通り放任して之を遣らして見るのも一興であるまいか、彼等は今日こそ帝政時代の遺産を座食して熱を吹いて居るものゝ結局は、外資を仰がねば二進も三進も動きが取れぬことになるであらう、其時になつて彼等は國際的經濟關係に對して目が覺めるであらうレーニンが産業の電氣化に對して大計劃を立てて見たが、如何しても外資に頼らねば駄目だと感念したなどは當然到着すべき點に到着したのである、對露問題は露國をして此當然到着すべき點に到着させて、それから徐ろに解決する方が結局捷徑らしい、何れにしても副議長ホルダウキン氏が農民派を代表した意見が、即ち共產黨の意見であつた、同時に是れが緩衝

國としての共和國の彈條となるであらう、けれども此彈條で果して緩衝の實が擧がれば何より結構な譯である。

## 政局の反面

既報の如く憲法議會に於ては、去二十六日を以て統領府員と内閣議長の就任式が擧げられた、之に次いで彼のニキホロフ内閣議長の下に政府が組織せらるれば、極東政權も兎にも角にも具體的に完成を告ぐる譯けである、之より前に統領府も政府も各派聯合の下に組織さるゝかに傳へられて居つた、即ち統領府は多數農民派と共產黨から六名、エスエル派から一名而して政府はエスエルエスデの各派から三四名を選任することであつた、然るに愈々組織されたる統領府は多數農民派と共產黨にて占領せられ、エスエル派のマンズウエートフ氏は候補として選出されたが、併し到頭統領府員としては選に漏れたニキホロフ内閣議長の下に組織せらるゝ政府は、果して如何なる政府が組織さるゝかは蓋を開けねば解らぬが、多分エスエルエスデ各派から幾人かは入閣するであらう、何れにしても既に組織され、又將に組織されんとする統領府も共產黨が優勢を占めて居ること丈は、争ふべからざる事實である、是に

於て彼の既に組織されたる統領府を見て、今後組織さるゝ政府も亦推して知るべきのみと謂つた風で當地に於ける政派の一部には、早や業に不平の聲が聞えて居る、加之ならず彼の統領府員と内閣議長選任の報が傳へらるゝと共に、政變勃發の風説が急に高まり其主動者の姓名までが露骨に指示されて居るそうである、一方時々動搖中に在つた當州政廳も、彼の憲法が制定せらるゝと共に、州治制度も制定せられ之と同時に州政廳も改造さるゝ筈とかで、之に就ては一昨日各派の第二回豫備會議が開かれたそうである、同會議の大勢は一派は必ずしも極東共和國の憲法を奉ずるを欲せず、而して無政派聯合の下に州政廳を組織し、以て沿海州を二重緩衝國となさんとすると、他の一派は極東共和國の憲法の下に政派を基礎として州政廳を組織し以て極東の統一を圖らんとするとである、換言すれば殆んど先天的に共產黨と比肩並び立つことを欲せざる、右派は沿海州を極東共和國から分離せしめ、之に據りて以て極東共和國に對抗せんとするに反して共產黨を中心とする、左派は憲法議會に於て制定せられたる憲法の下に、勿論沿海州をも統一せんとするのである、共產黨に對して常に反抗の態度を持續して來た、エスエル派丈は共產黨に聯合を保つて行くことに決定したらしいが、同派を除く反共產派は、極東共和國の憲法の下に立つことは何うしても不服らしい、彼の新



に組織されたる民主大同盟國の如きは、則ち此派を代表する機關であらう、斯くて憲法議會に於ては既に統領府員も内閣議長も選任せられ、政府も組織せられんとして居る、而して極東の政權は大體に於て、統一の一大段落を告げたるに拘はらず、一派はチタを根據とし一派は浦潮を根據として東西相反目を辭せざらんとして居るのが極東政局の反面の現状である、政變が今にも勃發するかの如き風説が頭を擡げるのも、此の極東政局の反面の現状である、のである、昨日のゴロスの如きはモ一度は流血を見ねば止まぬであらう、而して流血の責任は當然共産黨が之を負ふべきものであると論じ、テウリブーナは無政派聯合は兎も角として武力を用ゆる政變に反對する同志の聯合より州政廳を組織しては、如何と論じて居るなども此極東政局の反面の現状を語るものであるまいか、之を要するに憲法議會に依りて極東の政權は曲りなりにも統一された様なもの、此統一に對しては多數農民派と共産黨を除く以外の各派は依然として不満らしい、エスエル派の如きは共産黨と聯合を保つて行くことに決定せる如きも、是れ亦心中不満は免かれぬであらう、而して此不満は來るべき第一回國民議會の選舉に於て幾分回復を期待して僅に我慢して居るのであらう、エスエル派以外の各派は如何しても我慢が出来ぬらしい、果して我慢が出来ぬとすれば、今後如何なる形式に於て將

た如何なる時期に於て、之が爆發するであらうか、第一回國民議會選舉前後に於て彼のカツペルと提携して州政廳を乗つ取つて、而して沿海州に白旗を翻へすか、それともそれを待たずして其以前に爆發するか、尤も日本軍が斯る行動を默認するか如何にか共に疑問である、抑共産黨とは根本に於て相容れざる、右派が極東共和國の憲法に服従出来ぬといふことは尤もなるが、去ればとて沿海州を極東共和國より分離せしめて極東の小天地に於て、チタと浦潮と東西相反目するは大勢上如何なるものによ、何れにしても政權統一を告げたりと稱する極東もソハ單に表面上の形式に止まり、事實は容易に統一しそもなく不安定の情は常に産業と財政の荒廢と破綻のみに止まらぬ様である、時は復活祭に際し吾人をして露國の復活を望むの情を一層切ならしむる者がある。

### 極東政局の將來

彼の統領府と内閣議長選任に次いで組織せらるべき筈の行政政府が今に成立せぬ、同政府は各派聯合の下に組織さるゝことになつて居るのである、元來聯合なる者は一致點を發見すべく中々面倒な者である、従つて同政府の成立も遅々として容易に進捗せぬ所以であらう、

其遅々として容易に進捗せぬ所以に就て、チタよりの情報は區々として一定を缺く點もあるが大體に於て、エスエルエスデ少數農民の各派共に聯合問題に同意し、中にもエスエル派は統領府にも一二名入府さする豫定であつたのであるが、それが共產多數農民兩派の爲に占領されて了まつたので、爾後エスエル派も聯合問題に對して少々スネ氣味となり、餘り力を致さぬらしい、之に反してエスデ派は統領府の組織に際しては、幾分閑却された傾向もあつたので最初は聯合問題に對しても冷淡であつたばかりでなく、憲法議會に於てはエスエル派に比ぶれば、稍々強硬に常に反政府の氣焔を揚げた跡が見えた、所がエスエル派が統領府割込に失敗して聯合政府入閣問題に對してスネ氣味となつたのに反して、前に彼の同問題に對して冷淡であつた、エスデ派は反對に聯合政府割込運動に大分油が乗つて來たらしくも見える、ビナシツクは直電にて語りて曰く、穩健派からはアニシモーフが商工務にビナシツクが司法に此外ペルラーツスキも入閣さする積りである、エスエル派も割込さる見込みがあるもので未定の椅子が六個残つて居る、之に就ては各派の協議がある筈である、吾人の目的を實現すべく、憲法の運用上共產黨とのみ謂はず各派共に實力が無いから、政治の重心點を行政政府に集中せしめることが出来る、此點からエスエル派も是非入閣さする必要がある云々と以

上な聯合政府の成立が遅々として容易に進捗せざる實情を語るものであらう、憲法議會を中心とする各派關係を別言すれば共產黨は多數農民派を藥籠中の物として、エスエルエスデ少數農民の三派を向に廻はし、而して之を好い加減に操縦して居るのである、協力一致して共產黨に當らねばならぬ筈のエスエルエスデ少數農民の三派は、之に對して相互に合散背馳の傾向があるのは共產黨にとつては御詔向である、否寧ろ斯くあらしむべく大に術策を弄して居るのかも知れぬ、兎も角もビナシツクの言の如く政治の實權を行政政府に掌握さすべく、否さする積りで反共產黨の各派は此際讓歩の態度を以て、聯合政府に割り込まねばならぬのである、彼のエスエル派も統領府に割り込めなかつたので、スネて居るもの、固より色氣は充分あるのであるから、何れ穩健派と共に入閣することになるのであらう、而して彼の遅々として進捗中の聯合政府も、何うやら斯うやら成立するであらう、サテ成立した後が觀物である、ビナシツクは政治の重心點を行政政府に集中せしむることが出来ると謂つて居るが、吾人の所見を以てすれば此政治の重心點が行政政府に集中するといふことは、政治の實權が反共黨の手に歸するといふ意味にはならぬと思ふ、何故なれば政府内に於ける勢力は議會内に於ける、それと比例する者であつて議會に於て、勢力を有せぬ政派が内閣に割り込んで

見ても伴食たるを免れぬことは政治上の原則であるからである、果して然らば假りにピナシツクの言の如く政治の重心點が行政政府に集中したとしても、ソハ政治の實權は行政政府内の共産黨の手に掌握さるゝといふことにはなるのであるまいか、若しも左様になつたとして其時はエスエルエスデ等はオメ／＼伴食に甘んじて居るであらうか、或は早晚行政政府の一部に辭職問題が持ち上がるではあるまいか、吾人は思ふ彼のロザノーフの失脚後當地に於て出現したる浦潮臨時政府の聯合内閣と州國民議會とは、彼のチタに召集されたる憲法議會と將に出現せんとする、聯合行政政府とを縮小したものに過ぎぬ、故に浦潮における州國民議會を以て憲法議會を推せば、當らずとも遠からざりし如く、浦潮臨時政府の聯合内閣を以て將に出現せんとする極東共和國の聯合行政政府を推せば、亦當らずとも遠からぬであらう、浦潮の州國民議會は共産黨が多數を占むる、農民派を率ゐて他各派を制御したるが如く、チタにおける憲法議會もそれと同様であつた、浦潮臨時政府の聯合内閣の一部には絶えず動搖更迭があつた如く近く出現せんとする、極東共和國の聯合行政政府の内閣もそれと同様の経過を繰り返すのであらう、吾人の此觀察が誤たずとすれば、今後に於ける極東の政局が幾變遷を重ねるとするも、所謂夏を以て般を推し得るのである、但し其間にセミヨーフ、カツ

ベル、ウンゲル等の運動が進展したならば其時は別問題である、之を要するに共産黨は大勢を左右して着々實權を其手に收むるに巧妙なることは、實に感服せざるを得ぬ併しながら如何に對内政治に成功しても、對外政治に於て一步を誤れば其功一簣に缺くのではあるまいか共産黨の當に意を致すべきは此に在つて彼に在らぬと思ふ。

### 政界を横斷せよ

過般非社會黨大會なる者が組織されて一二回會合があつた、其後同會の活動は是れといふ程の進展を見ない、所が此度極東民主同盟團といふ政社組織の宣言書が發布せられて入團者募集中である、發起者中には前浦潮政府の陸海相ボルドウイレフ、財相チンメルマン、外相キノグラードフなど歴々の外にヤクシーエフモラフスキーなどの顔觸も見える、以上發起人等の顔觸から察するに國民自由黨やら、エスエル其他無政府の有産階級などの合同とも見受けられる、それが宣言書にも共産黨乃至民主的原則に反對の政綱を有する、政派は参加するを得ず、其以外の民主的傾向を有する人士を網羅するのであるとの點より觀れば、無論共産黨若くは之に類似の政派を除きたる以外の政派の大同團結であることは疑いない、何れにして

も彼の非社會黨大會と謂はず、又今次組織せられんとする極東民主同盟團と謂はず、以前は個々分立して隱約の間に非政黨的行動をして居た連中までが團體的となり、且つ公然政黨的行動に出んとするのは、極東政界の進歩を語るもので、同時に非社會黨大會の後に承いで民主的傾向の各政派の網羅を目的とする、極東民主同盟團の組織されんとするのは極東政界の趣向の那邊に在るかを明瞭に語るものにして、覺醒の跡が著しく讀めるのである、就中國民自由黨に屬する連中が民主なる大傘下に合同せんとするに至りたるは、最も其然るを語るものである、元來デモクラシー即ち民主政治なる語は抽象的なると共に、甚だ漠然たるものにて此抽象的にして且つ極めて漠然たるデモクラシー、即ち民主政治なる語の下にはエスエルもエスデも亦共產黨も網羅せらるべきものであらう、唯だデモクラシー即ち民主政治を理想する政派の中にも、共產黨は極端にして徹底的なるに反して、エスエルエスデ其他は徹底的にして、且つ不徹底的であるといふ丈の差に過ぎぬのである、斯くの如く露西亞の各政派は非社會黨派を除く以外は、何れもデモクラシー即ち民主政治を理想するものである、彼の極端にして徹底的なる共產黨に反して徹底的にして、且つ不徹底的なる餘他の各政派合同して政界を縦斷又は横斷すべきものであるまいかと吾人の曾て論せる所である、然るに共產黨

を除く以外の各政派は、是れまで個々分立して之に當つて居つたので、何時も共產黨にシテ遣られたのみならず、左なきだに混亂紛糾せる政界をば、一層混亂紛糾せしめたる以外には何等得る所がなかつたのも、蓋し之が爲めであらう、然るに今回一部の人士がデモクラシー即ち民主政治なる抽象的にして、且つ漠然たる標語なるに拘はらず、之が大傘下に合同せんとするに至つたのは上述の如く、極東政界の進歩又は覺醒の跡を語るものにして、吾人は大に之を歓迎して措かぬのである、所で吾人は大に之を歓迎すると共に甚だ時機を失したるにあらざるかを疑ふ者である、吾人の所見を以てすれば斯る大同團結は、彼の憲法議會召集以前にあつて欲しかつたのである、彼の憲法議會召集以前に於て此舉に出で、且つそが選舉に際して極力協力して競争したらんには、彼の憲法議會に於ても今日より以上の勢力を占むることが出来たらうと思ふ、且つ彼憲法に對しても同派の理想をより多く實現することが出来たのであらうと思ふのである、然るに今は然らず彼の憲法議會の大勢を觀るに、共產黨は農民派を操縦して多數を制して攻勢を以て之に臨むに對して所謂デモクラシー、即ち民主政治を標榜するエスエルエスデ等は常に意見を異にし個々の行動をし居つたらしい、現にエスエルは聯合政府に参加せんとして居るに反してエスデは自派の主張を支持して、今猶ほ未決定

中に在るといふではないか、憲法は既に制定せられ政府は將に組織せられんとする時に當りて極東民主同盟團を組織せんとするは所謂六日の菖蒲十日の菊の感があるのである、然り甚だ時機を失したるの感なきにはあらざるも、併しながら果して斯る大同團結が組織せらるるものとすれば何れ國民議會の選舉も今秋中に行はれることであらうから、晩蒔ながらも萬更無益の業ではないと思ふ。唯だ吾人の疑問とする所は民主的傾向なる大傘下に其理想するが如き大同團結が實現するや否やである、勿論當浦潮丈に於ては實現するであらう併しそれ丈では彼の非社會黨大會と同様に何等進展を見ずして終るのではあるまいか。

### ク氏の福音に就て

戦争に繼ぐに革命を以てせる露國は産業の荒廢と共に、物資の缺乏せるは勿論兄弟牆に閱き血を以て血を洗ふ慘劇を演じたる結果、著しく人材の缺乏を來せる觀がある、特に極東に於て此感を深くするのである、物資の缺乏より來たれる各階級の生活の慘狀も去る事ながら人材缺乏の結果は國亂を長引かせ極東統一の期を少なからず遅延させるであらう、是に於てか物に比較して人の如何に貴いかが泌々諒解さるゝ譯けである、最近チタより歸着せるスキ

キールスキ氏の談に據れば、彼地に於ては政治機關編成に全力を注いで居るが如何せん人材の缺乏には物資缺乏以上に困つて居るとの事である、コハ左こそと察せらるる勿論露國は濟々多士ではあるがそれにも拘はらず、人材缺乏を感ずるといふのはソハ他でも無い、舊國家を破壊して新國家を創立せんとする時代に必要なる適材に缺乏して居るのであらう、人材の多くは舊國家の形式に囚はれて了まつて、而して破壊されたる舊國家の後に繼いで將に實現せんとする新國家に對する理想と經綸とを有する人材が缺乏して居るのである、蓋し革命の際には何國を問はず新人物の缺乏は共通の遺憾である、露都に於て革命の烽火揚るや極東は邊陲の地なるに拘はらず比較的人物が四方から競ひ起つたのである、是れといふのも帝政時代における憂國の志士の多くは何れも極東に流謫されて居たからであらう、然るに兄弟牆に閱き血を以て血を洗つた結果、此等人知れず犠牲的最後の途げた者が多數あるのである、吾人の知れる範圍に於て之が二三を擧ぐればスハーノフ、ムーヒン、ウーツキン、ラゾーの死の如きは即ちそれである、彼の革命の波に漂はされて極東に落ち延びて來た、連中の中には高位高官に在つた肩書を有して居る者が澤山あるが、併し此種の手合は大平の時代に於ける裝飾物であつて、國家創業の時代に於ては殆んど無價値の人物である、斯く觀じ來ればチ

タに於て政治機關編成に際して人材の缺乏は物資の缺乏以上に困つて居るといふことは、尤な譯で大に同情の感に堪えぬのである、人材の缺乏は極東統一促進の上に一大支障であるコハ蓋し獨り極東に於て然るのみならず、勞農政府の御大レーニンも此點に就ては定めて同感であらう、革命の風を望んで四方より競ひ起つた極東における新人材中、上記のヌハーノフ、ムーヒン、ウーツキン、ラゾー等が相前後して奇禍に罹かつて犠牲の最後を遂げた中に、同一味の二人なるクラスノシチエコフ、ニキホロフの兩人が九死の中に一生を得て、極東新國家建設の上に再生活的活躍をなしつゝあるは革命劇を飾る極東の大立物として吾人に少からず感興を興へつゝあるのであるが、此兩人を除く以外には精力と主義に對する忠實とを以て兩氏に次ぐ新人物の在ることを聞かぬ、それに就けても吾人は極東の統一上兩氏の健在を切望して止まぬ次第である、然る所二三露紙の傳ふる所に據ればチタに於てはクラスノシチエコフ排斥の聲高く、彼に代ゆるにニキホロフを以てせんとするの議がある、そうだが是れは何れ兩氏を圍繞する周圍の意嚮であつて、兩氏の勢力争ひなどより起りたるそれではあるまい、農勞露國の運命はレーニンとトロツキー兩氏の管鮑的關係如何に懸りて存するが如く極東統一の運命も、今や正にクラスノシチエコフとニキホロフ兩氏の管鮑的關係如何に懸つ

て存するのである、ソコデ吾人は極東統一の爲めに兩氏を圍繞する周圍の空氣の如何に拘はらず兩氏間、常に肝膽相照らす底の關係を持続するの必要を認めるのである、只だ茲に吾人の憂慮に堪えぬのは一度傳へられたるクラスノシチエコフの病死の報が全く虚報であることが解かつた矢先に昨日のハルビン電報は再び彼の病死を傳へて居ることのそれである、數年間に亘つて具に奇軀艱難を嘗めた、彼は辛ふじて極東統一の山が見えたので多少氣が弛んだ所を病魔に乗せられて志を齎らして他界せぬとも限らぬ、尤もレーニンが幾度か死を傳へられて死なざる如くクラスノシチエコフのそれもレーニンのそれと同一かも知れぬ、兎も角人材缺乏の折柄、吾人は極東の統一上衷心よりクラスノシチエコフとニキホロフ兩氏の健在を祈る者である。

### 歐露の騷亂說に就て

又たしても歐露に於ける騷亂の風說が傳えられて居る、出所は相變らず英米である是れまでも何度か英米に依りて歐露における騷亂の風說が傳えられたが、何れも所謂政略宣傳が多かつたので、爾來英米に依りて傳えらるゝ歐露に關する風說なる者は狼來れり、狼來れり

の叫び聲と同様に今日では餘り信用が無いのである、然り英米に依りて傳えらるゝ歐露に關する種々の風説は狼來れり、狼來れりの叫び聲と同様であると思ひながら兎も角も之を傳えらるゝ毎に之を聞く者をして所謂市に三虎あり曾參人を殺すの感を起さしめるのである、勿論火の無い處には烟は起らぬの諺もあるが如く、何れ多少それに似寄つたことがあるので、それを針小棒大に傳ふるものと思へば當らずとも遠くないのであらう、唯だ斯様な風説は兎もすれば露國の革命に反感を抱いて居る者をして、半信半疑の念を起さしめ従つて混沌たる露國の現状を永引かしめ容易に其定まる所に定まらざらしめるもので、非常に罪が深い様である、ソコデ斯る風説に對して吾人は常に一定不動の見解を立てて置いて之が爲めに左右されない丈の明を養つて置くことが必要であると思ふ、特に對露關係に於て行詰りの状態に在る日本にとりてそれが必要である、吾人の所見を以てするに勞農露國に於ては無論今後幾多の波瀾曲折は免かれぬであらう、けれども併しながら復辟などは到底得て望めないことは如何に革命反對の者でも感念して居るのであらう、若し復辟は到底得て望めないとすれば其得て望まんとする者は立憲民主政治位であらうが、併し今日の勞農政府を轉覆して立憲民主政治を建設せんとせば、是れは第三次の革命である專制政治の王朝を轉覆して立憲民主政治を

建設した第一次革命は朽木を倒すが如く、朝飯前の仕事であつたが之に反して共產政治の勞農政府を轉覆して立憲民主政治の世に引戻さんとする、第三次革命は彼の專制政治の王朝を轉覆して立憲民主政治を建設せんとしたる、第一次革命に比較して多少困難であるまいか、何となれば專制政治の王朝なる者は人民に立脚して居らなかつた、而して兩脚が地から離れて居つた、之に反して共產政治の勞農政府は名稱自詮、兎にも角にも勞農に立脚し又立脚せんとして居るのである、去れば第一次革命は王朝對人民の衝突であつたが、第三次革命が起るとすれば人民對人民勞農對勞農、若くは資本對勞働の衝突となるのである、假りに第三次革命に立憲民主派、即ち資本階級が勝利を得て政權を握つたとしても、其政府は現在の勞農政府に比較して其基礎は薄弱であるまいか、何故ならば、立憲民主政治は資本階級に立脚せんとするので其人民に立脚せざる點に於て、專制政治と五十歩百歩であるからである、此資本階級に立脚せんとしたるケレンスキ政府が、專制政治の王朝と同様に朝飯前に轉覆したのは論より證據である、故に立憲民主政治が第三次革命に成功して勞農政治に取つて代はつたとしても、其之が基礎の鞏固を圖らんとするには何れ資本國の支援を仰がねばならぬであらう、換言すれば資本的に諸外國の屬國とならねばならぬのである、若し斯うなれば露國は

永久に内亂が繼續するのみならず、四分五裂となるであらう、是れは不幸なる露國に更に不幸が加はるのである、是に於て吾人は勞農露國の今後は尙ほ幾多の波瀾曲折を免がれぬもの彌々とするも立憲民主政治が勞農政治に取つて代らんとする、第三次革命が上記の如く發展するものとは豫想出來ぬのである、然らば昨今傳えられつゝある勞農露國の騷擾なる者が果して事實とすれば第三次革命の傾向を有する騷擾であらうか、如何と察するに彼傳えられつゝある騷擾が事實としても、夫は第三次革命の傾向を帯びた夫ではなくて勞農政治同志間の權力争と勞農階級の生活状態に伴ふ不平に乗じて赤大根等が仕組んだそれではあるまいか、吾人は如何考へても勞農露國の今後吾人の所謂第三次革命の傾向を帯びた動亂が發展するものとは豫想出來ぬのである、若し發展したとすれば其時こそ露國は内亂繼續して四分五裂となり其極は滅亡があるのみであるからである、因つて吾人が露國の將來の爲めに望んで措かざる所は彼の勞農政治反對者も吾人の所謂第三次革命は之を斷念し、而して内外の大勢に立脚して彼の勞農政府が矛盾と行詰りに出合ひたる毎に之を指導し、善導の策に出づることである、蓋し此に出づることが之が現在の露國を救ふ上に於て唯一の最善の策であらうと思ふ兎も角、今後共吾人は彼の英米等に依りて傳えらるゝ勞農露國に關する種々の風説に對し

ては大體上述の如き見解の下に之を解釋しようと思ふのである。

### 英斷的善政

州政廳は過般來諸官衙の文武吏員淘汰案に就て審査中なりしが、今回其發表されたる結果に據れば諸官衙を通じて六千人の文武吏員を淘汰することに決したそうである、而して此淘汰せる文武吏員の多數は之をチタ政府に向けて送附けて彼地に於て奉職の道を與へるそうだが州の一角に於て一舉して六千人の文武吏員を淘汰するといふことは大英斷であると共に、是迄まで斯く多數の冗員を抱擁して居た、洲諸官衙の寛大なる點に就て何共感服せざるを得ないのである、元來露西亞といふ國は文武吏員の多い國であつた即ち高等遊民的月給取が非常に多かつた國である是れは官僚政治の餘弊であらら、勞農革命が勃發したのも畢竟するに之が爲めである、然る處勞農革命の結果職を失つて不平に堪えざる彼の高等遊民的文武の月給取等の多數は極東を指して落ち延びたのである、而して浦潮は以上高等遊民的文武の月給取等の避難所又は收容所となつたのである、勞農革命に對して反對の高等文武顯官等は己れが政權を取るや、彼等高等遊民的文武の月給取等に職を與へて而して勞農革命反對の味方にし



たのである、左なきだに財政困難に陥りつゝ、ありし洲諸官衙が何時も各吏員の月給支拂問題に對して苦んで居つたのも其筈である、然るに今回洲政廳が是等高等遊民的文武の月結取等に對して一大淘汰を行ひ之をチタ政府に向けて送り附けるといふことは、近來見上げた英斷的善政である、上述の如く彼の勞農革命に依りて失職の結果不平に堪えざりし高等遊民的文武の月給取等の多數は何れも極東を指して落ち延びたので、彼の地に残つた者は勞農階級のみとなつた其結果、新國家の組織の下に行政機關を運轉するに當りて自然適材の缺乏を感ずるに至つたのであらう、チタ政府が政治機關編成に當りて人物の缺乏は物資の缺乏以上に困却して居るとは思ふに此間の消息を語るものであらう、然るに今は洲政廳が大英斷の下に當地の收容所又避難所に集合せる以上高等遊民的文武の月給取等に一大淘汰を行つて、之を彼地に向けて逆送するといふことは、舊國家の遺産利用即ち人物經濟の上から見て妙案なるのみならず勞農革命に依りて職を失へたる不平分子の不平も、大に緩和さるゝ一方極東統一のチタ政府の基礎を鞏固にする上に於ても、誠に機宜を得たる策であると思ふ、斯くして極東統一の中央集權たるチタ政府は彼の勞農革命に對する不平分子の不平を緩和して、益々其基礎を確固にするのみならず、勞農革命の爲め職を失ひたる彼の高等遊民的文武の月給取等も安

全なる就職の道を得て生活が保障さるゝことになるであらう、尤も此内無智無能の者は永久に淘汰されて自力的生活の道を立てねばならぬのであらう、けれども之に反して一技一能ある者は之を優待することは勞農政治の主眼であるから、彼等も始めて勞農政治の何物たることを理解し得て終には之を謳歌するに至るかも知れぬのである、元來革命以前の露西亞は高等遊民的文武の月給取の數が多きに失したのである、それで彼の勞農革命が起つたのである、洲の一角内に於て六千人の文武吏員を淘汰すると聞いてよくも是れまで斯る多數の冗員を給養して居たものと誰人も呆然たらざるを得ぬであらう、露國の革命は何のことは無い日本の御維新である、日本の御維新に依りて地位を失ひたる武士階級は一時は明治新政に對して極力反抗したものである、併し明治新政府は此御維新に依りて地位を失へたる舊國家の遺産たる武士階級中の一技一能ある者を其後文武の吏員に採用したので、反抗が漸次緩和された其中無智無能の者丈は高等遊民的安樂逸居の夢から覺めて自分の力相應の生活を送らねばならぬことになつたのである、吾人が此説をなすは他でもない日本人は往々にして露國の勞農革命を曲解する者もある、此曲解は兎もすれば日本の對露政策を邪路に導かぬ限りも無い、ソコデ吾人は常に公正に之を研究する必要があると思ふからである、兎も角洲政廳今次の諸官

衝の文武元員一大淘汰は實に英斷的賢明の政治である。

二二八

### 緩衝國の前途

憲法會議員としてチタに赴きたる浦潮國民會議長マンヌウエートフ氏が、當地エヌエル派に宛てたる電報なりとて傳えらるゝ所に據れば曰く「余は無事に到着し目下奔走中である、聞くが如くは共產黨は民主的緩衝國建設の命令に接したらしい、各議員は須らくチタに集まるべし、途中は頗る安全であると又當地の共產黨の接受せる報導なりといふに據ればモスクワより歸着せるニキホロフは、如何なる場合に於ても憲法議會の權能を侵害せざること共產政治半共產政治の經濟制度施行を許さず、資本主義の民主政治を建設せよとの勞農政府の意圖を受けて來たそうである、而してニキホロフ氏がチタに歸着と共にクラスノシチエコフの勢力と地位に動搖を來たして居るそうである」と以上の報道中前者はマンヌウエートフ氏のエヌエル派に宛てたもので、後者はゴーロス紙の報導である。ゴーロス紙は資本主義民主政治主張者であつて同時にクラスノシチエコフ排斥者の旗頭であるから、その報道に對しては全然信を措くことは出來ない、けれどもマンヌウエートフ氏の報導は自派に宛てたもので

あるから幾分信を措くに足るであらう、若しマンヌウエートフ氏の報導が幾分信を措くに足るものとすれば、勞農政府は極東に資本主義民主政治の緩衝國を建設する意向を有して居るものと想像されるのである、蓋し勞農政府は極東に於て資本主義の諸外國と衝突を繼續することは本意でないのであらう、それに極東通のニキホロフがモスクワに滞在中に極東政情に關する説明を聽いて極東に共產政治、又は半共產政治の經濟制度を施行するの不可なることを確信するに至つたのかも知れぬ、何れにしても勞農政府の周圍の政勢に對する觀察は賢明であると謂はねばならぬ、何故なれば全露を擧げて一擧して共產政治の國とすることは決して出來ない相談である、此出來ない相談の爲めに極東に於て資本主義の諸外國と衝突を繼續して其吞吐を閉塞して居るといふことは、自分で自分の喉を締めると同然であるからである、ソコデ勞農政府は極東をば當分眼中に措かないで極東に於ては一日も速に資本主義の諸外國と交綏したいといふのであらう、果して然らば極東の政局に當る連中も、此勞農政府の意嚮を體して其方針で進むことが同政府に對する忠義であらねばならぬ、所で極東に共產政治の實現に對して反對しつゝある、資本主義の諸外國は彼の極東政府が勞農政府の意圖を受けて極東に共產政治を行はないで、資本主義の民主政治緩衝國を建設するといふことになつ

二二九

たならば、それで安心が出来るであらうか如何か是れは實に吾人の一大疑問とする所である。蓋し勞農政府が極東に共產政治の施行を中止するのは、是れぞ所謂共產黨にとつての臥薪嘗膽である、假りに極東政府が資本主義の民主政治緩衝國を建設して個人の資本を承認したとした所で勞農階級が既に赤化して居る真中で個人の資本が完全に活動することが出来るであらうか、一步を譲つて個人の資本が完全に活動し得るとしても勞資の衝突は絶えず繰り返へされるであらう、斯くて資本主義の民主政治の極東緩衝國に向つて活動せんとしたる個人の資本は之を觀て遂には退却することになるのではあるまいか、斯うなると勞農政府の極東には共產政治を施行せぬといふ譲歩は一時的紙上の譲歩であつて、事實は不譲歩といふことになるのである、又斯んな事も豫想して置くことが必要であると思ふ、それは資本主義の諸外國の力を利用して極東に資本主義の民主政治緩衝國建設を主張して居る、彼のゴロソ紙を中心とする極東の有産階級一派は、其主張が貫徹して個人の資本が承認されたる場合に彼等は先づ何國の資本と提携せんとするであらうか、恐らく率先して日本の資本を排斥せんとする者は彼等ではあるまいか、之に反して日本の資本と提携せんとする者は或は案外にも日本に對して反感を抱きつゝある共產派であるかも知れぬ、此點は今日とは正反對の現象を提

出せぬとも限らぬであらう、最近の情勢から推して兎も角極東政府は表面資本主義の民主政治緩衝國を建設するものらしい、その之が前途に對して今から種々の想像を逞ふして見るも決して無用の業でないと思ふ、因て吾人は茲に吾人の想像の一端を提示した譯けである。

### 失業者問題

各方面の報導に徴するに當地方に於ては、失業者の数が日増に増加し之が處置に就ては大分弱つて居る様である、而して此等失業者の或者をチタへ向け送り附ける計劃もある様である、蓋し失業者の増加は獨り當方面におけるのみの問題でなくて世界共通の問題である英國におけるその如きも實に驚くべき數に上つて居るさうだ、日本などに於ても同問題は有識者間の注意を惹いて居るらしい、齊しく失業者増加の問題ではあるが當方面におけるそれと日英其他の諸外國におけるそれとも少し選を異にして居る様である、諸外國における失業者増加は製産過剰に伴ふ恐慌の結果、産業の縮小から來て居るらしいが當地方におけるそれは資本革命の結果經濟産業の根本組織改造の過渡期に際し、各種の經濟産業機關が解體状態に陥つたのに原因したのであらう、斯んな譯であるから日英其他の諸外國の失業者増加問題は

製産過剰から来た、産業經濟の恐慌の安定するを待つより外はないのであるが當方面における同問題は共産政治が完成して經濟生産の諸機關が公營に移り、之に依りて就業の機會を得るまでは公の力の給養を受けねばならぬのであらう、當方面における共産政治の諸機關は彼等失業者に對して種々救護の方法を講じて居る様であるが、既に率先して舊來の産業經濟の組織を根本から變改の衝に當る者は之が結果として發生せる失業者増加問題に對して當然救護の義務あることは勿論である、兎も角原因の如何は別問題として失業者の増加問題は産業と經濟の破綻であると共に社會解體の一部曝露なれば頗る重大問題にして等閑に附すべからざる問題である、而して同問題の起る毎に資本家資本政治の下に在る産業經濟界の根本組織の筈が弛むのである、斯れば資本革命を理想する連中は同失業者増加問題を見て奇貨措くべしとして之を利用すべく大に歓迎する傾向があるのである、其然る所以は彼等失業者は必ずや一大煩悶に陥るのである一大煩悶の結果は一大怪疑に陥るのである、一大怪疑の結果或者は現在の經濟産業の組織の根本に向つて、反抗心を起し或者は廢頽又は卑屈化するのである、彼の資本革命を理想する連中が失業者増加問題を奇貨措くべしとして大に之を歓迎、且つ利用せんとするのは彼の失業者の煩悶に次いで起る怪疑をば彼派理想實現の動機たらしめ

んとするのであらう、何れにしても失業者増加問題は今後時々起る問題であると共に各國共通の問題である、而して同問題の起る毎に資本政治の下に在る現在の經濟産業の根本組織の繩を弛むる動機たることは疑ひなく、従つて經世済民を以て任ずる者の大に注意を要する問題である、否將來における政治の中心點は此問題解決を除いては外に無いと謂つて宜いのであらう、而して露國の革命なる者もツマリは上記の中心點から發生したのではあるまいか、經濟的に産業的に解體せる露國々民は農民を除く以外は何れも一時業を失つたのである、而して革命の衝に當る連中は彼の解體せる經濟と産業を新しき組織の下に之を改造し、且つ收拾して以て農民を除く以外の一時業を失ひたる國民に業を與ふべく奮闘して居るのが露國の現狀である、換言すれば露國は各國を共通して將に續發せんとする問題に對して一足飛に且つ根本的に之が解決に着手し、而して一氣呵成に之を完成せんとして居るのである此過渡期に處して之が犠牲となつて居る國民生活の慘狀は實に氣の毒な者である、而して是れまで此革命に反抗を繼續したる極東は不換紙幣を亂發して防戦に努めた、併し亂發した不換紙幣は價值を失つて了まつた、次に硬貨を以て之に代えた而して硬貨も漸次海外に流失して了まつた鐵道は石炭代缺乏の爲めに運轉を中止せんとして居る、各官衙各工場を通じて各吏員各從

業員の月給支拂に窮して居る、其極之が解雇と淘汰を斷行の已むなきに至つた而して茲に失業者増加の問題の起るのは順序上當然である、失業者増加問題は力の分配問題であると同時に富の分配問題である、露國の革命は深刻の極であると共に慘憺の極である露國以外の諸外國における失業増加問題は僅に煩悶に一步を踏み込んだ丈である、之に反して露國の革命は煩悶と怪疑とを飛び越して今や消極と積極の二様の反抗の争闘である、消極の反抗を繼續せる極東が各種の経過を通過して今や失業者増加問題に逢着して居るのである、是れ蓋し斷末場である、吾人は革命の當局者が此斷末場を如何に解汲するかに就て多大の興味を以て之を傍觀するであらう。

### 母體の滅亡

當地の露國婦人のプロレタリアート大會が開催されたることは、既報の如くなるが同會は病院工場等に奉公中の婦人プロレタリアートの代表者の來會者四十一名あつたそうである、而してゲヂ女史の勞農露國に於ける婦人プロレタリアートの状況に關する報告演説ありたる後大要左の決議をした『妾等は勞農露國に於ける婦人プロレタリアートの地位向上を祝賀す

ると共に當地における妾等も之に倣ひ良人に死別せる婦人の救護婦人プロレタリアートの地位向上を圖る一方教育機關俱樂部子供養育院等を開設の必要を認むる』といふのである露國に於ても是れまで世界並に種々の婦人會之れ無きにあらざりしも、多くは例の慈善などを目的とし其實一種の交際機關であつて彼の婦人プロレタリアートの地位向上とか、又は生活保護の目的より成れる、それは無かつた様である此點に於ては今次開催されたる婦人プロレタリアート大會は嚆矢であらう、尤も同會は同會の事業として上記決議に在る通りの計畫もある様であるが、何を謂つても先立つ者は金であるから之が實現は不可能にして或は單に宣傳に終はるかも知れぬ、何れにしても現在の露國にとりては同會の計畫の如く婦人プロレタリアートの自覺と活動は大に必要であらう、革命と共に老若男女を通じて露國の各階級は何れも悲惨の境遇に陥て居る様である、良人に戦没されて數人の遺子を抱いて路頭に彷徨ふ者は勿論として勞農露國よりの歸客談に據れば以前は榮譽榮華の生活を送り、何不自由なかつた有産階級も革命と共に財産は一切沒收せられたる上に物資缺乏し、饑饉状態に在る今此頃は其昔贅澤の限りを盡したる令夫人等も毎日々々其日々々の食事調達に憂身を窶して居るそうである、元來婦人なる者は自活力が無いのである且つ其多くは娛樂用され、人格を認められ

なかつたのである。コハ現在の社會が未だ非文明の域を脱せざることを語るものであると共に斯くて何時までもあるべき筈のものでない、最近各國を通じて婦人解放と獨立の叫びを聞くに至つたのも自覺の曙光を告ぐるのではあるまいか、兎も角既往及び現在における婦人の多數は自活力を有せざると共に物品扱ひを受けて居るのである、去れば一朝誤れば愛を賣るより外には生活の方法が無いのである、婦人が愛を賣つて生活するばかりでなく男子も愛を買つて生活して居る者もある賣る者も買ふ者も共に餓鬼である、而して婦人が愛を賣つて生活するといふことは母體の滅亡である、母體の滅亡は民族否人類の滅亡は國家の滅亡以上の問題である果して然らば母體擁護は實に重大の問題である、而して此母體擁護としては取り敢えず婦人に自活力を與へねばならぬのである、所が婦人に自活力を與ふると謂つても現在の社會組織では言ふべくして行はれぬ問題である、是に於て婦人國有論が唱えらるゝであらう婦人が國有となつて生活が保障されるれば、彼女等は生命にかけても愛を賣らぬであらう一方妻を養ふ腕が無いからとて獨身生活を送る男子も無くなるであらう、内に怨みの女なく外に恨みの男なし斯くて愛の賣買は其跡を絶つのである、而して愛本位の社會が實現するであらう、只だ併し斯んな社會は近き未來に於ては到底之が實現は得て望めないのである、それか

と謂つて現在目の前に母體が滅亡しつゝあること又は事實である、此事實は之を何とかせねばならぬのである、各國を通じて母體は滅亡しつゝある其中にも露國の現在は非常の速度を以て滅亡しつゝあるのである、砲煙彈雨の中で數萬の人類が殺傷するのを見て野蠻だといふけれども太平無事の世の中に幾多の母體が滅亡し行くのも酸鼻の極である、之に對しては何等か應急の策を講せねばならぬのである、彼の婦人プロレタリア大會が開催さるゝに至りたるも此應急の策を講ずるの必要を認めたらう、同會は先づ良人に死別せる婦人を救護し且つ婦人プロレタリアートを教育して自活力を與ふると共に子供預所を設けて之を飼育しそが勞働を補助せんとするに在るが如きも、サテ經濟的にも産業的にも根本的に解體せる目下の露國に於ては之が實現は恐らく不可能であらう、不可能であらうけれども觀過することは出來ぬ觀過すれば母體は日々に滅亡し行くからである、而して母體の滅亡は民族否人類の滅亡であつて國家の滅亡以上の問題であるからである、觀じ來れば吾人は露國の革命に學ぶ所實に多大である。

## 爆 發 論

二二八

昨冬一萬内外のカツベル殘軍が入州して以來、尼市を中心として極東の一角は絶えず不穩の空氣を以て掩はれ吾人をして何れ事なくては止まぬだらうと思はしめ、而して彼の非社會黨大會の開催前後から空氣は兎角緊張し來り、今にも政變の勃發するが如く種々の流言蜚語が頻々として傳えられたが、一昨三十日の夜半に至り頭爆發した然るに此爆發は失敗に終つた様である、勿論尼市を中心として爆發したのであるから或は彼の地に於ては成功して居るかも知れぬ、且つカツベル軍は續々南下して來る形勢があるから此爆發は一昨夜半におけるそのみにては終結を告げぬかも知れぬ、それは兎も角として此爆發の目的は一體奈邊に在りて存するであらう、ソハ謂はずもがなで、彼のカツベルセミヨノフの殘軍を中心として反動派が一團となりて極東の一角を占領し、此處に白色の政權を樹て進んでは極東全體を白化しやうといふのであらう、過般召集されたる非社會黨大會が此爆發に關係があるとか無いと議論がある様であるが、ソハ論議の限りではあるまいそれから、彼の過激派とは不俱戴天の關係を以て惡戰苦闘を續け、其極數萬哩の長途を突破して當地に落ち延び窮鼠の境遇

に在る、彼のカツベル殘軍が此儘過激派に屈伏し了ふといふことはサズ殘念であらう、ソコで最後の一戦に於て東方露西亞に於ける咽喉とも謂ふべき當地を中心とする極東の一角を占領し進んでは極東全體をも白化し、而して被れ是れする間に西伯利又は歐露の各地に於ても反過激軍が所在に蜂起し、斯くて狂瀾を既倒に廻すことを得ば實に壯快此上ないのであるが、併しコハ中々容易の業でないと思ふ何となれば此回天の大業を成し遂げるには内外を通じて天時人事共に機の熟せる時を待たねばならぬのである、而して今次における彼のカベツル軍の爆發は果して吾人の所謂時機を得て居るであらうか、如何がは吾人の甚だ疑問とする所である、一昨夜々半におけるそれが稍々失敗に終はれるが如き形跡あるも之が爲めではあるまいか假りに一步を譲りて一昨夜々半の爆發が成功したりとして、其結果は如何うなるであらうか、尼市を中心とする極東の一角の政權は頼つて以て白化することが出来るのであらう、此極東の一角の白化は露國の爲めには東方に於ける咽喉を扼されたのであるから苦痛には相違ない併しながら露支國境が開放された、今日は彼のザバイカル州が白化して居た當時に比較すれば苦痛の程度が少いのであらう、それに極東の一角の白化と共に西伯利又は歐露の各地に於ても響の聲に應ずるが如く爆發が續發することもあらば實に愉快であるが、之に

二二九

反して極東の白化を聞いて稍々弛緩せんとしつゝありし人心の却て一致團結を促がさぬとも限らぬのである、それから斯る爆發を試むるに當りては、之に對して日本が如何なる態度に出づるであらうかといふことに先づ以て考慮を拂はねばならぬのである、何派を問はず其守備區域内に於て武力行動をなすは斷じて之を許さぬことを聲明したる日本軍は斯る爆發は默過することは出来ぬのである、然るに之を是れ思はずして爆發を敢てするのは輕舉暴動といふものである、果然日本軍は彼等に對して武装解除を行つたので爆發は少時間にして熄み甚しく安寧秩序を害されずに済んだのである、斯くて該爆發は適々以て日本軍の心事の公明正大にして且つ其態度の何處までも嚴正中立なることを證明すべく、好機會となつた更に吾人は彼の民兵隊なる者に就て一言したいのは他でもない、彼の民兵隊中にはカツベル軍に内通し之が爆發に加擔した者がある、彼等は首鼠兩端を持する者である安寧秩序の維持に任ずる彼の民兵隊が斯んな始末では誰に依りて完全に安寧秩序が維持さるゝであらうか、斯くては吾人は一日も安心が出来ぬのである、以上は現在の露國は安寧秩序を維持すべく自力の無いことも事實の上に曝露したものである、是に於てか彼の極東政府が二言目には日本に對して撤兵を云々するは全く理由が無いことになるではないか、之を要するに吾人は一事變ある毎

に日本軍の態度と心事が益々明白となると共に露國の實情が曝露され彼が内外に對する要求が何等根據を有せざることとを喜ぶ者である。

### 民族的反感

復活祭前に頻りに政變説が傳えられ其筋にても警戒怠らざりしが、幸に復活祭は無事に済んだが、併し如何やら此儘無事では済まぬ様である政變を起して見ても、果して目的を達するや否やは別問題として極東は當分政變説は容易に止まぬであらう、二萬内外と號するカツベル軍が平和の勞働者に復歸するといふことも一寸と思もよらぬことである、それに蒙古に在るウンゲル將軍も着々準備して居る様であるから、チタの横腹を絶えず脅威するであらう一方カツベル軍が當方面に於て彼と東西相呼應して蹶起することもあらば、之を掃蕩するにしても疲弊困憊せる極東共和國にとりては、蓋し容易の業でないそれにウンゲル將軍の根據とする蒙古も、カツベル軍の横行して居る烏蘇里方面も、極東共和國にとりては糧道であり關門であるから、此方面に騒動の絶えぬこと脅威の伏在するといふことは極東共和國にとりては深憂大患であらねばならぬ、一體ザバイカル洲から擊攘されたるセミヨーフカツベ



ルの兩軍を始めウングエル將軍等が敗殘に次ぐに敗殘を以てするに拘はらず、殘喘を保つて反動を斷念せぬのは何故であらうか、其然る所以に就ては大に考慮を要する問題であらうと思ふ、露國の一派は諸外國就中日本軍が之を支援するから然るのであるといふ、けれども吾人の所見では決してそればかりでない、彼のセミヨーノフやカツベル兩軍それにウングエル將軍等の其此に至れる動機やら名分は反過激派といふに在る、けれども併しそんな簡單なものでなくて其根本は深く民族的反感に原因して居るのではあるまいか、彼のセミヨーノフのカツベル兩軍は謂はずもがな、ウングエル軍に至るまで其中堅ともいふべきものはコザツクがそれである、以て彼等の運動の根本は深く民族的反感が原因して居るのであつて、決して政治上の主義や政策に由來するものでないことが解かるのである、若しも彼等の運動が單なる政治上の主義やら政策に由來して居るならば、彼れ程までには執念強く繼續出來ぬであらう之に反して其根本原因が深く民族的反感に由來して居るから七轉八倒しても、今に尙ほそが運動を斷念することが出來ぬのであらう、帝政時代の露西亞特に建國時代の露西亞はカザツクに負ふ所が多いのである、否西伯利の征服はカザツクの事業であつたことは史實が之を語つて居るのである、然るに一大帝政を完成した後の露西亞は建國の殊勳者たるカザツクをば鬼

もすれば犬馬扱をせんとするのである、是れが彼のカザツクにとりて慊焉たらざる所であらう、而して極東はカザツクが征服し且つ開拓した地方であるばかりでなく、其人口も多數を占めて居るのである、去れば極東を歐露から分離さして共和國を建設せんとするならば、極東の民族中最も多數を占め、且つ征服者開拓者たるカザツクを中堅とするのが當然である然るに今は然らずして歐露からの落武者が彼の極東に於て多數を占め、且つ極東の征服者たり開拓者たるカザツクの支配者たらんるのであるから、是れがカザツクにとつて衷心最も慊焉たらざる點であらう、且つ斯くては彼の歐露からの落武者の唱ふる民族自治とか民族自決の大義にも背く所以である否彼等は民族自治、若くは民族自決を唱ひながら依然として帝國主義を踏襲して征服侵略を行はんとするものである、換言すれば彼のセミヨーノフやカツベル兩軍乃至ウングエル將軍等の運動は民族自治民族自決の名義の下に舊來の帝國主義を踏襲する征服と侵略に對する民族的反感に外ならぬであらう、それであるから彼等の運動は縱令諸外國の支援がなくとも容易に中止せぬであらう、それからセミヨーノフやカツベルの兩軍及びウングエル將軍の運動は其動機と名分が反過激となつて居る、けれども是れは彼等にとりて一生の不覺である運動の當初に於て、民族自治とか極東獨立とかの旗幟を掲げて内外相呼

應した方が彼等にとりて言正にして名順であつたらう、然るに彼等が反過激の旗幟を掲げて起つたのは大義名分に於て、早や業に彼の革命派に對して一着を輸した譯けである、因て吾人の彼等に望む所は今後彼等は反過激なる動機や名分を撤回して民族自治、又は極東獨立の旗幟の下に出直したら宜からうと思ふのである、而して之に對する彼の極東共和國なる者も眞實極東を歐露より分離して獨立共和せしめんと欲するならば、民族的反感を基礎として運動して居る、彼のセミヨノフやカツベルの兩軍並にウンゲル軍を是非共之が中堅としなければ所謂極東共和國なる者は絶えず、騒動と脅威とを免がれずして之が實現は蓋し不可能であるまいか、去廿三日の憲法議會はブリヤート蒙古族の提案に係る自治案を採用審議することになつた様であるが、是に由りて之を觀るも極東に於ける各民族の意嚮を略ぼ察することが出来るのではないか、憲法議會に自治案を提議したるブリヤート蒙古族等は自治權獲得で満足するのであるがセミヨノフやカツベル又ウンゲル等の武力に依りて代表さるゝ民族は憲法議會に依りて與へらるゝ自治權では満足出来ぬのである、名實共に極東の獨立共和を要求するのである故に若しも極東共和國が此要求を客れぬとならば、眞實の極東共和國は生れぬばかりでなく、邊境に於て騒動と脅威とが繰り返されて之が爲めに極東は當分安定を得

て望めぬであらう、極東の不安定は是れやがて歐露の不安定である、是に於て吾人は極東共和國に對し民族自治と民族自決の羊頭を掲げて舊來の露國帝國主義を踏襲して征服と侵略の狗肉を賣ることを止むることを忠告せざるを得ないのである。

### パンと石炭

生存競争弱肉強食に使用さるゝ利器は時代と共に變遷を免がれぬ是れは利器の變遷といふよりは利器を使用する形式順序の變遷と謂ふ方が或は適當かも知れぬと謂ふまでもなく中世前後に於ては生存競争弱肉強食に使用さるゝ利器は武力であつたに違ひない、其後蒸氣の發明や其他の關係から工業革命と共に彼の生存競争、弱肉強食に使用さるゝ利器としては資本が武力に代つた傾向がある、コハ即ち利器使用の形式順序の變遷と謂ふのであらう、此變遷が惹いて武力征服時代を資本征服時代に變化せしめた觀がある、併し武力と資本とは影と形の様なもので結局相離るゝことは出来ぬ、去れば武力征服時代は資本征服時代に變化したけれど更に資本征服時代は武力征服時代に逆轉せぬ限りはない、資本征服は遂には武力征服に頼らざれば確定するを得るのであらう、歐洲大亂の如きは此間の關係を語るものであると

共に資本と武力は影と形の如く相離るべからざることをも語るものである、而して武力と資本の關係を語るべく、勃發したる歐洲大亂の副産物として一方武力と資本の領有權に關する一種の戰爭が持ち上がった、此一種の戰爭の結果武力と資本の領有權は其何れの手に歸するかは未知數ではあるが、何れにしてもそれが領有權が移動する丈で、生存競争と弱肉強食の行はるゝ間は武力と資本とは依然として之が利器として使用せらるゝであらう、尤も武力と資本の領有權の移動は或は多少生存競争と弱肉強食の現状を變化せしめ、若くは緩和せしむるかも知れぬ、併しそれは前途遼遠である而して當分は資本征服の後に武力征服が続くと謂つた時代が繼續するのであらう、何れにしても武力征服の後に資本征服が続くといふ時代は既に去つたこと丈は明かであると同時に資本征服は、如何しても武力征服に頼らざれば確定を得ざるのであることも明かである、吾人の此言をなすは他でもない資本と武力とに對する領有權問題から在來の武力と資本とを根本から破壊、且つ解散したる露國は新なる領有者の手に新なる武力と資本とを建設せんとして居る、而して何を謂つても先立つ者は矢張資本であるから、之を何とかして外國から誘致すべく苦心して居る、而して極東共和國なる者は外資を誘致すべく矛盾を自告せる門口である、ソコデ此矛盾の門口の遠き將來は兎も角として近

き將來は吾人の所謂武力を背景とする資本の征服を免かれぬのであらう、別言すれば極東を征服せんと欲せば先づ以て何等かの形式を以て投資せねばならぬ、より多く投資した者が即ちより強き征服者となるであらう、之に反して資本的に征服せざる者は武力的に之を征服する權利を有せぬことになる、斯くて武力を背景とする各國の資本は今や如何にして極東を征服すべきかに就て相互に暗闘して居るのである、而して露國は矛盾の門口を開いて各國の資本をして此處に暗闘を演せしめようとして居る、資本征服の後には武力征服が続くものとすれば極東の將來は愈々益々多事なりと謂はざるを得ぬ、同時に日本の前途も愈々益々多事なりと謂はざるを得ぬ、是に於てか日本の對極東問題は重大問題であること多言を要せぬのである、然るに直接對極東問題の當局者は其の然かる所以を諒解して居らぬではないか、國民に至りては馬耳東風の觀あるのは甚だ以て遺憾である、沿海州代官に任命されたりとの風説ある外務次長コジエウニコフ氏は語りて曰く、余の任務に就て稍々満足の結果を得た積りである、極東に流入せんとする外資は増加の傾向がある、外國も露國の無政府状態と不秩序とが回復せられたること及び外資に對しては之に相當の利益を與ふべく、露國が保護の任に當ることを漸次諒解して來たのであらう、吾人は外資誘入に就ては獨り日本に對してのみなら

す英米とも交渉するであらう、云々。固より吾人はコジエウエコフ氏の言を待たずして露國が諸外國の資本を暗に暗闘せしめやうとの腹であることは略ぼ察して居らぬではない、ツマリ露國は大に外資を操縦し又は競争せしめんとするのであらう、彼の支那の諸外國に對するそれを露國も之を模倣せんとするのであらう、否模倣せざるを得ないのである、此意味から謂つて歐米の資本征服範圍としての支那が更に擴大されたとも觀るを得るのである、即ち日本の資本的競争範圍の擴大である、即ち東亞に於ける資本征服の生存競争弱肉強食の争闘の進展に外ならぬのである、資本征服の生存競争、弱肉強食の争闘の極は露骨なる武力征服が之に踵いで來ることを覺悟せねばならぬ、併しながら資本と武力とが相寄り相扶けて其威力を亂用することもあらば、其半面には此武力と資本の領有權に對する問題から露國におけると同様の一種の戦争の勃發を忘れてはならぬ、英國の同盟罷業が悪化しつゝあるなどは即ち是れである、英國は同盟罷業から石炭の缺乏を告げ、工場と汽車は半ば中止して居るさうである、露國の革命は麵麩に動機して居る英國の革命は石炭に動機せんとして居る、武力と資本の生存競争、弱肉強食の反面には麵麩と石炭の問題が伏在して居ることを忘れてはならぬ前途益々多事ならんとする日本に對して、吾人は此方面に對しても三省を促して止まぬので

ある。

### ブリヤート蒙古族の自治

チタ電報に據ればブリヤート蒙古族の代表者等は極東共和國の憲法に基き、ブリヤート蒙古族の自治會議創設の宣言を發表して居る、該問題は既に憲法議會に於ても上議せる問題にして憲法議會も承認の意を表したのである、元來露國は多數の民族を抱合し居る國であるが就中極東に最も其然るを見るのである、極東を歐露が分離せしめて獨立共和國を宣せしむることになつたのも主なる原因は此に在りて存するのであらう、而してコハ極東は最近露國が之を征服した地方であることを明白に自白する者であると共に、既往に於ける露國が如何に侵略に大膽でありしかに就て吾人の記憶を新にする者である、故に若しも露西亞が衷心昨是今非を體現せんと欲するならば、今次成立を告げんとする極東獨立共和國は名實共に之が全を期する誠意がなくてはならぬことは、吾人が機に臨み折に觸れて啾々して休まざる所である、然り極東をして獨立平和を宣せしむると共に極東に於て多數を占め、且つ歴史を有する民族に對しては努めて自治を與ふことは極東獨立共和國建國の根本義であらねばならぬ、

日本の希望に就て吾人をして腹藏なく披瀝せしむれば、日本は極東共和國をして是非共其實を擧げしめんとするに在るのである、而して必ずしも領土を占領せんとする者ではない、極東獨立共和國にして名實共に全を得るれば、既往に於て日本は露國より受けたる壓迫と脅威とを幾分之を緩和するを得るのである、否斯くして始めて所謂緩衝地帯の實を擧ぐる事が出来るのである、此意味から推て露國は沿海洲の如きは當然之を放棄すべき者であらうと思ふ、然るに露國の爲する所は然らず極東を歐露より分離し之をして獨立共和を宣せしめたるに拘はらず、ソハ單に表面のみにて露西亞の侵略の舊惡に對しては衷心昨是今非を體現せんとの誠意なく依然として征服的態度を踏襲せんとするのである、斯くては東西諸國に對する壓迫と脅威の非を遂げんとする者である、此壓迫と脅威とが撤回せられざる間は日本は國を賭しても反抗の擧に出ざるを得るのであらう、是に於て吾人の露國に對して希望して措かざるは他でもない、露國は日本に對する從來の壓迫と脅威とを根本より、之を撤回の誠意を事實の上に證明することである、露國が此態度に出でざる限りは日露の親善は愚か極東の平和は得て望めぬであらう、彼のブリヤート蒙古族に對して極東共和國は果して名實共に之が自治を承認するか否やは、吾人の眉に唾せんとする所である、何となれば之に由りて吾人は

極東獨立共和國の誠意の程度をも幾分拜見の榮を有するを得るからである、換言すれば日露の親善と極東の平和とは露國が既往に於て侵略し、征服したる極東をば全然之を放棄せざるまでも責めては極東獨立共和國をして名實共に全を得せしめざる限りは不可である、而して極東獨立共和國をして名實共に全を得せしめんとするには、嘗に一部民族の自治を承認するのみに止まらず、進んでは極東獨立共和國をば之を日露支三國の共同保護國として然るべき者であらう、露國が此位にまで交譲の態度に出でなければ日本の野心を云々する資格は無いのである、今や英國を始め日本の如きも勞資衝突問題が頻々として續出して居る、而して勞資衝突の問題の裏面には勞農露國の猛烈なる暗中飛躍が行はれつゝあることは、公然の秘密である、勞農露國の所謂對世界戰爭の策戦は世界各國の勞働階級の生活不安に乗じて、之を煽動し世界各國をして内部より崩壊せしめんとするのであらう、日本は露國の壓迫と脅威から免かれん爲めには上述の如く、極東獨立共和國をして名實共に全を得せしめんとするに在るのである、之が爲めには完全なる極東の獨立共和を實現せんとするのである、此目的の下に運動をなす者があらば之を支援するかも知れぬ、而して露國は之を稱して日本の干渉とか野心とか謂ふのであらう、けれども併し既に極東は獨立共和を宣したのであるから之が實を擧

げしむべく、之を支援するのは何等差支ないのであらう、勞農露國が世界各國の勞働階級の生活不和に乗じて之を煽動して世界各國をして内部より崩壊せしめんとする、運動の方が寧ろ反問苦肉策の最も辛辣なる者であるまいか、吾人はブリヤート蒙古族の自治宣言を讀んで極東獨立共和國たる者は名實共に之を承認すべきものなるのみならず、日露の親善と東亞の平和を實現するには露國は極東獨立共和國を日露支三國の保護國となす位の襟度がなくては駄目である、而して是れは決して日本の野心でも何んでもないこと繰り返して論ずる者である。

### 國境開放問題

チタ電報は近々ハルビン、ザバイカル間の鐵道開通すべきことを報じて居る、折角セミヨノフ、カツペルの兩軍を掃蕩して見ても、同鐵道の閉塞は極東共和國にとりて咽喉を扼されて居る様なもので一大苦痛であつたのであらう、極東政府が支那に對して常に讓歩的態度を仄かしつゝ、交渉關係を保持しつゝあるのも之が爲であらう、同鐵道開通に關して極東政府より提出せる條件は別項の通りであつて、支那が該條件に全然同意を表するや否やは未定の問題

なるが同條件に徴するも、極東政府が支那に對して如何に讓歩的態度を示しつゝあるかを知らざるを得ると共に同鐵道の閉塞は咽喉を扼されて居るが如く、一大苦痛であるかが察せらるゝのである、同鐵道開通問題は極東政府が之を切望して止まざるのみならず、北滿に於ける支那商人等も切望して措かざるのである、彼等は北京政府に向つてそれが開通を請願して居る其理由は、同鐵道の閉塞は北滿に於ける支那商人等をして窮境に陥らしめるとある、斯んな關係から同鐵道の開始問題を促進したのであらう、マジユリア東支々廳の發電に據れば同問題に關しては露支双方の協商成立せるが、只だ車輛交換方法丈が多少異議なきにあらざるも是れも解決の見込があるそうである、斯くて若しも久しく閉塞中に在つた同鐵道が開通するにも至つたならば商業は幾分景氣を呈して來るのであらう、尤も鐵道が開通して商業の路が開かれても財政も經濟も疲弊困憊の極に達し、殆んど購買力の無い極東露領を相手の商業が果して復活するであらうか何うかが疑問である、併し露國人の中にも金を持つて居る者もあるそうであるから開通と共に無論商業が生氣を帯びて來ること丈は疑ひないのであらう、所でザバイカルとハルビン間は鐵道が開通するとしてハルビンと浦潮間は如何なるであらう、ボクラニーチナヤゴデコフ邊は絶えず紛擾があつて交通に故障がある様であるが、若し然り

とすれば當地方がザバイカル、ハルビン間の鐵道開通に依りて影響を蒙るまでには、時日を要するではあるまいか、何れにしても同鐵道の開通は開通したといふ聲丈でも、窮緊せる商業界の空氣を緩和させるのみならず、險惡なる政治界の氣分をも幾分融和するではあるまいか同鐵道の開通に依りて政治商業の上に上述の影響がありとせば、何故に同鐵道を今日まで閉塞して居つたのか其理由が不明であるが、それは紛糾せる極東の政情範圍を局限する必要もあつたからであらう、兎も角も同鐵道開通問題は極東の平和的統一の發展の一端でもあり且つ對極東貿易復活の端緒とも見ることが出来るのであらう、支那や英國は露國と通商開始に就ては何度か交渉が繰返されて居る、其結果如何んな協約が成立するにしても但し交通の無い所には商業は成立しないのである、之に反して交通があれば盛衰は別として其處には何等かの形式を以て商業が行はれるのは自然である、同鐵道開始と共に對露貿易が如何なる形式に依りて開始せらるかの研究は一層確實を加へて來た譯である、在上海の英國商人等は當地の商業會議所宛商業開始の希望を申込んで來た、而して凡ゆる英國製商品の輸入を辭せぬと謂つて居る、凡ゆる英國製造品の輸入を辭せぬと謂つても全く購買力の無い極東露領に向つて商業の開始は望むべくして之が實現は容易ではあるまい、けれども双方に賣買の希望が

あつて之に交通が開始さへすれば何等か一致點が発見されぬとも限らぬ、何れにしても斯る過渡期における商業は冒險を加味することを免かれぬと共に犠牲も加味さるゝのである、支那商人が對露貿易に對して常に義を捨て實を取り、比較的成功しつゝあるのは彼等は商業にかけては大膽であるからであらう、此商業にかけて大膽なる支那商人の勢力範圍に屬する北滿とザバイカル間の交通が開始されたといふことは大に注目を要する問題であらう、蓋し同問題は實現するや否やは別問題として、對極東貿易の形勢變化上輕々看過する能はざるを思ひ、吾人は茲に内外の注視を促す所以である。

## 駐兵か撤兵か

憲法議會の召集と共に極東も表面丈は統一の形體を示せり、是に於て駐兵か撤兵かの問題は内外より逼迫し來れり、該問題は日本にとりて重大問題なり、名分之以懸り利害之に關し威信之に伴ふ、然るに日本國民の該問題を觀ること對岸の火災の如く、然り刀を抜くは易く刀を納むるは實に難し。

## 撤兵論の辯

ロザノフ總督失脚以來、撤兵要求の聲漸く高きを聞く、一方我國に於ては議會開會と共に撤兵を云々する者多きを加へたるが如し、内外を通じて此撤兵云々の論は之を外にしては露國人の反日感情を挑撥し、之を内にしては我對露各當業者をして其前途に對して躊躇の念を抱かしむる者あり、是に於て吾人は聊か辯ずる所あらんと欲すると共に、先づ我國が西伯利に對して出兵するに至りたる委曲の跡に就て一言する所あらんと欲するなり。

曩者彼の勞農政府が獨逸と單獨講和をなすに當りて、打擊を蒙らんとせるは聯合與國なり

しならん、當時頻りに日本軍滿潮上陸が歐電に由りて傳へられたるは、聯合與國は斯くして獨逸と單獨講和せんとせる露國を牽制せんとの意なりしならんか、加之米國の如きはナイト提督を當地に急派して露國の朝野に向つて單獨講和の非を鳴らさしめ、斯くては極東は危殆に陥るならんとて、暗に日本が極東を衝くべしとの意を仄めかし以て大に威嚇の態度をさへ示せり、露國の新聞は或國の如きは大兵を擁しながら狂瀾状態に在る露國を袖手傍觀し、之が挽回に就て一臂の勞を惜むもの、如しとて日本に對して怨言を放てる者さへありしなり、斯くの如く牽制と威嚇の用に供せられ、且つ怨言を放たれたるにも拘はらず、當時の日本は滿を持して容易に動かさず、然るに偶然にも西伯利出兵は米國に依りて提議せられ、是に於て日本は斷乎決する所あり、聯合與國と共に出兵するに至れるなり、是れ我國の對西伯利出兵に至れる委曲の大要なり、而して出兵後の聯合與國は彼のオムスク政府援護の方針を採れり此オムスク政府援護の方針は英佛兩國實に之が主動者なり、去れば彼のコルチャークの如きは常に英佛兩國を重んじ我日本を輕んせる跡あり、然るにも拘はらず我國はコルチャークとセミヨノフとの間に確執を生ずるや、居中調停の勞をとり備に極東の統一と復興に意を致せり、而して彼の獨逸の屈伏と共に歐洲の形勢一變し、且つオムスク政府の遂に能く爲すな



きを見るや、聯合與國は我國に先んじて援助打切と撤兵とを宣言するに至れり、斯くて我國は聯合與國の爲めに出抜かれ置いてき放りを食はされたる姿とはなれるなり、此出抜かれ置いてき放りを食はされたる我日本に對して露國の撤兵論者は我國の西伯利出兵とオムスク政府援助はサモ我日本の一存に出でたるかの如く見做すが如きのみならず、我國も聯合與國と共に撤兵すべく云々するは餘りに前後本末を無視するの甚しきにあらずや、否極東の利害に關しては風馬牛の歐米諸國と共に、我國をも之と進退を共にせしめんとするは緩急輕重を知らざる者と謂ふべきか、抑我國の西伯利出兵に關する宣言を見るに、露國の領土保全を尊重し、併せて其國內政策に干渉せざることは既定主義を聲明すると共に所期の目的を達するに於ては政治的又は軍事的に其主權を侵害することなく速に撤兵すべきことを茲に宣言す」と曰ふにあらずや、此宣言に據るに我國は出兵を宣言すると同時に早く業に撤兵を宣言せる者なり、果して然らば今日此頃我國に對して撤兵を云々するは寧ろ蛇足と謂ふべきなり、此時に當りて吾人が露國の朝野に望む所は、先づ以て内外の承認する主權を確立するに力を致すと共に就中極東の平和に對して、我國に安心と保障とを與ふるにあり、然るに今は此に出でずして彼に出づるは是れ亦前後本末緩急輕重を轉倒せる者と謂ふべきなり、更に吾人は我國

の撤兵論者に向つて一言せんと欲するなり、彼の聯合與國が撤兵せるの故を以て又露國人の感情を害するの故を以て撤兵を云々する、諸君は我國の威信を果して如何にせんと欲するにや、否上述の如く我國は出兵を宣言せると共に撤兵を宣言せるにあらずや、去れば我國今日の要は我國の軍隊が露領駐屯中、如何にして我國出兵の理由を露國上下に徹底せしむべきか又如何せば以て彼の誤解を解くを得べきかに在り、且つ夫れ兵なる者は猶ほ刀の如く苟も之を抜くべからず、亦苟くも之を納むべからず之を抜き之を納むるには、必ずや相應の名分と順序とを要するなり、然るに之を是れ思はずして唯だ雷同的に撤兵を云々するは、國家の威信を思はざるのみならず、政治の何物たるを解せざる者と謂ふべきなり、斯く申せばとて吾人は固より非撤兵論者にはあらず、唯夫れ政治なる者は常に名分と順序とに重きを置かざるべからず、之に反して一に感情に依りて進退行動せんとするは、未だ以て共に政治を談するに足らざるなり、彼の内外を通じて今日撤兵を云々する論者は多くは感情論にして、名分と順序を無視せる者と謂ふべきなり、彼の歐米諸國の一進一退一舉一動が常に名分と順序とに基礎を置き、政治的條理と軌道を脱せざるに反して日露兩國のそれは直ちに感情を政治に直叙せんとする傾向あるは他なし、日露兩國は永く專制治下に生息し政治的節制と訓練に缺

如たるの致す所ならんか、吾人も彼の撤兵論者と同様に我國が一日も速に露領より撤兵の時機の到來を切望して措かざる者なり、唯其此に至るには名分と順序とを顧慮せざるべからざることを思ひ一言此に辯ずる所以なり。

### 承 認 難

昨日の「赤旗」は大要斯んなことを論じて居たそれは斯うである、今や極東は着々統一の緒に就て居るそれに就て一言を要するは他でもない、日本は極東が統一して安寧秩序が恢復されるれば撤兵するといふことを再三聲明して居る、然るにも拘はらず聞くが如くは更に増兵するそうだ是れは甚だ不都合であるといふのである、此議論は一應尤もである、併し露國は極東は統一されて安寧秩序は回復されたと思つても、日本は否々未だ安心が出来ぬ撤兵などは以ての外であるとする場合も無い限りも無い、去れば假りに撤兵するものとしても其時期の如きは一方の見解のみでは決定することの出来ない問題である、ソハ兎も角極東の統一と安寧秩序恢復云々は別問題として憲法議會成立と共に、極東共和國も成立し内外は直に之を承認するであらうか、否承認すべきものであらうかが先決問題であつて、日本の撤兵問題の如

先決問題と大關係があるは勿論それが決定を待つて而して後に云爲すべき問題であると思ふ、勿論露國は一日も早く撤兵を希望するであらう、けれどもそれは露國の希望であつてそれを以て直ちに日本を律することは無理である、それは他でも無い上述の通り先決問題ともいふべき極東共和國の承認問題は、實に吾人に取て一大疑問なので此問題の解決以前に於ては日本の撤兵問題の如きは云々すべき問題でない、露國のみと謂はず日本人中にも憲法議會が成立すると共に、極東共和國も成立し内外は直に之を承認すべきものゝ如く考へて居る者もある様であるが、是れは早計といふ者である何故なれば極東共和國なる者は、國家の資格を有するや否やに就て大に研究を要するからである、抑國家なる者は土地と人民それに主權は三大要素である、同時に此三大要素を擁護すべく兵財は二大要件である此二大要件を缺如せば三大要素たる土地と人民それに主權を擁護することは不可能である、此三大要素を擁護することが不可能ならば、其國家は國際的權利義務の主體とも客體ともなる資格を有せぬ者である、日本にとりて其隣接地域に國際的權利義務の主體とも客體ともなり得る國家の存在せぬといふことは一大不安であらねばならぬ、茲に駐兵問題が立脚するのである一步を譲つて厚意的に内外が極東共和國を承認して之と平和條約を締結したとしても極東共和國の現状

にては果してその平和條約を實際に履行し得るであらうかが問題である、通商條約の一部に就ても此疑問が起るのである、極東共和國は如何にして諸外國と通商を行ふ積りであらうか口を開けば物々交換を唱ふるけれども實際に於て不可能であるではないか、然らば露國は外資を誘入するといふのであらう、けれども之に應募すると否とは一に諸外國の意向に頼らねばならぬのである、諸外國は必ずしも露國の外資募集に對し應募すべき義務があるのでは無い、蓋し通商問題ばかりではない生命財産の保護問題に就ても同様である、極東共和國が内外より承認されたとしても目下の處では之を信賴して生命財産の安全を期されぬのである、彼れ是れ觀察し來れば憲法議會が成立と共に極東共和國を内外から承認する、否諸外國が之を承認するといふことは餘程慎重を要する問題であらねばならぬのである、承認しても國際的權利義務の主體となり客體となつて、實際に條約を履行する資格に缺如する所があるからである、極東共和國の承認ばかりで無い勞農露國の承認問題も、露國から觀れば他力問題である他方に頼る問題は、先づ以て他方に信賴すると共に他力を信賴せしめねばならぬ、然るに極東共和國も勞農露國も此點に關しては萬事自我的で、勝手氣隨が多い様であらうも由て思ふに極東共和國が内外から承認を得る問題は此處暫時猶豫がある問題である、果し然らば

『赤旗』が極東は着々統一の緒に就くの故を以て日本の撤兵を云爲するは順序を逸したる議論なばかりでなく國際關係を理解せざる所謂自我的な、而して勝手氣隨の主張であると思ふ。

### 撤兵の時期

日本軍がザバイカル洲撤退前後から、極東政府の一派も大分日本の意向を諒解して來た此分で進行せば所謂極東緩衝國の成立も目睫の間に在るだらうと思はしめた、所が此頃では少し空氣が變はつて來て、日本の武力干涉を攻撃の聲が高くなつて來た、是れは察する所前に緩衝國とか何んとか謂つて、大に日本の意向の所在を諒解した様な口吻を漏らしたのは斯くして體好く日本軍をザバイカル洲から撤退せしむる爲め的手段であつたのかも知れぬ、而してザバイカル洲から撤退せしめたから、此勢で今度は沿海洲から撤退せしめようといふのはあるまいか、それに昨今日本では議會開會中で撤兵問題も唱へられて居るので、此機を逸せず之と呼應して其聲を大にしてやらうといふのではあるまいか、吾人は機會のある毎に我國の西伯利出兵問題に對して幾度か説明した筈であるが、此機會に於て更に之を説明するの無益の業でないと思ふ、日本は何にも事を好んで西伯利に出兵して居るのではない、我隣

接國の露國には今や内外の承認する主權が無いのである、是れは日本にとりて不斷の不安である、それであるから聯合與國が撤兵後獨り日本のみが駐兵して居ても聯合與國も之に對して何等異議を挿まないのも、日本對極東の特種關係を諒として居るからであらう、ソコで去れば若しも日本の撤兵を希望するならば、先づ以て極東に内外の承認する主權を確立して而して後ち之を要求するのが順序ではあるまいか、然るに今は此に出でずして彼に出づるのは前後を轉倒したものである、且つ極東政府の一派は二口目には日本の武力干渉を云々するが彼等の言の如く、果して日本が武力干渉したか如何かは別問題として何を謂つても他國の武力を自國內に進入せしめたといふことは進入せしめた其國自身の責罪である、且つ一國の力が他國の領内に進入した時は既に力と力との問題である、口舌の問題を超越した時である、故に是非共撤兵を希望するならば撤兵を承諾する理由を與ふるか、然らざれば力を以武力に當るより他に道は無いのである、出兵以後日本は再三に亘りて出兵と駐兵の理由に就て聲明して居る、此の聲明した理由が満足されぬ間に日本が撤兵するといふことになれば日本は無意味に出兵と撤兵をしてゐることになる、加之ならず無意義の撤兵は日本軍が夜逃をしたこととなる出兵したのが無意義であつたとしても、無意義の撤兵、即ち夜逃は日本軍の

面目上出來ぬ相談である、それに日本は是れまで無期限駐兵を聲明したことは無い、不確實ながらも、撤兵期限を宣言した出兵又駐兵である、此の點を諒解せずして撤兵を要求してもソハ國際政治問題としては取扱はれぬ、苟くも國家が軍隊を動かすと謂ふものは貨物の輸出入とは同一には取扱はれぬ、一體露西亞といふ國は過去に於て信用の出來ぬ而して横暴の國であるといふことを、日本に深く而して強い印象を與へた、近い例が日本軍がザバイカル洲撤退前後と今日の極東政府の日本に對する鼻意氣とは大に相違して居るのでは無いか、果して然らば日本は西伯利に出兵せるを機會に露西亞は信用出來る國である、横暴の國でないといふ深い、而して強い印象をお土産としなければ撤兵せぬであらう、兎も角も吾人は茲に日本の撤兵時期を明示するを憚らぬ、即ち極東に内外の承認する主權が確立して日本が之を公式に交渉の開始せられた時か其時が即ち日本の撤兵時期であらねばならぬ、日本に此時期を與ふることは、是れは極東政府の責任であらねばならぬ、其以前に如何に之を要求してもそれは駄目である。

## 人氣收攬策

二五六

クラスノシチエコフ氏は廿二日の第四回憲法議會を議に於て、數時間に亘る外交演説をやつて大向をして大に拍手喝采さした、同外交演説は日本の駐兵に對して全力を擧げて攻撃して居る、其大要は西伯利出兵は米國の提議に係るものである、而して聯合與國は既に撤兵せるに拘はらず、獨り日本のみが駐兵して居る日本の駐兵は彼の反動派に根據地を與ふるものである、吾人は米國を督促して日本の駐兵に對して抗議せしめねばならぬといふのである。本社特派員のチタ發電に據れば、各政派を通じて日本の駐兵に對して攻撃に出でんとして居るのみならず、日本の駐兵を攻撃さへすれば必ず大向の拍手喝采を受けるそうである、是に由りて之を観ると、極東政府の外交問題の全部は今や懸りて日本の撤兵要求に在りと謂つても不可で無いのであらう、吾人は日本の駐兵問題に關しては是れまで筆を秃にする程論じて居る、然るに露國の各政派が之を諒解しないのは甚だ遺憾である、蓋し日本の駐兵は露國にとりて何程か癢に觸ることであらう、従つて同問題は露國上下を擧げて熱狂さするものも其筈である、クラスノシチエコフ氏は滿蒙と露領の一角に彼の反動派が尙ほ殘喘を保つて居るの

は何れも日本の駐兵に關聯して居ると謂つて居るが、併し是れは餘りに極端な見解ではあるまいか、日本が出兵しない以前でも反動派は存在したのである、南露方面は現に今も反動派が出沒して居るでは無いか、否日本では日本が駐兵して居るので反動派は寧ろ蟄居して居る様にも思はれる、それに日本に對する撤兵要求も外交上重要問題であらう、けれどもそれよりも如何にして荒廢せる産業を復興し、如何にして窮迫せる極東官民の生活を緩和すべきか如何にして内外を承認せしむべきかが焦眉の問題、否先決問題ではあるまいか、尤も日本が反動派を支援して絶えず攪亂せんとする計畫があるならば、兎も角彼のコルチャークの沒落以後の日本は嚴正中立を以て一貫して居るのである。反動派を鎮撫こそすれ之を煽動する様な形跡は無いのである、果して然らば日本の駐兵は極東統一問題には事實上益あるとも害が無い様である、且つ夫れ日本の出兵は撤兵を條件とする出兵であるから、撤兵は當然である只だ時の問題である、假りに日本が撤兵せる後に於て彼の蒙古に於ける昨今の如く滿鮮方面の安寧と秩序とが反動派の爲めに破壊されることもあらば之を如何うするだらう、左れば日本に對して嚴正中立を要求するは聞えて居るが、撤兵要求はそれ程力瘤を入れる問題であるまいと思ふ、然るにも拘はらずクラスノシチエコフ始め極東の各政派が此名分問題を以て目す

二五七

べき日本に對する撤兵要求に全力を傾倒する傾向あるのは、何れ人心收攬の黨略から來て居るのではあるまいか、吾人は何度か繰り返すのであるが露國には未だ内外の承認せる政權が無いのである、日本は此内外の承認せる政權の無い國と如何して安心して隣りすることが出来るだらうか、故に日本に對して撤兵を要求する以前に、先づ以て内外をして其政權を承認せしむることが順序ではあるまいか、之に反して黨略に利用さるゝ日本は實に迷惑なものである、クラスノシチエコフの演説に據れば、支那は極東共和國を承認する意嚮であるが諸外國の意嚮を窺つて躊躇して居るのであると謂つて居る、支那すらも未だ極東共和國を承認して居ないのである、それから蒙古駐在支那武官が出兵を極東政府に請求したのに對して支那は否認し極東政府の力を借りずして支那自身が出兵して一掃するそうである、若し日本が沿海洲の一角に駐兵して居らなかつたならば、日本も北潮方面に於ては露國の反動派の爲めに安寧秩序を破壊されたかも知れぬ、否日本が駐兵して居るから一萬内外の反動派殘軍が居つても極東の一角は無事なのである、之を要するに極東統一問題の上から日本の駐兵は左まで重要な問題ではない、事實上極東が統一されて極東政府が内外から承認されたならば日本の駐兵問題の如きは自然に消滅するのである、クラスノシチエコフ氏は日本の駐兵に對しては

米國をして抗議を提出せしめると謂つて居るが、前述の如く日本の出兵は撤兵を條件としての出兵であるから、必ずしも米國の抗議を待たずして撤兵するかも知れぬ、日本が撤兵したならば極東は統一され、極東共和國は内外から承認さるゝかと謂へば、それと是れとは別問題である、然るに極東の各党派は總ての問題が日本駐兵に懸りて存するが如く噪ぐのと思ふに人心收攬上の黨略から然るであらう、日本こそ實に迷惑千萬である、唯だ併し日本も駐兵中は徹底的に嚴正中立であらねばならぬこと丈は大に注意を拂ふべき點であらう。

### 反省と嚴正中立

カツペルの暴動に對して我軍は露國當局とも協議の上、彼の暴動者に對して武装解除を斷行せるを以て其後そが續發も無く、且つ當地より尼市方面にかけて一帯に至極平穩無事である以て我軍の態度なる者が極東の一角に於ける安寧と秩序に如何に至大の關係あるかが解るのであらう、露國の當局たる者も我軍の公明正大不偏不黨の心事を諒として然るべき筈である、然かるに露國の當局は何等か慊焉たらざる者あつて存するが如きは吾人は甚だ合點が行かぬのである、彼のカツペルの暴動に對する武装解除に際して我軍が民兵の一部に對しても

武装を解除したので露國當局は大分不満らしかつたのであるが、それは民兵隊員にして彼の暴動に内應した者もあつたので咄嗟の間のこととて烏の雌雄か解らなかつた結果、此に出でたので其邊は諒解した様であるが、此他に未だ何處か釋然たらざる者があるらしい、彼の非社會黨大會の頭領メルクロフ氏までが議會に於て、カツペルの暴動に依りて利益する者は或國のみであると論せる點より察するに露國官民は、彼の暴動に依りて利益すべく我國が暗に煽動でもして居るかの如く考へて居るのかも知れぬ、是れは蓋し邪推又は誤解といふ者である、彼のカツペルの暴動に際して民兵隊員とのみ謂はず、露西亞島の幼年學校生徒までが參加せんとしたては無いか、是に由りて之を観るも我軍が裏面に於て、之を煽動などしなくとも機會だにあれば爆發せんとして居る一味徒黨が所在に伏在して居ることが明かである、露國當局者間には日本が撤兵しさへすれば、反動派は擡頭せぬと考へて居る者がある様であるがそれも間違である、歐露に於てはレーニン大人の御膝下に於てすら反動派の爆發があるではないか、それを爆發のある毎に責を日本軍の駐屯に負はせんとするのは、自分の頭の蠅を追はずに他人の頭を打たんとする者である、尤も此等に關して縱令反動派の爆發があつても我に軍隊が存在したらんには、直に之を撃滅し得るのであるが、其軍隊は日本軍の爲めに

武装を解除された全く自衛の力を失つて了まつたので、彼の反動派が跋扈するのであると謂ふであらう、けれども日本が露國の軍隊に對して武装を解除したのは露國の軍隊なる者は其去就向背常ならず、之が爲めに争亂が絶えず其都度安寧と秩序が破壊されるので之を根絶すべく日本は武装解除を斷行したのであらう、民兵隊員やら幼年學校の生徒までが暴動に参加し又は參加せんとしたるに徴しても、日本軍が彼の舉に出でたことが偶然でないことが解かるのである、ソは兎も角として彼のカツペルの暴動に對して露國當局は我軍に對しては暴動者に對する武装解除を請求し、反動派に對しては我軍の態度をば虎の髯に利用し是れ見よがしに暗に彼の派を威壓の策に出でて居るのは、所謂勞せずして功ある者で我軍の駐屯を非難しつゝ我軍の駐屯を利用する者である、之を是れ稱して他人の犢鼻褌で相撲といふのであらう、吾人は例時ながら露國當局の御手際には敬服せざるを得ないのである、斯くの如く我日本は兎角露國の各派から反感を受けつゝ、且つ利用さるゝ實に損な立場に在るのである、併し誤を見て其仁を知り利用されて、而して後ち始めて其正直を知るのであるから此反感を受け且つ利用されて居る、日本が何時か其仁と其正直とを認めらるゝことがあるであらう、是に於て吾人が日露兩國の今後に望む所は他でもない、日本は理解を後日に歸して只だ嚴正

中立を以て一直線に推し通うすことである、而して露國は日本の駐兵を云々することを止めて何故に反動派なる者が所在に伏在してゐるかに就て反省することである、聞くが如くは彼のカツベルの暴動後、露國當局は嫌疑者を檢舉拘禁して之を暗黒から暗黒に葬るさうであるが、斯くては却て益々反動派を激成する所以ではあるまいか、是れも吾人が露國當局に望む反省の一である。

### 暗闘か投錨か

過般カツベルの暴動の際に於ける我軍の態度に關して昨今に至り露國側には、兎や角の議論がある様である、其主なる點は我軍の武装解除を行ひたる際に民兵の一部の武装を解除し又は解除せんとしたといふに在るらしい、之に就ては吾人は露國人は大國民に似合はぬ三百的なるを遺憾とするものである、彼のカツベルの暴動に際しては民兵も之に加擔せりとの説もあり又左る事實もあつたのである、斯る場合には烏の雌雄が識別出来ないから我軍も或は彼のカツベルに加擔しない、民兵をも武装を解除し又はせんとしたかも知れぬ、併しそれは暫時の間であつて之を續行したのでないから、以て我軍の心事を諒とすべき筈のものである

然るに左はなくてそれを根掘り葉掘りて詮索するといふに至りては、大國民の露西亞人にも似合はず餘りに三百的なるを吾人は遺憾とするのである、是れといふも何者が之を利用すべく強いて問題とせんとするからであらう、ソハ兎も角吾人は斯る突發的些末の事までが日露兩國間の問題として討議さるゝことが相方の理解の端緒として、寧ろ吾人は之を喜んで措かぬのである、吾人は昨紙上に於ても論せるが如く世界の暗闘が今や露國を暗闘せしめ、惹いては日露兩國をも暗闘せしめて居るのである、而して此暗闘は相互間に理解なきと共に相互各自が相互各自の周圍の情勢を理解せざると理解するも、之を制御するの力なきとに因るのであらう、斯くて彼此の間に幾多の波瀾曲折を免がれぬのである、而して此幾多の波瀾曲折はやがて兩者をして理解若くは衝突何れか其歸着點を發見せしめざれば止まぬのである、吾人は既往數年間に亘る日露間の暗闘の跡に就て之を觀ると、一波一瀾一曲一折ある毎に歩一歩理解の域に接近し、且つ衝突の機會の漸次緩和せらるゝ傾向を見るを見て兩者の前途に對して樂觀して居るのである、日露の暗闘は幾多の波瀾曲折を繰り返しつゝあるに拘はらず、其間密接の利害關係のありて存することは兩者亦之を暗示默契しつゝ居るのである、而かも容易に一致點に到着することの出来ないのは、過去における行懸りやら周圍における情勢等が



驅りて此に至らしむるものであつて、彼の幾多の波瀾と曲折とは其が目的に達するまでの犠牲と見るべきものであらう、熟々日露兩國間に繰り返されつゝある彼の幾多の波瀾曲折の原因を観るに、之れが暗礁ともいふべき我國の駐兵に因りて然るものにて、此暗礁ともいふべき我國の駐兵も天然の障害物と謂ふにもあらざれば何時にても之を撤去し得るのである、之を撤去するは唯機會の問題である、去れば撤兵問題の如きは日露の爲には左まで重大の問題でないのである、それよりも日露が如何にして經濟的接觸を實現すべきかが日露の爲めに最も重大の問題なのである、果して然らば日露間に幾多の波瀾曲折を惹起さしめたる彼の暗礁は日露間の密接なる經濟的關係を實現するまでの投錨とも見ることが出来るのである、何れにしても日露兩國間は斯くの如く幾多の波瀾曲折を繰り返せる後、必ずや相互の一致點を發見せざれば休まざることを、吾人は確信して疑ざる者である最近哈府に來着せる總軍司令官エー氏は語つて曰く、日本は露國に對して武力行動に出づるが如きこと之れ無かるべし、其故は國際的關係が之を許さぬのである、日本は米國と衝突を避けんとするのであらう、日本が露國に對して武力行動に出づるは對露通商上英國は之を欲せぬのであらう、且つ斯くては日本も對露通商から除外せらるゝことになるのであらう、彼是の關係から原内閣も近來對

露方針を大に變更して來た様であると、此エー氏總軍司令官の言は日露の現状は英米に多大の關係を有することを語るものにて、吾人の觀察と偶然一致の跡あるを見るのである、且つ是れやがて日露兩國の將來を照らす一縷の光明であらねばならぬ、是に於て吾人は日露間に波瀾曲折を捲き起さしめつゝある、彼の暗礁ともいふべき我國の撤兵は日露兩國をして經濟的に密接の關係を實現せしむる爲めの投錨とも見ることが出来るであらうと思ふ。

### 撤兵の前提

内地の通信に據れば日本に於ては、近來大分撤兵論が高まりつゝあるそうであるが、蓋し該論に對しては何人も異存は無いので唯だその之が機會に就て異存がある丈であらう、所で假りに撤兵を決行したとして日本の自衛と東亞の平和とは何等かの方法に據りて之が保障を獲なければならぬのであらう、此方面に關して適當の成案を聞くを得ないのは吾人の甚だ遺憾とする所である、勿論撤兵は露國上下の感情を害することは事實である、而して撤兵は露國上下の感情を融和することも亦た事實である、併し他國の歡心を買ふのみを以て能事足りとするのは國家の威信上如何したものであらうか、尤も日本は自主的外交といふのが無い

事實に於て禁治産國であるのであるから、各國に向つて歡心を買ふことをのみ、是れ努めて居れば間違ない様なもの、それでは禁治産國といふよりは封間國といふことになるのである、ソコデ吾人は撤兵論も大事であるが同時に日本の自衛と東亞の平和に對する保障は如何にして之を獲得すべきやといふことが、寧ろ撤兵論の前提であるまいかと思ふのである、此前提が決定しなければ撤兵は無名の撤兵に終はると共に、出兵も無名の出兵であつたことを裏書することに終りはしまいか論じて此に至り、然らば日本の自衛と東亞の平和に對する保障とは如何といふ問題になるのであるが、此問題が中々重大な問題なのである、何れにしても自衛と平和の保障に就ては露國と交渉するより外は無いのであるが、目下の露國には此交渉對手が無いのである、是に於て問題は二つに歸着するのである、それは露國に交渉對手が出現するまで撤兵して袖手傍觀するか、それとも撤兵したる儘監視の態度を以て彼の交渉對手の出現期を待つか、若くは進んでそが出現期を助成促進するかである、吾人の所見を以てすれば、今更無名の撤兵をして無名の出兵を裏書するでもあるまい、それかと謂つて撤兵を機會に露國の各政派に偏黨したり、露國國民の反感を挑發したりするのも不可である、矢張り嚴正中立を嚴守すると共に一方中心勢力と認むる者を擁護して交渉對手の出現期を助成促

進することが正當ではあるまいかと思ふのである、而して若し彼の出現したる交渉對手が日本の自衛と平和の保障の請求に應じなかつたならば、其時は其時の事である之と同時に極東共和國たる者も努めて虚心坦懐の態度を以て政權の確立に關しては日本に信頼して、之が助成を求むるのが得策であるまいか、何故なれば極東共和國が日本に對する反感を發揮すれば日本も亦極東共和國に對して反感を發揮するであらう、蓋し斯くては日本にとつてよりも極東共和國にとつて不利益であるからである、極東共和國は日本の厚意が無くては成立しないであらう、極東共和國の名の下に極東を歐露より獨立せしめねばならぬことになつたのも、既に極東と日本の上記の關係を語るものである、果して然らば此處は大に相方の互讓共遜を要する所であるまいか、吾人が此言をなすのは他でもない、最近チタから歸來せる米國人の談なりといふに據れば米國人は極東政府に對し、利權問題を交渉して見たが結果不得要領に終つた、極東政府は利權に對して如何なる保障を與へるか、極東政府は共產政治を行ふではあるまいか、極東共和國は近くモスクワ政府の監督を受くるに至るではあるまいか、然る場合は個人の資本を沒收するではあるまいか、此等の疑問に對してクラスノシチヨコフ氏は何等確答を與へ得なかつたとある、是れでは如何に利權を餌にしても外資は流入しない譯であ

る外資が流入しなければ産業の復興は得て望めないものであらう、それも是れも日本の厚意が無ければ極東共和國の成立は困難であらう、極東共和國の不成立はやがては勞農露國の不成立である、極東共和國と日本と睨み合つて居るといふことは畢竟するに露國の損である、思ふに露國は所謂夷を以て夷を制するの策に出で、米支を操縦して日本を制禦しようといふのであらうけれどもそれは頼むべからざるを頼むものである、露國人は共產派も非共產派もイザ對外關係となると、帝政時代の夢から覺めぬ様であるが、是れが抑々露國人の錯誤である露國の爲めに圖るに先づ以て日本に對して虚心坦懷互讓共遜の態度に出づることが、今日の露國を救ふ唯一の道であらうと思ふ、それから日本の撤兵論者も撤兵論の前提として日本の自衛と東亞の平和に對する保障を如何にすべきかに就て何等か成案の發見が必要ではあるまいか。

### 先決問題

立花軍司令官が軍司令官會議に出席する爲め、歸朝したので世間では今にも撤兵するではあるまいかと考へて居る、氣の逸い連中が無いでも無い、併しそれは餘り氣が逸や過ぎるで

あるまいか、彼の原首相議長の下に開催さるゝ軍司令官會議なる者は餘り例の無いことで、何れ新領土に於ける殖民又は軍事上の問題が主題であらう、勿論露領に於けるそれも参考に併せらるゝであらうけれども、併しながら對極東問題の方針が同會議に於て決定せらるゝこともあらばそれは御門違ひといふものであらう、デあるから立花軍司令官の歸朝は間接に對極東問題の方針決定に關係ありとするもそれは間接であつて直接でないと思ふ、吾人の所見を以てするに極東共和國承認問題は撤兵問題の先決問題であらねばならぬと思ふ、従つて我官民は撤兵問題を云爲する以前に、先づ以て極東共和國承認問題に就て大に研究せねばならぬのであらう、一體日本の官民は極東共和國を承認しようといふのがそれとも承認せぬといふのが撤兵の可否よりも、此先決問題に對して何とか國論がなくてはならぬのではあるまいか、假りに承認するとするならば之に對して如何なる條件を提議すべきか、之に反して承認せぬとすれば、然らば現状の儘持續するか或は何等か他の態度に出づるか、此等に就て一定の國論を定めて之に依りて當局を動かす者が無くてはならぬのであらう、別言すれば極東共和國の承認の可否が主であつて撤兵の可否の如きは従であらう、所が日本の國民は兎角主従を轉倒して居る様である、出兵問題もそうである出兵の可否に就ては出兵以前に一定の國論

が無くてはならぬのである、然るに日本の國論は出兵以後に於て之が可否の議論が盛に行はれた様である、是れは前後の轉倒といふ者である日本の國民は馬車馬の様に唯だ正面ばかりを見て左右と前後を見ない、是れでは國家の方針を誤ること決して尠少でない、尤も我當局に於ても極東共和國承認問題は之を如何にすべきやといふことに就て昨今大に頭を悩まし始めて居るのであらう、蓋しコハ彼の極東共和國の憲法議會が無事に經過すると共に是非起らねばならぬ問題であつて、此問題に對する態度が決定すれば其方針に基いて、與國とも交渉が開かれるのであらう、與國の交渉が一致して愈々極東共和國を承認する段取りとなると共に極東共和國に對して提議すべき條件の如き大體に於て與國と交渉を要するではあるまいか果して然らば我國が撤兵を執行するにしても、それまでには多少の順序と時間を要するであらう、それとも撤兵問題と承認問題は別問題である既に極東共和國が成立せる以上は、日本は撤兵すべきものである承認問題の如きは撤兵後に於て、徐ろに之を解決するも差支ないものであると謂つて米國からでも撤兵の要求があつたとすれば、其時は別問題であるが然らざる以上は撤兵を執行するまでには當然上述の順序と時間を要するはあるまいか、若しも然らずして日本の一存から萬事を撤兵後に於て執行すべしとあつて、彼のザバイカル洲又は黒

龍洲方面より撤兵せるが如く、急速に撤兵を執行するが如きこともあらば日本は甚だ以て輕率な國であるのみならず、出兵と撤兵とを遊戯的に取扱ふ者と謂はねばならぬのである、ソコデ吾人の日本國民に對して望む所は他でもない、日本の國民は撤兵の可否を論ずるよりも其以前に於て之が先決問題ともいふべき極東共和國承認の可否、並に之に關する條件を研究し以て國論を一定し之に依りて當局を動かす方針に出づることである、然るに見渡す限り内外共に此先決問題に對しては一向に研究して居る様子も無く、又た當局を動かすべき一定の國論なる者も無い様である、而して相變らず馬車馬の如く、正面のみを見て撤兵の可否ばかりを心配して居るのは、之を稱して眼前主義といふのであるまいか、國民が眼前主義であるから當局も自然眼前主義たらざるを得ないのである、而して其結果は常に對極東問題のみならず内外一切の問題に對して無方針を免がれぬのであらう、一部の論者は承認問題は兎も角として通商問題も何とか決定したら如何と謂ふものがあるが、吾人が再三論せるが如く金のない且つ物資の缺乏して居る、露西亞と通商を開始しても開始する丈であつて實際に通商は行はれぬであらう、それよりも如何にして露西亞に金を貸すべきかを研究する必要がある之を要するに我國の先決問題ともいふべき、極東共和國承認の可否及び之が條件に對して

國論を一定するのが刻下の急要問題であるまいか。

### 在留同胞に告ぐ

吾人は昨紙上に於て撤兵を可否する以前に先づ以て極東共和國承認の可否を決定することが先決問題であることを論じて置いた、是れは蓋し何人も異存がないのであらう、然り吾人の所見を以てするに昨今の局面は極東問題の分水嶺とも謂ふべく、實に重大の時期である此重大の時期、即ち分水嶺ともいふべき局面に於て一步を誤れば既往に於ける出兵が擧げて無意義に終り且つそが失敗の上塗りをするばかりでなく、將來における日本の對極東威信は全く地を拂ふに至り、日本の對極東政策は兎角左支右吾を生じ、遂には日本國民の對極東發展も得て望めぬことになるであらう、吾人が幾回か論せる如く日本の今日までの對極東行動は畫龍時代であつて、今後におけるそれは點醒時代といふべきものであらう、而して目下の局面は上記畫龍時代と點醒時代の分水嶺で、實に重大の時機であるのである、之を歴史に徴するに我國の對大陸政策は何時も此分水嶺に於て失敗して居るのである、彼の大閣時代の征韓役を始めとし日清日露の諸役を通じて皆な左様である、是れといふのも當局が無策無能なば

かりでなく國民が無力無定見の然らしむる所である、刀を抜くのは易い、之に反して抜いた刀を納むるは一層六ヶ敷いものである、日本の國民性は刀を抜くには適當して居るが、抜たい刀を納むるには不適當である、出兵當時は國民の氣分も多少緊張して居つたが、撤兵すべきか撤兵すべからざるかの問題を決定すべき重大の時期に立てる、今日に於ける國民の氣分は實に冷々淡々たる者である、何時でも撤兵は之を決行し得るのである、唯だ如何なる名分如何なる順序の下に撤兵すべきかに就ては、何等一定の國論がない日本人は口を開けば武士道を云々するけれども、刀を抜くことを知つて之を納むることを知らない國民は町人以下の新平民である、抑も日本が西伯利に出兵したのはチエツク援助やら安寧秩序の保持も目的の一つであつた、けれどもそれは從的目的であつて主目的は自衛と東亞百年の平和確立に在るのである、去ればこそ與國は撤兵せるに拘はらず日本は今に駐兵して居るのである極東を歐露より分離せしめて極東獨立共和國建設に同意し、之に援助の意を表したのも之が爲めであらう、日本の援助の下に成立を告げんとする極東獨立共和國を日本は之を承認せんとするかそれとも之を承認しないのか之を承認するとすれば、無條件か又は條件を附するのかわし條件を附するとすれば、其條件は如何なる條件か此等が決定しなければ西伯利出兵の主

的目的たる自衛と東亞百年の平和確立が解決しないのである、此主的目的が解決しないで撤兵したる後の日本は慢性淋病にて苦まねばならぬであらう、駐兵の可否は既に決定してある駐兵は否にして撤兵は可なることは議論の餘地が無い、只だ今日は駐兵の可否を論じて居る時では無い彼の將に成立を告げんとする極東獨立共和國を如何に觀るべきかが問題である、傳ふ所に據れば極東獨立共和國は近く日支兩國に向つて、承認要求の特使を派遣するそうである、外務次長コジエウニコフ氏の米國使節歓迎の辭の中には米國は率先して極東獨立共和國を承認して呉れるものとの期待が仄見えて居る、承認要求の使節派遣の交渉を受けた時に日本は相も變らず門前拂ひを食はする積りか、それとも例に依りて聾の振りをして黙して答への積りか、彼の撤兵論者は駐兵は徒に露國の感情を害するのであると唱へて居るが假りに日本が極東獨立共和國を承認して遣るばかりでなく、進んで金を貸して遣つて之を援護して遣つたならば或は手を合はして永久駐兵を頼んで來るかも知れぬ、駐兵は問題でない駐兵を中心として其周圍の政策と態度が問題であるのである、論じて此に至り吾人は駐兵撤兵を論議する以外に日本國民は此際極東獨立共和國に對する態度に關して、大に之を研究決定するの必要を叫ばざるを得るのである、而して日本國民といふものゝ政黨の如きは政權の醜鬼な

れば共に國家を談するに足らず 其他の國民に至りては利己に急にして共に國家を談するに足らず出征の文武官憲の如きも、謂はば出稼も同様にして唯だ中央當局の命令に依りて進退する者なれば是れ亦共に國家を談するに足らず、是に於て當方面に利害關係を有する者が之が中堅となりて國論を喚起するの必要があると思ふ、當方面に利害關係を有する者と謂へば當港在留同胞がそれである、吾人は當港在留同胞が駐兵可否の問題外に立つて極東獨立共和國に對する態度に關し是非其意見を一定して、當局を動かす必要があると思ふ何となれば上述の如く今日は對極東問題の分水嶺ともいふべき重大の時期であるからである。

## 利權提供と外資誘入

露國は資本革命の爲めに一切の資本を蕩盡せり、而して破壊時代を過ぎて建設時代に入ると共に先立つ者は資本なり然るに一切之を蕩盡せる露國は當分外資の力に頼らざるへからず而して外資誘入には利權の提供は勿論彼をして流入せしむべく安心を與へざるへからず、此處に共產黨の一大矛盾と一大苦痛の在りて存する所ならんか

### 理想的左偏と事實的右偏

クラスノシチエコフ氏の憲法議會第四回會議に於てなせる演說の大要は既報の如くなるが氏は同演說の結尾に於て財政經濟の諸問題に對しても大體の方針に就て述ぶる所あつたが只だ外交方面に比較して財政經濟方面に對しては極めて簡潔省略されたる趣があつて、氣焰甚だ揚らず二日間に亘る彼の大演說も龍頭蛇尾の觀がある様である、是れといふのも外交問題は名分問題で氣焰を揚げ易く、且つ人氣に投じ易い問題であるがサテ財政經濟問題となると實際問題であるから人氣取りばかりを目的として、ウツカリ氣焰を揚ぐる譯に行かぬからで

あらう、是に於て吾人が再三論せる通り假りに彼派の主張通りに放任して置いても彼派が一舉して共產政治を實現することは不可能なるのみならず、結局數の支配の下に各種の問題は財政的に經濟的に自然に自決さるゝことになるではあるまいか、クラスノシチエコフ氏の演說中勞農に對する希望に就て之を觀るも、曰く勞農共に先づ政權を其手に握ることを目的として相互に犠牲的でなければならぬ、農民は餘分の穀物を而して勞働者は貨物を國家に提供せねばならぬと是れは農勞は其勞力の結果に成れる産物を無報償で國家に提供せよ、勿論國家は勞農の生活を保障するからといふのである、若しも果して勞農が此意味を諒解す様ならば問題は簡單である、所が農民は其作物を徵發さるゝに就て既に不平の聲を擧げて居る本社特派のチタ發電に據れば勞働者の金銀貨を以て支拂要求の聲が漸く高まらんとすとある、個人資本を否認せる結果先づ外資誘入に就て矛盾を惹起したる共產政治は、勞農に對する要求に於て更に反抗を受けんとする傾向があるのである、沿海州政廳の財政は收支相償はず頗る行詰りの状態に在るが之に就て去廿二日財政會議が開かれて、財政部長ベルラーツキー氏から今後の方針と計劃とが發表された、ツマリ支出を減じて収入を増さんとするのである増收の方法として各會社商店等に奉公して居る者に所行税を賦課するといふのが主要の點である

併し此種の税金を徴収しても増収額は些細なものであらう、ソハ兎も角として憲法議會における各政派の宣言に徴するに租税は單に累進法所得税に止めるとある、共產政治は生産が公營となつて各人の提供する勞力其者が租税であるから、他に租税なる者が無い筈であるに拘はず累進法所得税は之を賦課するといふのは一部個人の資本を承認すると云ふからであらう、即ち個人の資本に依る營業に對する租税であらう而して沿海洲政廳の各會社商店の奉公人から所得税を徴収するといふのは個人の資本に依る營業に對する上述の累進法所得税の旨意と多少一致を缺いて居る様に思はれる、此等も矛盾の一であるまいか昨紙報導に據れば日米の有力なる諸會社から林業礦山業に關する利權の請願が多數提出されて居るそうである同請願に對して浦潮駐在の外務全權をして詳細を調査せしめた上で確答を與へるそうである利權に對する各政派の宣言は或條件の下に之を與ふるも必要の場合は期限内に國家に買收權を保留するとある所で斯る條件の下に外資が之を承諾するか如何か吾人は刮目して觀んと欲する所である論じて此に至り財政と經濟に關する諸問題のみは主義や理想のみを以て直ちに解決出來ぬ問題であると共に外交問題に對して長廣舌を揮つて大に拍手喝采を博したクラスノシチニコフ氏が財政經濟の諸問題に對しては簡潔省略されたる趣あり彼の大演説が龍頭蛇

尾の觀を呈せるも之が爲めであらう同時に極東露領にとりては日本の駐兵問題よりも産業の復興問題の方が如何に重大であるかが解かる様である是に由りて之を觀れば經濟組織共產政治に向つて歩一步接近するは世界の大勢であるとしても資本と勞力に缺乏して居る極東露領が一舉して共產政治を實現するといふことは事實上不可能であらう左ればこそ資本主義民主政治の緩衝國を建設することになつたのであらう、然るに憲法議會に於て現はれたる此資本主義民主政治の緩衝國の憲法に對する各政派の宣言は何れも可なりに左偏して居る様であるが併し是れは蓋し單に理想に止まるのではあるまいか、而して幾多の實際問題に逢着する毎に此左偏せる理想は漸次事實的に右偏するではあるまいか、資本は水の如く空氣の様なものである、必ずや稀薄なる點又は低處に向つて何等かの形式を以て浸入せねば止まぬである斯く觀じ來れば極東共和國の前途には日本の駐兵問題以外に財政的に經濟的に一大難關が横はつて居る此一大難關は極東共和國として自決さすべく、放任して置くべきものであるが放任して置いても極東政府はツマリは他決を仰がねばならぬであらう、而して事實的に右偏せざるを得ぬのであらう



## 矛盾の悲哀

二八〇

吾人は昨紙上に於て歐露の勞農政府は極東に資本主義民主政治緩衝國建設の意向なること而して同緩衝國の下に個人資本が承認されたる場合に對する想像の一端を提示したが、之と同時に外電はレーニンの一大抱負たる産業動力電氣化の計劃は各種の機械缺乏の爲め意の如くならず最近に至り外國人の經營事業は之を國有として沒收せず、且つ外國人の生命と財産を保證すると共に其資本を歓迎せんとして居ることを傳えて居る資本政治に反對して極力之が破壊に全力を傾倒したる共産政治の本尊が外國資本は之を保護し且つ之を歓迎するといふに至りては是ぞ矛盾の悲哀とでも謂ふのではあるまいか尤も彼の共産政治なる者は資本政治に反對するといふものゝ資本其者を排斥する譯けではない只だ資本を運用の形式上之が私有を排斥するものであらう、所が此私有資本政治の破壊に全力を傾倒したる結果私有と公有の別なく露國は今や資本其者の缺乏に陥つて了まつたのである、資本政治も共産政治も共に資本に頼らねばならぬのであるが資本政治を破壊する爲めに資本を消耗して了まつて破壊したる資本政治の後に共産政治の建設に取りかゝつて見るとサテ資本の缺乏で手も足も出ないと

いふことになつて是に於て外國の資本は之を保證し且つ歓迎するといふのであつて、餘り虫が好過ぎる様ではあるが併しながら根本に於て私有資本は之を承認せず單に外國の私有資本を承認するのである、それとも若しも諸外國中一舉して露國が共産政治の建設に要する丈の莫大なる公債に應募して呉るゝ者があれば或は原則通り内外の區別なく私有資本は斷然之を承認せぬ筈であつたらうが、それが注文通りに行かぬので不本意ながら外國の私有資本は保護してやり且つ之を歓迎するといふのであらう、所で外國の資本が此手に乗つて周圍が擧げて共産政治即ち赤化されて居る眞唯中に安心して飛込むだらうか、是れが吾人の一大疑問として常に心配に堪えぬ所である、勿論外國の資本に對しては紙上では相應に安心の出来る丈の保護を與へるであらうけれども資本の運用は實際問題であるから、紙上の保護丈では安心が出来ぬ、ウツカリ共産政治の國土内に投資して縞の財布が空になることが無いとも限らぬ左様な危険を冒してまで共産國の領土内で投資して事業を經營しなくても寧ろ露國の公債に應募して利子を頂戴する方が外國の資本の爲めには結局有利で安心かも知れぬ、兎も角歐露の共産政治及び極東の緩衝國が外國の私有資本を承認し且つ之を歓迎するとしてそれが果して如何んな形式で流入し又如何んな形式で活動するであらうか、是れは大に研究して

置かねばならぬ問題である、吾人は歐露における問題に對しては之を想像すべく手が延びないが責めて將に生まれんとする極東緩衝國における此問題丈に對しても是非共研究して置かねばならぬと思ふのである、思ふに極東資本主義の民主政治緩衝國は歐露の共產政治とは異なりて内外の私有資本を承認するであらうけれども周圍が赤化して居る以上は、國內の私有資本は兎も角として外國の私有資本は容易に安心して流入せぬではあるまいか、假りに利權を獲得したとしても其利權に對しては自國の兵力を以て保護して呉れる位の保證が無ければ安心して流入しないであらう、ソコデ外國の私有資本は此緩衝國に對して先づ通商即ち輸出入に向つて活動するではあるまいか、而して此通商即ち輸出入は露國の個人を相手とするよりも當局又は購買組合其他の公共團體を相手に大規模の下に行はるゝことになるではあるまいか、換言すれば大體に於て産業や通商は公營になるではあるまいか而して其間に介在する制限せる小資本の産業と通商は彼の大規模の公營のその補助として並び行はるゝことになるではあるまいか、斯く觀じれば彼の私有資本の破壊に全力を傾倒したる共產政治が私有資本を承認せねばならぬといふのは矛盾の悲哀であるが、併し承認されたる外國の私有資本も共產政治國の中に飛込むことは所謂鯨は食ひたし命は惜しゝの感があるではあるまいか、

是れ亦た矛盾の悲哀である、斯くの如く今や世界の東西に於て排斥した者と排斥された者が相方共に矛盾の悲哀を感じて居るのは實に喜劇の悲劇である

### 數の力

對露問題は露國をして經濟的に將た財政的に當然歸着すべき點に歸着さして、然る後に徐ろに解決の手を下す方が却て捷徑ではあるまいかといふことは、吾人の再三論じた所であるが各方面の報導を綜合するに如何うやら吾人の所論の如く露國特に極東も數の支配を免がれぬものと見えて日一日と經濟的に、將た財政的に行詰つて來た様である數の前には主義も理想も何等の權威が無いのである、外資は之を歓迎するか條件を附すると謂つて見た所で外資が流入して來なかつたならば是れも單なる主張に止まる譯である兎も角も極東は經濟的に將た財政的に日一日と行詰りつゝあることは事實である、廿四日國民議會の豫算會議があつてベルラツキー部長の數時間に亘る演説があつたそうだ、それから商工部長のワフミストル氏は現在金百萬留の（金留）外に税關滯貨處分に由る收入等の内から三分の一を産業復興費に充て主として蘇城炭坑義勇艦隊極東造船所及硝子製造所等を根本的に改造して復興を計畫し

て居るが成算歴々たることを豫期して居るそうである、吾人の所見を以てすれば私の滯貨處分なる者は注文通り處分が出来るか如何かは甚だ疑問に堪えぬのである、加之ならず彼の蘇城炭坑義勇艦隊極東造船所及硝子製造所等のみが洲廳の財政と經濟の全部ではあるまい、而して財政と經濟の殆んど大半を上記の諸事業の復興に充つるといふことになれば、其以外の諸官衙諸事業は如何する積りであらうか、糧秣給養部長セレジニコフ氏は外國商人から哈府や黑龍洲方面向け貨物輸送の申出でが多數あるが、如何せん同方面の鐵道は修繕を加ふることが出来ない爲めに運轉中止の已むなき状態に在る當港に四百萬布度の修繕材料が在るが日本軍が之を輸送せしめないのに困つて居る、併し極東政府は勞農政府に對して財政經濟の基礎を鞏固にすべく交渉中である、吾人は財政經濟難切り抜け策は之を極東の窮屈なる範圍に求めないで廣い天地に求めねばならぬと謂つて居る、鐵道の修繕材料は四百萬布度在るとしても鐵道は材料ばかりでは修繕は出来ないではあるまいか、財政經濟に關して一隻眼だに有せざる吾人が斷片的材料に據りて之を論斷するは頗る輕卒を免かれぬ様である、けれども財政經濟に關して一隻眼だも有せざる吾人が輕卒に論斷し得る程、それ程極東の財政經濟の問題の現状は簡短で而して明瞭であるのである、極東政府は前に浦潮政府を併合して極東の統

一が緒に就くや否や着々中央に集權せんとすると共に、當方面に堆積する物資をもチタに向け集中せんとしたのである此點から察するに極東に於ては何を謂つても浦潮は遺産大盡であらねばならぬ所が其遺産大盡の財産を洗つて見ると、ザツと上述の通りであるのみならず極東政府までが此遺産をば食はんとするのであるから其行詰加減が大抵推して知ることが出来るのである、糧秣給養部長セレジニコフ氏の言の如く極東の財政經濟難の切りぬけ策は之を窮屈なる極東に求めずして廣い天地に求めねばならぬであらう、即ち勞農露國の後見を仰がねばならぬであらう、由來極東は經濟的にも財政的にも歐洲露西亞の後見を離れては獨立出来るのである、然るに其後見役の御本家の歐洲露西亞も彼の始末であるから中々極東を後見する所ではあるまい、斯く觀じ來れば勞農露西亞は兎も角として極東の如きは放任して置いても自然解決さるゝのではあるまいか、尤も露西亞は臺所の大きな國であるから何處かで隠れたる遺産が発見されぬとも限らぬ、極東現在の遺産は何れも帝政時代の遺産である此遺産を食ひ潰して了まつた後は如何に天産物が豊富であつても、それを其儘丸呑にすることは出来ぬであらう是に於て結局外資に頼るより外は道は無いのである、故に共產政治を實施しな

ければ承知せぬといふならば、それを實施さしても事實上經濟的に開放して外資を歓迎することになるではあるまいか外國貨取引を嚴禁した浦潮政廳は、今では平氣で日本貨を使用して居るではないか

### 春秋に義戰無し

歐露に於ける騷亂に關しては其後特に刮目を要する程の報導にも接せぬが、兎に角各地方に於て多少不穩の形勢のあること丈は事實らしい、併し吾人は一昨紙上に於ても論じて置いた如く假りに各地方に於て相踵いで騷亂が持ち揚がつたとしても夫れは發作的で一時的に止まり之が永續して吾人の所謂第三次革命の傾向を帯びて發展するといふことは頗る疑問である何故なれば騷亂が勃發したとすれば其動機は物資の缺乏より來る生活狀態に對して鬱積せる不平か何等かの機會に或る形式を借りて爆發したものであつて、政體の變更などいふ根本問題に根蒂を有して然るもので無いと思ふからである、勿論政體の變更などいふ根本問題に對して何等か絶えず劃策して居る者もあるであらうけれども政治的に經濟的に根本から破壊されたる今日の露國を之を舊體に引戻すといふことはそれは望んでも不可能である、換言す

れば滔々たる濁流に推し流されつゝある孤舟を逆航させ様と謂つてもそれは無理である、それよりも露國今後の爲めに圖れば大勢に順應して此孤舟をして濁流中に沈没せしめざる様に掛を取つて行くことが簡要である之に反して吾人の所謂第三次革命の傾向を帯ぶる騷亂が發展して現在の政體を變更して之を立憲民主政治に引戻し同時に各個人の資本が復興するといふことになれば勞農を標榜する共産黨は必ずや之に反抗するであらう斯くて露國は各地方を擧げて内亂狀態に陥るのであらう、若し然りとせば左なきだに物資缺乏し飢餓の狀態にある露國は更に一層飢餓の狀態に陥り而して救ふべからざる深淵に沈淪するであらう、其極露國の邊境は隣接諸國の爲めに占領せらるゝに至るであらう、斯くては露國の爲めにも否人道上にも忍び得ぬことである、去れば吾人の上述せる如く露國今後の爲めに圖るには此滔々たる濁流に推し流されつゝある孤舟をして大勢に順應せしめをして先づ以て濁流中に沈没せしめざる様に掛を取つて行くことが今日の場合、最善の策であらうと思ふ而して沈没を避けしむるの策と謂つても別に六ヶ敷問題ではない、物資輸入を講じて窮乏せる生活を緩和する丈の事である尤も六ヶ敷問題でないと謂つても、此物資を輸入して窮乏せる生活を緩和するといふ事が實は大に六ヶ敷い問題であるのである、之を内にしては産業と交通は荒廢して自活

の道を失へるのみか之を外にしては周圍から經濟的封鎖を受けて居るのであるから露國は今や經濟的に袋叩にされ乾干にされて居るのである、而して露西亞を經濟的に袋叩にし乾干にして居る發頭人は英國である、それといふのも露西亞今次の資本革命が完成してたならば之が爲めに最も危険を感じる者は英國であるからであらう、帝國主義の獨逸を倒したと思つた英國は今度は共產主義の露國から脅迫を受くることになつたのである、此間に處する英國は前狼後虎の感があるであらう、英國なる者此處必死の場合である尤も露國も經濟的封鎖を解かれて通商の路が開かれたとしても諸外國から物資を購入すべく現金が無い物々交換と謂つても其物々が缺乏して居るばかりが輸送機關が荒廢して居る、而して自力を以て産業と交通を復活するまでには國民が生活に堪えぬと謂つた譯けだ、それかといつて食はねど高楊子で主義と共に心中する譯にも行かぬ、其心情は何共氣の毒なものだ元來剛腹性の露西亞が此に至るは自業自得ではあるが併しながら露國の所業が自國に危険を及ぼすからと謂つて之を經濟的袋叩にし乾干にするといふことは餘りに残酷の様である、往昔越後の謙信は甲斐の信玄に鹽を送つたといふことがあるが、それと之とを比較すると所謂春秋に義戰なしで今日の世界の戦争は非人道の極である兎に角現時の露國の爲めには英國が當の敵であらう、所が此

當の敵の英國に對しては左程反感を抱かないで反對に日本に對してより以上の反感を抱く傾向のあるのが氣が知れぬ、之を要するに現在の露國の窮狀を救ふのには結局外資を誘入して産業と交通の復興を圖るより外に策は無いのである、而して外資を誘入する門口は極東であらう、極東を經濟的に開放して而して外資を誘入し以て産業と交通の復興を圖り斯くして窮迫せる生活を緩和することである、然るにも拘はらず露國は例の剛腹性を以て何處までも押し通さんとしたならば、其際こそ單に生活に對して鬱積せる不平の爆發が案外にも政體の變更なる根本問題に根帶を有するに至り次いで吾人の所謂第三次革命の傾向を有する騷亂が發展せぬとも限らぬであらう、若しも此に至らば露西亞の前途は四分五裂であらうそれに就けても吾人は我總領事の漁業問題に關する提議に對して極東政府が沿岸漁場の安寧秩序の紊亂は日本が出兵して露國の主權を侵害した直接の結果であると謂つて跳ね附けたのは露國の爲めに甚だ遺憾に堪えぬのである

### 虻蜂取らずとなる勿れ

クラスノシチエコフ氏が我社チタ特派に極東共和國の將來に於ける産業復活策に關して語

れる所は既報の如くであるが、其大要を擧ぐれば曰く極東共和國の産業復活を圖るには如何しても外資の力に頼らねばならぬ外資と謂つても英國は投資に決斷力あり、經營も巧妙であるが投資方面も多數あるので極東に手を延ばす暇が無い、支那は人と機械に缺乏して居るから投資して企業することは望めない、小商買の相手たるに過ぎぬ米國は大資本を擁して活動休まぬ方であるが如何せん我が極東とは遠隔の地に在るので急の間には合はぬ之に反して日本は一葦帶水の彼岸に位置するのみならず、日本人は極東に對する各種の事業に興味を有して居る上に米國が二三年間を要する事業を日本は二三月間に著手し得るのである、去れば極東の産業復活を圖るには先づ以て日本の資本に頼らねばならぬのである云々、元來クラスノシチエコフ氏は米國に關係の深い方で彼の頭は絶えず米國に向つて戀々として居ることとは疑ふべくもなく現に彼は憲法議會が濟んだならば、極東共和國の代表となつて米國に赴任の希望を有して居るとまで風説されて居るのであるから、上記彼の日本の資本に頼らねばならぬ云々の語は心にも無き御世辭と見れば見られないでも無いが、併しながら極東の産業復興策は日本の資本に頼ることは捷徑であり、且つ自然であることは彼の言ふ通りであつて彼の言は所謂問に落ちず語るに落ちるものとも謂へ得るのである、そこで吾人の所見を以て

すれば日本と極東との關係は過去の行懸り上痛く感情を害しては居るけれども、結局天地人の支配から日本と極東とは經濟的密接の關係を結び着けねば止まぬだらうと思ふ、クラスノシチエコフ氏の日本の資本に頼らねばならぬ云々の一語は假りに心にも無き御世辭であつたとしても虚言から出た誠といふこともあり、旁々自然の支配の下に吾人は日本と極東が經濟的に密接の關係を結び着くるに至ることを希望すると共に常に此方面に向つて進展さすべく不斷の努力が必要であると思ふ而して最近の趨勢が稍々此方向に向つて進展しつつあるではあるまいかと思はる、傾向もあるもので、此傾向は輕々看過してはならぬと共に大に之を利導せねばならぬと思ふのである、過般のカツヘルの暴動に對する我軍の態度は兎も角として彼の反動派は近來日本に對して疑惑の眼を以て見て居るらしい、それは他でも無い彼の反動派は日本は彼の派を擁護して呉れる者とのみ信じて居たのである、所が日本の昨今の態度は援護するでも無く又擁護しないでも無く今日約束したかと思へば明日は之を履行せぬ明日は之を履行せぬかと思へば今日は之を約束すると謂つた風で日本の心事が果して奈邊に在りて存するか吾人は之を捕捉するに苦んで居ると謂つて愚痴を落ぼして居るのを吾人は屢々之を耳にするのである是に由りて之を観ると彼の反動派の日本に對する唯一の信頼の綱が將に切斷

せんとして居るのである換言すれば日本は反動派に對して日に信用を失ひつゝあるのである此反動派の日本に對する唯一の信頼の綱が切斷し又は彼の反動派に對する日本の信用が日に失はれつゝあるといふことは其反面に於て日本の嚴正中立の態度が着々實現しつゝあるものとも見られるのである斯くて空頼みして居た日本の援護に絶望せる彼の反動派は勢ひ革命に對する反抗を斷念するであらう而して平和なる政治的運動に頼りて目的の實現に努むるであらう之に反して日本は反動派を援護する者とのみ思つて常に嫉視の眼を放つて居た革命派は日本は必ずしも左様でないと言解して來るであらう斯んな風に日本の嚴正中立が中心となり重心となり一方は經濟上の状態が餘儀なくせしめて左しにも混沌たる極東の政情も次第々々に統一さるゝではあるまいか是に於て日本の對極東策として吾人は嚴正中立を徹底的に遂行する其反面に於て經濟的趨勢を利導して日本と極東とを經濟的に密接する爲に極東政府に對して之が機會と便宜を與へねばならぬと思ふのである極東政府も極東には極端なる共產政治を施行出來ぬと觀念したことは議會の宣言に徴しても明かである否産業復興の爲めに外資の輸入は彼にとつて焦眉の急務である此處が大に附け込み所である昨電に據れば憲法議會は日本政府に向つて日本と極東を經濟的に親近せしむべく日本に産業視察使を派遣せんとして

交渉を申込んで居る果して然らばクラスノシチエオ氏の日本の資本に頼らねばならぬ云々の語は萬更心にも無い御世辭とばかり見られぬ様である兎も角産業視察使派遣交渉の如きは逸してはならぬ機會である之を要するに曖昧な嚴正中立をやつて反動派から信用を失ひ革命派からは反感を買ひ經濟的に極東政府を妨害して彼を驅りて米支に走らしめる様なことがあつては日本は虻蜂取らずになるのである此邊の呼吸は中々六ヶ敷い所である

### 露國を救ふの道

既報の如く本社チタ特派は憲法議會に依りて極東は兎も角形式的に統一されたるものゝ經濟方面より労働者間に不穩の傾向なきにあらず、諸外國と經濟關係を有利に緩和するにあらざれば此方面から或は破綻を來す恐れなしとも限らぬと報じて居る、コハ十指の指す所十目の觀る所である、露國の問題は經濟を離れては他に之れなしと謂つても差支ないのであらう所で生活の現狀に堪えずして彼の労働者等が不穩の舉に出たりとして困難なる現在の生活をば直に改善することは不可能なるのみならず、反對に生活は益々困難の深淵に沈むのみであらう、蓋し歐洲大戰の後を承け疲弊に次ぐに困憊を以てせる露國は假りに彼の主權革命に次

ぐに資本革命が無かつたとしても、經濟的困難は免かれなかつたであらう、尤も單に主權革命に止まり資本革命が無かつたならば諸外國から經濟的封鎖も受けず、貿易も行はれたであらうから今日の如き状態には陥らなかつたらう、けれども何れにしても戦後の財政は困難に陥ると共に經濟も困難に陥り従つて國民の生活も困難を告ぐるに至り斯くて各地を通じて強盜は横行し暴動は續發し惹いて安寧と秩序の紊亂は免かれなかつたのであらう、之を要するに二重の革命がなくて戦争中は幸に無事に經過したとしても、戦後の露西亞は二重は兎も角としても革命丈は到底免かれぬ運命であつたらうと思ふ、それは多年の積弊を彌縫に彌縫を加えて辛ふじて維持して來た露西亞が機會だにあれば、一度は爆發せなければ止まぬことは自然の歸結であつたのであるからである、果して然らば露西亞が今日の境遇に陥つたのは必ずしも彼の過激派の資本革命にのみ罪を歸することは出來ぬ、否、溯つて斯る動機を作つて置いた官僚に罪を歸せねばならぬのである、併し既往を咎めて見た所で詮の無いことで現狀を如何にすべきかが刻下の急務であらねばならぬ、然り吾人の所見の如く戦争中は幸に無事に經過したりとしても戦後の露西亞は革命は免がれんとして免がるゝことが出來なかつたものとしたならば露國は之に對して如何に處したであつたらうか、此革命に對して諸外國は何れ嚴

正中立を宣すると共に勿論經濟的封鎖は之をしなかつたらう、けれども併し商業は圓滑を缺いたのであらう、斯くて今日の狀態までに至らなかつたとしても稍々之と同一の程度の境遇に陥つたのであらう、而して此革命が幾年間繼續したかはそれは別問題として局に此間に當る者は難局切りぬけ策として外債募集に出でなければならなくなつたのであらう、併し戦争に次ぐに革命を以てせる露國に對して諸外國はオインソレと之に應ずる者は無かつたのであらう、是に於て已むを得ず紙幣を亂發したのであらう紙幣の亂發は留を暴落せしめたであらう而して國民は塗炭の苦みに苦んだであらう、而して革命落着後の露西亞は諸外國の承認を受くると共に利權を提供して借款を起すのであつたらう、斯く觀じ來れば過激派の資本革命が無かつたとしても將た戦争中は幸に無事に經過したとしても、露國は結局今日の境遇を免がれんとして免るゝことの出來ない運命であつたのである、去れば結局の歸着點も推して知るべきのみで落ち行く先は九州相良ならぬ利權提供外資誘入より外には道が無いのである、所で傲慢自尊を以て性とせる露國が利權を提供して外資誘入に感念するまでには未だ苦勞が足らぬであらう我社のチタ特電にも極東政府は、諸外國の經濟的援助を期待して居るとあつた如く傲慢自尊を以て性とせる露國は利權提供をソツチ除けにして諸外國の經濟的援助を期



待して居るのである、誠に虫が好いのである左前になつた舊家が先祖傳來の田畠を賣却して之を整理すべく容易に決心の出來ぬのと同様である、今回當地にチンメルマンヤポドルイフ等を中心とする民主同盟大會なる者が出來た、此派は非社會黨派に比すれば幾分物の解つた連中ではあるけれども、齊しく官僚と金持の遺物である傲慢自尊の標本である彼派は今や言論の時代にあらずして實行の時代であると宣言して居るが、如何な事を實行するのか知らないが併し此文句も何度か繰り返された古い文句である、兎も角同派の宣言の如く露國の今日が實行時代とすれば利權提供外資誘入の如きは先づ以て實行すべきもの、一つであらう、所が此利權提供外資誘入の如きは先づ以て實行すべきもの、一つであらう、所が此利權提供外資誘入に率先して反對する者は彼派である、否外資誘入には反對せぬが利權提供に反對するのである、諸外國の經濟的援助を期待する虫の好い手合である、自ら助くる者は天之を助く露國を救ふの道は露國が自覺する時までヂット袖手傍觀して居るより他に策は無い様である

### 一場の悲劇

去廿六日の憲法議會に於て前日選任した統領と統領首班及び内閣議長の就任式があつた、

其時に内閣議長ニキホロフ氏のなせる演説の内容が然るばかりでなく、病後の身を提げて登壇して此演説をなした氏の態度をも聯想して、吾人は何となく悲壯の感に打たれたのである其演説は昨紙掲載の通りであるが、更に之が要點を擧ぐれば經濟狀態特に財政狀態は窮境に在り國庫は空虚なり産業と輸送機關は荒廢し給養狀態も窮境に達し、労働者其他の従業員等は犠牲を忍びつゝあり外國資本の輸入は可能の光明を認む、吾人は日本に對して爲し得べき丈の事は之を爲せり然るに沿海州の一部は日本の爲めに占領せらるゝに至れり、共和國の現狀は一切を擧げて窮境に在り各人の努力を要すると共に、各政黨を問はず政府をして其使命を果さしむべく援助を辭せざることを確信す云々以上ニキホロフ内閣議長の演説は極東共和國の現狀に對する所謂僞らざる告白である、否極東共和國の現狀は僞ることを許さぬ程それ程窮境に在ることを説明するものである、即ち極東共和國のポロは最早や之を隠さんとして隠すことが出來ないのである、而して今は内閣議長に新任されたるニキホロフ氏に依りて、此ポロが僞りなく告白否曝露されたのは、一面氏の性格の卒直を語るものであると共に其處に吾人は極東共和國の爲めにもニキホロフ内閣議長の爲めにも一種無限の悲壯を味はざるを得ざるのであるニキホロフ内閣議長の僞らざる告白の通り、極東共和國は如何やら斯うやら

政權は統一したといふもの、産業も輸送も経済も財政も従つて給養を擧げて窮境に在るのである、而して之を回復するといふことは何人が局に當るにしても蓋し容易の業であるまい、統領の首班クラスノシチエコフ氏が略血しニキホロフ内閣議長が病後の身を提げて就任式の演壇に登るなど實に一場の悲劇であると思ふ、此一場の悲劇に對して吾人は滿腔の同情を惜まぬ者である、然り此一場の悲劇に對しては吾人は滿腔の同情を惜まぬ者ではあるけれども併し顧て之を思ふに極東共和國今日の悲劇は極東共和國自身の罪ではなくして、鄙語に所謂親の罪が子に報ゆるものである、即ち舊露西亞帝國が遺した罪業の應報と見るべきもので之れを免がれんとしても免がるべからざる因果であると思ふ、ソハ兎も角として共和國なる名の下に露西亞本國より分離を宣したる極東の運命は今後如何なるであらうか、世間周知の如く極東は露西亞が近世に於て之を侵略した地方であつて、爾來露西亞の殖民地であつたのである、然かるに露西亞本國の革命の餘波を受けて窮境に陥つた極東が一朝本國から分離して果して獨立して行けるであらうか、露西亞本國が無事であつてこそ之が殖民地として極東に立つて行けこそすれ今は本が枯れ、其枯れた本から分離して末のみが榮えるといふことは無理ではあるまいか、極東は未開の殖民地である而して人口も稀薄である稀薄なる人口は到

底政費の負擔に堪えぬのである、況んや將來の拓殖資本に對しておやである、抑極東が露西亞の殖民地であつたのは移民と資本とを露西亞から仰いだからである、而してそれが杜絶することになれば其時から露西亞の殖民地たる極東は棄兒乃至迷子となる譯である、極東が共和國の名の下に露西亞本國から獨立を宣したのは、棄兒乃至迷子となつたことを聲明したも同然である、極東共和國の統領と統領首班及び内閣議長の就任式が一場の悲劇として吾人をして無限の悲壯を味はしむるのも之が爲めであるまいか、元來極東は地理的にも民族的にも歴史的にも將た経済的にも東亞が之を支配すべきである、それを露西亞が之を支配したのは無理であつたのである、此無理が極東をして今日棄子乃至迷子の境遇に陥らしめたのであらう、之を要するに露西亞本國より分離して産業も輸送機關も経済も財政も惹いては給養も擧げて窮境に陥り即ち棄兒乃至迷子の境遇に陥りたる極東共和國は、露西亞本國が復興して従前通り殖民地として面倒を見て呉れぬ限りは、早晚何國かの手に依りて経済的に拾はれねば到底現在の窮境から脱することは出来ぬのであらう、ニキホロフ内閣議長が外國資本の輸入は可能の光明を認むといふのは経済的に拾ひ手を求むる聲ではあるまいか、換言すれば勞農政府は極東の獨立を承認したのは謂はゞ態好く之を棄てたのである、既に棄てられたる極東

共和國は何國かの手に依りて經濟的に拾はれねばならぬのである、然るに何國かの手に依りて經濟的に拾はれねばならぬ運命に在る極東共和國としては、餘りに自尊心に囚はれて居る様である、此囚はれたる自尊心と現實の窮境とが一場の悲劇を演ずるのではあるまいか、彼の急霰の如き拍手の間に行はれたる極東共和國の政府員就任式に對する吾人の感想は斯の如くである

### 露國の運命

極東政府は數日前産業視察使節派遣に就て、日本に提議したると同様に米國に對しても提議した、尤も米國に對しては最近倫敦駐在のクラシン氏を通じて通商開始を交渉して居る、米國は之に對して勞農露國との商取引は現金勘定のこと個人資本保證等の條件を提出せるに對して昨電に據ればクラシン氏は同條件に同意する旨を回答して居る、同交渉の結果米露通商開始の端緒が開かるゝや否やは疑問であるが、假りにクラシン氏が米國提出の條件に同意したりとしても之が實行は如何なものであらうか、勿論外國人の資本は之を保證するとしても商取引を現金勘定とすることは果して之を實行し得るのであらうか、若しも勞農露國が

諸外國と現金商取引をなし得る力を有するならば何等問題は無いのである、只だ此力が無いからそれで通商開始の問題も行き惱んで居るのではあるまいか、兎も角も露西亞は今や東西を通じて諸外國と通商關係を開始せなければ經濟的に日に日に瀕死するのみなのである、通商開始交渉の當局者が近來は餘程腰が折れて該問題に對する諸外國の提議條件を動もすれば唯々諾々として承諾せんとするの傾向あるのは其如何に之が開始を切望して居るかが察せらるゝのである、所で吾人の所見を以てすれば諸外國との通商開始の問題は何度之を繰り返して見ても無益である、否交渉が成立しても之が實現は不可能であると思ふのである、何故なれば現金取引に同意しても現金が無ければ駄目である、物々交換をするとしても其物が無く物があつても輸送機關が無ければ之も駄目である、ソコデ結局露國が諸外國と通商を開始するとせば利權を讓與して外資をば誘入せざる以上は、産業の復興も通商の開始も言ふべくして行はれない問題である、此點から見て極東政府が一昨日を以て發布したる森林伐採利權許可令の如き又目下交渉中に在りと傳へらるゝ支那汽船會社に河川航行許可問題の如きは外資誘入と産業復興策としては最も機宜を得たるものであると思ふ、唯だ其條件が餘りに自國の利權を保護するの跡がある、是れで外資が安心且つ満足して流入して來るのであらうか如何

うかが甚だ疑問である、一體露國人は自尊心が強くて且つ勝手の性分である、實は此自尊心の強いこと、勝手の性分が今日露國を悩まして居るのである、蓋しレーニン始め彼の革命派は露國の産業と經濟的復興を圖るには如何うしても利權を割讓して外資を誘入する外には道が無いといふことを感念して居るらしいのである、然るにも拘はらず其此に出づることの出來ないのは何れ彼の自尊心の強い而して勝手の性分に富める國民性の反感を買ふことを惡れてであらう、此自尊心の強いこと、而して勝手の性分は舊來の官僚系の反革命派に於て特に頑冥の傾向があるのである、此等頑冥の舊來の官僚系の反革命派は若しも經濟的開放政策にでも出でんとするを見たならばそれこそ直ぐに賣國奴呼はりをするのである、此賣國奴呼はりをして同じく自尊心の強い而して勝手の性分に富める國民を煽動さるゝことが彼のレーニン始め革命派にとつて此上もなき痛手であるのである、それで思ひながら彼派も直ちに利權割讓の舉に出づることが出來ないのであらう、現に當地の商工團體は極東政府の森林伐採利權讓與に反對して居るではないか、昨日同じく彼の派に屬する或新聞は當局が財政にかけて無策無能なることを攻撃し臨時貨車組立工場の閉鎖義勇艦隊の休業ウスリー鐵道とストチャーン炭坑の窮困海軍機械工場の經營權讓與計畫等を列舉し來りて斯くの如く當局は露西亞母國

までも利權として諸外國に之を讓與せんとするのであると悲憤慷慨して居た、彼の舊來の官僚系の反革命派は侵略と排外とを國是とする自尊心の強い、而して勝手の性分の本尊たる露西亞帝國の遺物である、此等遺物を倒して政權を其手に收めたるレーニン一派は今日では彼等遺物の爲めに制肘され又は反視されんとして居るのである、此間の情勢は我國維新當時に於て攘夷鎖國から開國進取に豹變した尊王黨と開港貿易を唱へながら朝敵として征伐されたる佐幕黨の對立に髣髴たる者がある、攘夷鎖國の尊王黨が政權を取つても朝敵視されたる佐幕黨が政權を取つても開國貿易は日本の運命でありし如く、個人資本を否認する革命派も之に反して個人資本を承諾する反革命派も局に當れば經濟的開放と外資誘入は露國の運命である、此露國の運命は何れの派に依りて開拓せらるゝか吾人は多大の興味を以て之を傍觀する者である

## 通商と留問題

歐洲大亂勃發後露國の貿易は片貿易となれると共に目前の急を凌ぐ爲め且つは過激派の貨幣の價值を失はしむる手段の爲めに紙幣は夜を日に繼ぎて亂發せられ、斯くて留は暴落に續ぐに暴落を以てし片貿易も遂に杜絶するに至り、財政も經濟も紊亂と破綻の狀態に陥れるなり、是れ實に露國の資本革命の實情なり

## 露國當局の猛省を促す

露貨の大暴落と共に物價は暴騰に續くに、暴騰を以てし各人の生活は日夜脅威を受け露國の社會を擧げて今や噴火山に座するの感あらしむ、留の暴落は物價の暴騰となり物價の暴騰は生活の不安となるは當然の順序にして、此時に當り局に此に當る者は常に意を之が調節に致さざるべからず、而して之が調節策は一にして足らざるも主として輸出入をして甚だしく權衡を失はざらしめんとするに在り、留の暴騰は畢竟するに輸出入が甚しく權衡を失へたるに因るものなればなり、因て吾人は露國當局者に望む所は此際輸出に對しては特に獎勵的

態度に出で常に之が宜便を與へ甚だしく權衡を失へたる輸出入をして出來得る丈之を挽回に努むる一方進んでは利源を開放して外資をして安心して流入させむるの策を講ずるに在り、然るに今日までの露國當局の爲す所は大に之に反し此等に關し何等意を致す所なく、徒に其政府に對して聯合與國をして承認を與へしむべく之を得るに汲々として日も是れ足らざるものゝ如く而して眼前の人民の利害休戚に關しては殆んど之を等閑に附するの觀なくんばあらざるなり、蓋し聯合與國の承認を得るは勿論露國の現状回復策の前提に外ならざるも、同時に之が前提以外に手を下さざるべからざるもの多々ありて存するが如く思はるなり、抑聯合與國の承認なる者は他力にして而して輸出入の調節、進んでは利源開放の如きは是れ自力なり先づ自力に頼りて而して後ち他力に頼るを順序となす、然るに露國當局の爲す所は内外本末前後緩急を轉倒するもの如し、吾人は茲に露國當局の先づ以て頼らざるべからざる所謂自力の二三に就て論せんに、輸出を獎勵して幾分留の暴落を防止せんと欲せば當地方における輸出材料の如きは一に足らざるが如し、他は暫らく之を措き彼の革命後荷受人不明となり空しく税關埠頭に山積する滞貨は幾百萬布度を以て數るに非ずや、非常の場合に處しては非常の手段を要す此等滞貨に對しても非常の手段に出で之が處分をなさば之れのみにては優に

一時は留の暴落を防止するを得るなり、然に露國當局は此に出づるをなさず加之其他の輸出に對しても便宜は愚か反對に不便を與へ以て之を妨碍せんとす、彼のワリュータ制度の復活の如き即ち是れ也、日本の貿易業者は沿海洲の漁類木材等を輸出せんとして續々として來る交通杜絶し物資缺乏中に在る沿岸の露國民は日本の貿易業者を歓迎して措かざるなり、然るに露國の當局は之を禁壓せんとするのみならず、中にも無實の罪名の下に捕拿せられたる日本帆船七隻は四月以來未だ一回の豫審も受けず、當灣内に抑留されあるにあらずや、輸入後取引不成立の爲め逆輸出せんとする者すら、死法舊規に拘泥して之を許さず古鐵輸出に對して將來露國が工場勃興の際における必要なる材料なりとて、之を禁止せるが如きに至りては覺えず噴飯せざるを得ざるなり、斯くの如くして留の暴落し物價は暴騰し人民は塗炭の苦に陥るは當然の結果にして是れ所謂其喉を扼して其脊を拍つ者なり

今やオ政府は知識階級に對して動員令を行ひ、強制的に徵集しつつあり然るに被服糧食等の給與不充なるより脱走者續々ありと聯合與國の承認を得るは、固より必要の問題なり併しながら同時に人民の饑渴は寸時も之を袖手傍觀するを許さず、承認問題は他力に頼るものなるも人民の饑渴救濟の多くは自力に頼らざるべからず、然るに露國當局の爲す所は上述の

如く内外本未前後緩急を錯誤轉倒せるもの如し、此錯語轉倒せる政策はやがて社會を擧げて噴火山上に座するの思ひあらしむ、論じて此に至り彼の鐵道の線路鐵橋を破壊して安寧秩序を破壊する者が過激派なりや錯誤轉倒せる政策を行ひ以て社會を擧げて噴火山上に座するの思ひあらしむる者が過激派なりや、吾人は烏の雌雄の判斷に苦まざるを得ざるなり、自ら助くる者は天之を助く吾人は露國の當局に向つて其錯誤轉倒せる政策に對して茲に猛省を促して休まざる者なり

### 證券取引所

今回當地有力者の發企にて有價證券取引所開設せられ、一昨卅日を以て發會式を擧げられたり、同取引所は従前歐露の首要都市には設備ありしが歐洲戰勃發後閉鎖を命せられたるやに聞く當地方に於ては之が開設は當初より禁止せられ、従つて今次開設せられたるを嚆矢となす當地の如き開港市場に於ては此程の機關は必需機關たることは勿論にして、寧ろ之が開設の機を失せるにあらざるかを疑はざるを得ざるなり、同取引所は何故に當地方に於て之が開設を禁止せられたるか而して今回之が開設を見るに至りたる動機等に就ては、吾人の詳知

する所にあらざるも何れ財界の現状が此種の機關開設を要求せるに因るならんか、同取引所は名稱の示すが如く主として有價證券の外にソリユータの取引を以て、目的とするなるが唯だ吾人の疑問とする所は其取引主要物件たる有價證券が、現時の露國に於て之れ有りや否や是なり固より絶對皆無といふには在ざるも、幣制改革其他の際に其多數は既に廢棄に附せられたるにあらざるか果して然らば名稱は主として有價證券の取引に在るが如きも、事實に於ては留の取引多きに居るならんと察せらる、蓋し當市財界の有力者は今次同取引所を新設せるも其動機と目的は彼の臨時政府の幣制改革令に依りて發行せられたる新紙幣が、臨時政府は一對十を聲言せるに拘はらず、事實は臨時政府の聲言を裏切り新紙幣は日に暴落する一方にて此儘にて放任せば彼西伯利札と同様の状態に陥るやも知るべからず、此は何等か對應策を講せざるべからざるに至り、而して之が對應策の第一着手段として先づ同取引所を開設しそれを操縦して暴落一方の留食ひ止め又は引上げに利用せんとするにあらざるか、若しも吾人の推察にして誤たすとせば該計劃は前に臨時政府の實行せる幣制改革令と同様、朝三暮四の策にして勿論暴落に次ぐに暴落を以てする新紙幣をば斯くて一時は之を食ひ止め、又は引上げるを得るならんも結局は姑息儉安の策にして何等得る所なきに終るにあらざるか、何と

なれば留の取引は影なり輸出入は形なり形が絶滅中なるに其影をのみ左右せんとするは、是れぞ是れ手品なり投機なり手品や投機に依りて、人爲的に之を左右するを得るならんも、ソハ斷じて根本的永久の策にはあらざるなり、否斯くては彼の二百分の一に切り捨てたる貨幣改革令と何等選ぶ所なきのみならず、左なきだに絶えず不安の中に在る財界をして一層不安に陥らしむるにあらざるか、吾人の所見を以てすれば動搖極りなき現時の留をして安定を保せしめ若しくは騰貴せしめんとするは、之が形とも謂ふべき輸出入否輸出を發達せしむるに在り輸出にして發達せば留の需要は自然に増加し何等人爲的作用を加へざるも當然安定を保ち又は騰貴するは疑ひなく留の安定又は引上は蓋し之を措いて、他に策なきが如く思はるるなり尤も輸出の發達を圖らんとするも、彼の滯貨を除きては輸出すべく殆んど何物もなく多少之れありとするも、輸送機關の荒廢は意の如くならず謂ふべくして行ふべからず、それとは承知しながらも一時を糊塗する姑息儉安の策に出でざるを得ざる事情もある、なるべく去りとして露國財界の現状も亦實に氣の毒とや謂ふべき之を要するに露國現時の財政經濟を根本より匡濟整理せんとするには内外の承認する政權を確立し、利權を提供し又は内外の安心する條件の下に外資を誘入するにあらざるよりは、不可なり其以前における各種の對應策は畢

竟するに同じ重箱の底を漁るの類にて朝三暮四にあらざれば姑息儉安の策に過ぎざるなり、換言すれば露國現時の財政經濟の根本的匡濟整理案は主權の確立と共に、諸外國に對して一切を抛り出して之が處分を仰ぐより外なきなり、是れ蓋し露國の前途に横はれる避けんとして避く可らざる運命にして何人も暗黙の間に之を承知するならんも、露國には露國相應の自尊心もあり且つ政情の混亂せる今日なれば、其此に到達するまでには尙ほ幾多の曲折を要するならん、而して彼の幾度か繰り返されんとする朝三暮四姑息儉安の策も必らずや經由せざるべからざる曲折の一道程と見るべきか

### 對露貿易の敗退

聯合與國が若しもオムスク政府に對して單に財政乃至軍需品等に對する援助に止まり、積極的武力援助に出ですとせば同政府の前途は甚だ同情に堪へざる者あることは前に吾人の論述せる所なるが、果然同政府の昨今は東風兎角競はず形勢日に非なるもの、如く風説の傳ふる所に據れば同政府は今にもイ市向け移轉の準備あるやにて人心恟々たる者あり、之に對して我前線師團長は若しも過激軍が我守備前線を侵すこともあらば、斷乎之を阻止し彼等をし

て一步も我守備線内に進入せしめざれば、安堵業に従ふべき旨宣告せりと、然り彼の過激軍が如何に狂暴なりと雖ども我日本軍の守備線内には、一指も染むる能はざる所なるも唯だ傳ふるが如くオムスク政府が果して東遷するに至らば左なきだに偏安政府たりしオムスク政府は更に益々偏安政府となり其勢力範圍は僅に人煙稀疎なる東部西伯利以東に限らるゝに至るべく形勢挽回の一層困難に陥らんのみならず、同政府發行紙幣の流通區域も縮少せらるるを以て暴落を重ねたる留は更に急轉直下の勢を以て、大暴落をなすにあらざるが、事此に至らば彼の投機暴利取締令の如きも如何に之を勵行すればとて、遂に何等の効果なかるべく是れ大に注視を要する問題なり

抑我對露貿易は歐露の市場と交渉連絡を保つを得て、此に始めて隆盛を期するを得るものにて去れば歐洲戰爭前我對露貿易の甚だ振はざりし所以も之が爲めの故なり、然るに歐洲戰爭の勃發は歐露の市場をして日本の市場と接近せしむるに至らしめ、斯くして我對露貿易も俄然長足の進歩を見るに至れるなり、而して彼の露國の革命は俄然長足の進歩をなせる我對露貿易の最前線を一朝歐露より撃退せるの觀ありしも、併しながら歐露との交通杜絶せざり其間は尙ほ一縷の望みを屬せるなり、然るに彼の勞兵會とチエツク衝突に次いて聯合與國の



出兵となるや歐露との交通全く杜絶すると共に、彼の一縷の望みを屬せる我對露貿易の最前線も共に閉鎖せらるるに至れるなり、然り我對露貿易の最前線は斯くして歐露より撃退さるゝに至りたるも、之と同時に彼のオムスク政府の勃興に依り僅に東西西伯利亞に據りて其殘喘を保ち以て今日に至れるなり、然るに今は彼のオムスク政府が東遷するにも至らば我對露貿易も之と共に東遷せざるを得ざるべく、換言すればオムスク政府の敗退は即ち我對露貿易の敗退にして我對露貿易は今やオムスク政府と消長進退を共にすと謂ふも、不可なからんなり、且つ夫れオムスク政府がウラル戦線を阻支する際に於ても我對露貿易は既に其最前線を失ひたるのみならず留の關係等にて事實上我對露貿易は中止の状態に陥りしなり、然るにオムスク政府の東遷と共に我對露貿易の範圍も更に縮少せらるるのみならず、之が爲めに留に大影響を及すこともあらば我對露貿易は有形無形共に大敗退にして否危急存亡の秋とも謂ふべきなり、吾人は彼のオムスク政府東遷準備云々の風説を聞きてその之が我對露貿易と重大の關係あるを思ひ我對露貿易業者に對して茲に一大警告をなす所以なり

### 對露貿易の形式變化

自由貿易と保護貿易とは各國家間の貿易關係を支配する有力なる政策なり、無論今後と雖も此政策が各國家間の貿易關係を支配することは、依然たるべし唯夫れ將來における諸外國の對露貿易關係は此政策の支配以外に從來とは全く異なる形式を現はすに至るにあらざるか、是れ今より大に攻究を要する問題なり

蓋し露國の革命は主權革命より資本革命に急轉直下せるものにて、露國の主權革命は世界に於ける最後の主權革命なると共に、其主權革命より急轉直下せる資本革命とも謂ふべく世界各國が此世界における最初の資本革命に對して一齊に驚異の眼を放ちたるのみならず、如何にして之を防歴せんものと苦心せるも亦宜なり、然り當初は驚異の眼を放ち如何にもして之を防歴せんものと苦心せる聯合與國も、今は根氣盡きてか其態度を一變し來り、之が防歴は兎も角として責めては通商關係丈も開始せんものとオサク運動を怠らざる者もあるが如し、世界における最初の露國の資本革命が其理想の如く果して完成するや否やは吾人の關知する所にあらざるも併しながら聯合與國が従前の對露態度を變更せるに反して、露國の資本革命が益々勢を得て年來の主張に向つて突進し來れる傾向あるは争ふべからざる事實なり、世間或は曰くレーニン一派も其理想實現の到底不可能なるを自覺せるものの如く、最近其主

張稍々軟化し來れりと吾人の所見を以てするに、是れ必ずしも然らずレーニン一派の自覺より來れる軟化と謂はんよりは寧ろ反對に反レーニン派かレーニン一派の主張を理解し來り、之に對する反抗の漸く融和し來れるものとも謂ふべく、レーニン一派は歩一步其理想實現に接近し來れるが如く思はるるなり、彼のレーニンが獨裁專制を宣言し又勞働軍を編成せるが如きは愈々以て其主張に係る共產共費の社會實現に一步を進めたるものとも見るべく、歐電が勞農政治は今や正に建設時代に入れりと傳ふるも之が爲めならん、然り若しも昨今の勢を以て進行せば彼派は遂に或は彼派年來の主張を實現するに至るやも知るべからず、果して然らば國內の生産機關は擧げて公營に附するならんと同時に、對外貿易も彼派の稱ふるが如く貿易局を経て行はるるに至るならん、斯くて從來主として彼此各人を通じて行はれたる對露貿易は一變して國家對個人の取引關係となると共に、其大半は物々交換を以て行はるゝに至るやも知るべからず、事此に至らば是れ實に露國の經濟組織の根本的の一大變化にして従つて對露貿易も全く從來の形式を變更するに至るものと知るべし、吾人の此言をなすや人或は斯様な馬鹿な事があつて堪まるものか否斷じて有り得べからずと曰ふ者あらんかなれども、假りに一步を譲り彼のレーニン一派の過激派が倒れて同じく資本革命派に屬する穩健派が將來

の露國を支配するに至りたりとするも露國の對外貿易は主としてコペラチを通じて行はるゝに至るや明かにして勿論自國産業保護上保護貿易乃至自由貿易の二政策中其何れかに出づるならんも何れにしても經濟組織の根本的の一大變化は惹いて對外貿易の形式にも一大變化を來さざれば止まずと見て不可なからん

吾人の此言をなす豈に他あらんや、左なきだに我國の對露貿易は相手が大き過ぎるの觀あり尤も歐洲戰亂後の日本は萬事にかけて、亦昔日の日本にあらざるも尨大なる露國に對しては之に相應する計畫を要するなり、然るに我國は小資分立特に對外貿易に關しては同志打競争の弊あり兎角合資協力一致の歩調を保つ能はず、斯くては縦令しんば従前の儘の經濟組織の露國に對しても列國と競争對抗の不可なるは勿論なり、今や我國は朝野を擧げて撤兵非撤兵に煩悶中に在るに當り、聯合與國中の或者は如何にして對露貿易を開始すべきかに焦慮中に在り、今にして日本國民が來るべき對露貿易に關する劃策を閑却することもあらば、前に彼の聯合與國の對露援助打切宣言を見て、脚下驚禽の感をなせると同様再び周章狼狽の醜態を演ずるにあらざるか是れ吾人が茲に將來に於ける對露貿易の形式變化を豫想し、敢て聊か朝野の注意を促がさんと欲する所以なり

## 要は資本問題の妥協に在り

彼の英國が如何にもして露國と通商を開始せんものと焦慮中に在ることは、既報の如くなるが獨り英國のみならず米國も亦我國も彼の勞農政府承認は兎も角として、先づ購買組合と通商開始の如きは敢て辭せざる所なりとは、最近の外電の報ずる所なり、一方極東に於ける過激派は努めて武力的衝突を避け平和の間に政權を其手に收めんと期するものの如く、蓋し彼派が斯かる態度に出で來りたるは、一に彼の破壊的暴力に依るの徒に諸外國に武力的干涉の口實を與ふるのみにて最後の目的を達する所以にあらざるを自覺せると、一は彼の聯合與國が露國に對して根氣盡き通商開始に戀々たるの態あるを見て取りたる彼派は、經濟的方面より聯合與國を牽制し且つ之と抗せんとの意にも因るならんか、彼派が態度一變と共に従前の暴力亂用時代に比して寧ろ鼻呼吸荒らく彼のレーニンが英國に對して勞農政府を承認せざる間は通商開始を許さずとて之を拒絶せるが如き以て見るべし、兎に角彼派は斯くして先づ主として經濟方面に於ける實權を收むると共に、經濟的排外方針の下に聯合國に向つて挑戰の擧に出で來たるなるべく當方面における彼派が自治派を表看板に押立て、其脊後に立ち

て實權を掌握せるや不動産讓渡禁止令、各銀行に對する監督官設置及輸出に對する新令の如き其一端を窺ふを得べきが果して然らば彼派の態度の軟化は、其實之を硬化とも見るを得るなり、斯くの如く内外に於ける最近の趨向より之を推すに從來の聯合與國對露國武力的關係は漸次經濟的抗爭に一變せんとするものと見るべし、而して此聯合與國對露國の經濟的抗爭が將來如何に解決すべきかは大に注目を要すると共に大に講究を要する一大問題にあらざるか

由來過激派の主張に係る社會主義は聯合與國の資本主義とは根本に於て正反對にして、聯合與國對露國と經濟的抗爭は即ち社會主義と資本主義の衝突にして、此兩主義の衝突が如何なる形式に於て解決すべきか、是れ實に興味ある問題なり、勞農政府外交全權委員ウレーンスキー氏曰く若し我國の經濟政策に抵觸せず、我國の監督に服し一定の期限後に還附する條件を承諾せば利權の讓與は固より辭する所にあらずと、又曰く大工業には實際に於て外國資本の必要を認むるなりと資本主義反對の彼派が資本の必要を云々するは、一見矛盾せる如きも彼等の意は私有資本は之を排斥するも公有の資本は之を歓迎すと謂ふに在るなるべく、果して然らば將來露國に對し公有と私有とを問はず、投下せらるる外國資本ありとせばそは所

謂「御貸し下さる資本」と見るの外なし、而して諸外國中露國に對し喜んで「資本を御貸し下さる者」あらば誠に結構の事なり、問題は此處に在りて存するなり之を要するに武力的關係より一變せんとする聯合與國對露國經濟的抗爭は、根本的正反對の資本問題に關して妥協點を發見するを得て而して後ち始めて之が解決を見るを得るものと謂ふべく、而してその此に到るには勿論今後幾多の曲折波瀾を免かれざるべく、前途實に遼遠と謂ふべきか

### 對露貿易の救護策

我對露貿易は今や絶退絶命の境に在り、以前彼の留が一萬を突破すると聞くや何れも相見て恐慌の色を示せるに反して今日は二萬を突破せるに拘はらず、一向に去る氣色なきより見るも如何に我對露貿易が其彈力否氣力を失ひ、絶退絶命の境に在るかを察するを得るならん吾人は對露貿易の現状の其由つて來る所以の跡を回顧する毎に、滑稽的悲惨悲慘的滑稽を覺えずんばあらざるなり

彼の歐洲戰亂勃發と共に對露貿易の勃興するや、猫も杓子も口を開けば則ち對露貿易を云々し職人にして商人に早變りせる者もあり、内地よりは新來の商人種を接して蝟集す中にも

對露貿易の前哨隊とも謂ふべき當港在留の當業者等は、多年の苦節を報ゆるは此時に在りて何れも競ふて業務を擴張し以て一大飛躍を期せり、然るに今は斯くの如し彼の春燕秋雁の如く忽來忽去する新來の商人等は兎も角として、所謂對露貿易の前哨線たる當港半土着の當業者等に至つては輕々進退を許さざる者あり、特に多少は無理算段をしてまで不相應の擴張をなせる矢先此始末なれば其苦痛も左こそと思はるるなり、我對露貿易の此に到れる順序に就ては世間は百も承知なるが彼のチェツクの蹴起と共に、勞兵會の没落となり次いで聯合與國の出兵に續いてオムスグ政府の出現は今日となりては彼の對露貿易業者にとりては、寧ろ恨みの種ならん、彼のオムスグ政府は聯合與國の力に頼り全露を統一し同時に對露貿易も復興するものと思ひの外オムスグ政府は、全露の統一は愚か寧ろ我對露貿易の杜絶に力を致せるものと謂ふべく、彼のケレンキ廢止を始めとして輸出入に對する拘束の如きワリユータ制の如き一として我對露貿易禁絶策にあらざるはなし、對露貿易の禁絶と共に留は暴落に續くに暴落を以てし斯くて我對露貿易業者等は、折角輸入せる貨物も銀行に對して未決濟の儘空しく税關倉庫内に藏するの苦境に陥れり、加之最近露國人までが彼の支那人に做つて日貨排斥を行ふに至ては我對露貿易は腹背敵を受け、喉を扼して背を打たるものにて其絶對絶命

の境に立ち到るも當然にして是れぞ滑稽的悲慘的滑稽にあらすして何ぞや、兎も角我對露貿易を現状の儘にして放任するは所謂見殺しにするものにして、此際何等か救護の策を講ずることは焦眉の急務なるが如く思はるゝなり知らずそが救護の策東して如何

吾人の所見を以てすれば救護策の第一着手段としては、先づ以て露國をして彼の輸出入に對する拘束を撤廢せしむるに在り、即ち税關の關門を打開するに在り此意味に於て彼の領事團の臨時政府に對する抗議の如きは、最も吾人の意を得たるものと謂ふべし、否何故に早く業に此に出でざりしかを恨む者なり、輸出入に關する拘束の撤廢即税關關門の打開は何事を措いても之を決行せしめざるべからず、彼の輸出入に關する拘束にして撤廢せられ即ち税關の關門にして打開せらるる事にも至らば、絶對絶命の境に在る對露貿易も幾分生氣を帯び來るなるべく同時に暴落暴落の留も自然回復し來るならん、是れ絶退絶命的の對露貿易を救護すると共に兼て露國を救護する所以にして一舉兩得の策と謂ふべきなり、斯くの如く外は露國をして彼の輸出入に對する拘束を撤廢せしめ、即ち税關關門を打開すると共に内は我對露貿易業者に對して低利資金の貸下をなすも、亦救護の一手段たるを思ふなり尤も此等に關しては種々の議論あらんも、今日の場合は區々たる常規に拘泥するの時機にあらず、彼の西伯

利經濟援助會の事業の如きは之を我對露貿易の援助に移すも可なり、何となれば我對露貿易を援助するは即ち西伯利を援助する所以なればなり、彼の税關における滯貨拂下の如きも多くは歐米人の手に落つる所以も我對露貿易業者の力乏しきが故ならん

之を要するに上記の救護方法にして實現せらるるを得ば、彼の絶退絶命の境に在る我對露貿易も幾分生氣を回復し一時呼吸するを得るならんか、若し然らず現状の儘に放任して見殺しにせば他日歐露との交通開始し對露貿易復興に際するも、遂には全然再起の力無きにのる者もあらんなり、勿論以上の救護策は過渡期に處する應急手段に過ぎざるも亦媾和成立後至對露貿易に對する休食又は準備とも謂ふを得べきか

### 留の暴落と露國の復興

昨日は左しにも暴落中の留が遂に拾萬を突破せるより、露國實業界も一大恐慌を惹起し狂奔中に在るやに傳えらる、臨時政府側にては反政府陰謀勃發の風説の爲めに一大恐慌中なるに搗て加へて實業界の此一大恐慌は前狼後虎とも謂ふべく、而して留の暴落は彼の反政府陰謀に比して露國の爲めには深憂大患と謂ふべく、併しながら吾人は露國の復興統一の爲めに

寧ろ此深憂大患を歓迎する者なり、何となれば留の暴落は露國各階級の生活を脅威する問題にして同時に露國の復興統一を促進する捷徑なればなり。吾人が再三反覆論議せるが如く露國の復興統一は先づ以て内外の承認する主權の確立に待たざるべからず、内外の承認する主權の確立せざる以上は外資は流入せざるなり、外資にして流入せざれば留の暴騰は得て望むべからず留が暴騰せざれば露國の各階級の生活は絶えず脅威を免がれざるならん、夫れ然り露國の復興統一は其端緒を經濟財政の問題に求めざるべからず、彼の勞農政府が最近諸外國に對して頻りに通商關係開始に焦慮中に在るも、之が爲めに外ならず而して未だ之が實現を見るを得ざる所以は内外の承認する主權の確立せざるに因るなり、然るに萬事に拔目なき彼の勞農政府が此に是れ氣着かずして、本末顛倒の擧に出づるは餘りに自尊心の強きの然らしむる所ならん獨り勞農政府とのみ謂はず、露國官民一體が自尊心の強きことが露國をして今日あらしめたる所以にして而して留の暴落は此自尊心強き露國をして反省せしむべく、項門の一針と謂ふべきなり

抑内外の承認する主權確立は露國の復興統一の根本問題にして、此根本問題にして解決せざる以前の各種の政變は何れも枝葉の動搖に過ぎず、極東の一角におけるその如き特に然

りとなす此時に當り彼の留は政情の如何に遠慮なく暴落に續くに暴落を以てするは露國をして此根本問題を解決すべく餘儀なくせしむるものにて露國の復興統一を促進する一大端緒とも觀るを得るなり、此意味に於て吾人は留の暴落を歓迎すると共に寧ろ留が全く價值を失ふに至ることを希望する者なり、留の無價値は露國の破産なり換言すれば露國の復興統一は破産後に於て之を觀るを得べし破産せる露國は否が應でも、何等かの形式によりて諸外國に對して利權を提供せざるべからず、斯くして露國は始めて外資を誘入するを得るならん蓋し露國の前途は窮極する所破産を免がれざるならん、世界中露國と支那とは二大借金國たることは天下周知の事實にして就中露國の如きは之が決濟を完了せば、必ずしも今日を待たずして破産を免れしならん而して破産は必ずしも亡國を意味するものにあらず、破産によりて其得べきものは之を得失ふべきものは之を失ひ、斯くして露國の現状は始めて根本的に解決せらるるを得るならん、果して然らば留の暴落は是れやがて露國復興統一の端緒と觀るべきか

## 經濟的白兵戰

留は昨日を以て將に三十萬豪を突破せんとの形勢を示すに至れり、事此に至りては紙幣は最早や古新聞紙と殆んどイガヤンと謂ふも不可なからんか

露國當局は既往に於て留の引上を口にせるにも拘はらず曾て之を實施せることなきのみか寧ろ反對に之が引下策に力を致せる跡あり、去れば留が今日の如く無底の暴落を遂ぐるも無理からの事ぞかし、蓋し貨幣と賣買の廢止を理想とする共產黨は兼ねて斯くあることを豫想否豫期する所なるべく、否斯くして着々理想を事實上に實現せんとする者にして留の無價値に垂んくとするは彼の派の大に歡迎して措かざる所ならん、彼の派は斯くして先づ以て留を無價値ならしめ以て貧富の差を撤廢し、智能本位の社會を實現せんとするならんも唯夫れ共產政治の機關が未だ全く完備せざる以前に於て、破壊方面のみが進捗し即ち留が無價値にも至らば金持は俄に自己相應の職業を發見する能はざるべく、一方は外國と容易に物々交換を開始する能はざる等より各階級を通じて、生活不可能の状態に陥るにあらざるか彼の歐露の人民が營養不良と死亡率の増加せる等、慘憺の情況を傳ふるは此間の消息を語る者にあらざるか

留の無價値は即ち貨幣と賣買の廢止にして、貨幣と賣買の廢止の後を承くるものは現物授受なり現物授受は即ち經濟的白兵戦とも見るを得べく、由來白兵戦なる者は慘烈の極にして今や將に經濟的白兵戦に移らんとしつゝある露國全社會の生活狀態が、日一日と慘憺深刻を加へつゝあるは亦宜なり

彼の共產黨が理想しつゝある共產政治なる者が果して實現するものなるや否やは、吾人の與り知る所にあらざるも、假りに同政治が實現するものとするもそが實現以前に之が準備として同職同盟と現物授受即ち分配機關の完備を圖らざるべからず、然るに今は之が準備は未だ完備の域に至らざるに反對に破壊の方面即ち貨幣と賣買の廢止のみ進展するは、取りも直さず教へざる民を指揮して戰に臨ましめ、人類を驅りて谿壑に陥るものにして無謀否亂暴も亦甚しと謂ふべきか

一露人は吾人に語りて曰く、露國人は今や日に日に生活不可能の境遇に陥りつゝあり併しながら日本人の如く生活難の爲めに自殺者を出さざるは露國人の偉大なる點なりと、然り吾人も露國人は偉大なる國民として常に尊敬して措かざる所にして、否偉大なる國民なればこそ斯る無謀且つ亂暴極まる經濟的白兵戦に向つて突進するなるべく、吾人は斯の偉大な露國々民が益々勇戦奮闘して此慘烈深刻なる白兵戦に對して最後の勝利を得んことを切望する

者なり

近來露國人の多數は口を開けば則ち曰く、彼の過激派なる者は猶太人にして猶太人は露國に猶太國を建設せんとする者なり、之が證據に政治上は勿論經濟界其他各方面を通じて猶太人が實權を壟斷しつゝあるにあらずやとて、悲憤慷慨して已まざる者あり兎も角露國人間には最近反猶太の感情が昂まりつゝあることは事實なり、吾人は恐る彼の露國人が突進しつゝある經濟的白兵戦は其慘烈深刻の權或は一變して、對猶太人反感情を惹起することなきやを若しも去る事あらば彼の慘憺深刻なる經濟的白兵戦は、更に一層慘烈深刻を極むるにあらざるか何れにしても露國人の昨今突進中に在る經濟的白兵戦、今後の進展は吾人の大に注目する問題なり

### 朝三暮四の策

臨時政府は一昨日を以て紙幣引換令を發布し、昨日より實施中に在り同政府の該政策の可否は別問題として斯かる重大問題を曖昧咄嗟の間に斷行するは、甚だ亂暴極れりと謂ふべきか

去六日の新聞紙中或者は同令を掲載せる者もあり、或者は風説として傳えたる者もあり該令が正式に發布せられたるは一昨日曜を以て、市内の各所に貼附せられたる布告を以て然りとす該令の經濟に及ぼす影響は、頗る重大なれば之を施行するに當りては最も慎重の態度に出で且つ實施期間に就ても大に考慮を要するなり、然るに臨時政府の爲す所の彼が如きは余りに輕舉なるのみならず一般經濟界の利害關係を無視せるものと謂ふべきなり

同令に據れば新に發行の一億五千萬留の紙幣一留に對し從來の流通紙幣二百留の割合を以て之を引換え而して新に發行の一億五千萬留に對しては、金塊銀貨等七千五百萬留を準備金に充つるとなり、即ち臨時政府は斯くして留の信用と暴落を食ひ止めんとの意なるべし、然り吾人も臨時政府の意圖の所在を諒とせざるにあらざるも、斯くして果して其目的を達し得るや否やは甚だ疑問に堪えざるなり、何となれば畢竟するに紙幣の價值なる者は信用によつて決定する問題にし、臨時政府の新に發行せる紙幣が何時にても、兌換せらるゝに於ては無論其切り捨てたる丈の價值を生じ之に伴ふて物價も低落するならんも、之に反して兌換を不能はずとせば新紙幣と舊紙幣の間には、何等の差違なきのみならず遂には流通紙幣の不足を感じ更に増發の已むなきに至るにあらざるか、果して然らば該令實施の結果は單に紙幣の形



式を變更したりと謂ふに止まり、留の信用と暴落の食ひ止めには何等効果なきに終はらんのみならず舊紙幣所持者は切り捨てられたる丈、其丈財産を喪失する譯にて態の好き掠奪とも謂ふを得るなり

斯く觀じ來れば臨時政府の該令は果して所期の目的を達するを得るや否やは、今後新紙幣に對する一般の信用如何によりて決定する問題なると共に、若しも新紙幣に對する信用が依然として舊紙幣に對するその如くなりとせば、臨時政府の該令は全く無意義なるのみならず、所謂朝三暮四の策にして徒に經濟界を攪亂すると共に舊紙幣所持者の財産を掠奪を行へたりと謂ふに止まり留の信用と暴落の食ひ止め寸分の効果を奏せざるならんか、且つ臨時政府の聲言する七千五百萬留の準備金なる者に就ては、種々の風説あり假りに該準備金は確實に保管されありとするも、僅々七千五百萬留の準備金を以てして無限に發行せられたる舊紙幣を回収し左しにも紊亂中に在る幣制を一舉に整理することは甚だ覺束なきなり、何れにしても斯る重大問題を曖昧咄嗟の間に斷行せんとするは、輕舉且つ亂暴にして日本商工會を中心として責めては引換期間丈も延期せしめんとの運動あるは當然にして、是非とも抗議を提出して之を延期せしむるの必要あるを認むるなり

### 我政府の猛省を促す

彼の暴虐なるバルチザンの爲めに約千に近きニ港在留の我文武官民は、考幼男女を擧げて白骨と化し去れり、而して一萬に垂々とする當港在留我同胞數百萬の財産は彼の臨時政府の暴政の爲めに今や將に一片の紙屑に化し去らんとす、彼此對照し來りて吾人は悲痛惻怛の情に堪えざるのみならず霧領在留同胞の生命財産保護の目的を以て、出動中の我出征軍も完全に其目的を達する能はざる状態に在りと謂ふべきか

バルチザンの惡虐無道は天人の共に容れざる所にして、言語同斷の極なるが彼の政府を以て自稱する臨時政府の暴政の如きも亦所謂虎よりも恐ろしきものと謂ふべし、紙幣亂發に次ぐに幣制改革令の如きは其最も然る者なり、輸出入を拘束すれば留は暴落し留が暴落すれば物價の暴騰するは當然にして、物價の暴騰に對して紙幣を亂發するは油を以て火に注ぐが如し而して留が暴落の極に達し、將に無價值ならんとするや新紙幣を發行して之が引換を行はんとするは油に換ゆるに水を以てせんとするものにして、是ぞ内外人民に對して火攻め水攻めを行はんとする者にあらざるか

臨時政府の言に據れば新紙幣は正貨準備を有するを以て、相當の價值を有するならんとあるも此正貨準備が問題なり、否假りに正貨準備は確實に保管されありとするも其發行せる發行數以外に更に亂發すること無きや是れ亦疑問なり

之を要するに内外の承認する政權の確立せざる以前における露國當局の苦しませざるの遣り繰り算段は何れにしても内外人民に對する水攻め火攻めにして、私有財産沒收と共に塗炭の苦に投せんとする者に外ならず

斯くの如く露領在留の内外人民は、暴力と暴政の爲めに生命と財産の安全を失はんとす而して之が保護の目的を以て出動中の我出征軍も、袖手傍觀の已むなき状態に在り勿論ニ港事變の如きは事思想の外に起り、軍隊の力も之を如何ともする能はざるに出でたるものにして其他の我軍隊駐屯地に於ては我在留同胞の生命は完全に保護されあるも、暴政に因る水攻め火攻め即ち財産の沒收に至りては、是れ亦軍隊の力之を如何ともする能はざるなり、是に於てか吾人は此際我政府の對露政策の確立に待つより外に策なきなり

由來我政府は聯合與國と共調を保つに忠實にして、對露政策に關しては全く無方針なりしことは事實なり此無方針の政策の爲めに對露當業者は犠牲否見殺しとなりたる跡なきにあら

ず在留民大會が我政府に向つて對露政策確立要求を叫ぶに至りたるは尤の次第なり

吾人意ふらく聯合與國と共通の問題は、固より共調を保つに忠實ならざるべからざるも併しながら其以外の特殊問題に關しては必ずしも小心翼翼として聯合與國の後塵をのみ追隨するの必要なきが如く思はるゝなり、我政府たる者は此際聯合與國に對し共通の問題と特殊問題とを區別して對露政策を確立斷行するにあらざれば、我國が露國より被むる凌辱と損害は彼のニ港事變のみに止まらざるならんか、吾人は在留民大會の決議を諒とすると共に我政府に向つて猛省を促がさんとする者なり

### 國民的威力を發揮せよ

吾人は前に臨時政府の暴政は彼のニ港におけるバルチザンの兇暴以上なることを論せり、爾來同政府の爲す所を觀るに益々其然るを見るなり、聞くが如くは同政府は近く目下開催中の國民議會に向つて同政府を極東主權者として承認問題を提議し、之が協賛を求むべしと是に由りて之を觀れば同政府は政府を以て自稱するも、其實同政府自身も未だ之を自認せざるものと見るべく尤も臨時の二字を冠せるより之を見るも、同政府は極東政府組織の準備機關

たりしことは明かにして果して然らば同政府が其主權承認に就て、國民議會の協賛を求むるは當然の順序なると共に吾人は彼の内外に對し、最も重大なる關係を有する通貨改正問題の如きも同政府は之を國民議會の協賛を経て、而して後ち之を施行するが當然の順序なるが如く思ふなり、然るに臨時政府は主權問題に對しては彼が如く而して通貨問題に對しては此の如し之を是れ稱して本末顛倒と謂ふべきか、加之同政府は新紙幣は準備正貨を有すと稱し舊紙幣を二百分の一に切り捨てたるにも拘はらず官吏の俸給額及労働者の賃銀率は二百分の一の四倍に増額せりと聞く、是れ一方に於ては新紙幣は舊紙幣に對し二百分の一の價值を有することを聲明しながら一方に於ては其然らざることを自認することを證明するものにして、是れ豈に内外を僞瞞するにあらずして何ぞや、且つ夫れ臨時政府は通貨改正は露貨洪水の被害を免かれしめんが爲め止むを得ざるに出でたりと説明する、一方同政府に依りて發行せられたる西伯利札は五十萬留を以て算すと謂ふにあらずや、若しも然らば臨時政府は寧ろ露貨洪水を助成せる者にして前後矛盾も亦甚しと謂はざるべからず、臨時政府は新紙幣に對する準備正貨は武市帝銀に保管し在りと稱するも、露紙の報する所に據れば彼地の勞農政府はウエルフネ政府を承認せるを以て、同準備正貨を當地向け送致を拒絶し來れりと謂ふにあらず

や、斯く數へ來れば臨時政府の爲す所は本末顛倒内外僞瞞前後矛盾にあらざるはなく其暴政は彼のニ港におけるバルチザンの兇暴以上なることは、三尺の童子と雖も容易に之を理解するを得るなり、而して斯かる暴政は露國一部の人民は或は之に服従するならんも在留諸外國人に至りては斷じて服従する能はざるは勿論にして、當港在留十三ヶ國の外國人が期せずして結束反抗の舉に出づるに至りたるは當然と謂ふべきなり、蓋し彼の眇乎たる自稱臨時政府が彼が如く本末を顛倒し内外を僞瞞し前後を矛盾してまで斯る暴政を執行して敢て憚らざる所以は他なし是れまで聯合與國の對露態度が萬事に寛大なりしより遂に懦弱増長以て此に至れるなるべく此時に當りて在留十三ヶ國の外國人の臨時政府に對する包圍攻撃は以て大に彼の反省を促がすに足るのみならず、同時に從來の聯合與國の對露態度に對しても反省を促がすを得るものにして蓋し一舉兩得と謂ふべきか、吾人は在留諸外國人が各國政府の對露政策の遂に頼むべからざるを自覺し以て各自關係の問題は各自の力を以て之を解決せざるを得ざるに至りたるを悲まざるを得ざると共に一方國際間の利害問題の一部が關係者各自の力を以て解決の端緒を開かんとするに至りたるは、國際間の一部問題の解決上一大進歩として大に歓迎せざるを得ざるなり、唯夫れ其之を行ふに當りては先づ以て個人的利害を犠牲に供し

且つ結束を鞏固にし一致の歩調を以て極力目的の貫徹に向つて勇往邁進し、以て國民的威力を示さざるべからず若し夫れ然らず、此空前の國民的運動が一敗地に塗るゝにも至らば舊に國民的威力が地を拂ふのみならず、内は以て彼の傲慢増長の臨時政府をして一層傲慢増長せしむると共に外は以て聯合與國の對露態度をして、益々優柔不斷に陥らしめ左なきだに混沌たる状態は依然として去らず、斯くて在留諸外國人は永く其弊を受け遂に或は再び起つ能はざる深淵に沈淪するに至るならん、吾人は此際在留諸外國人が斷々乎として國民的威力の發揮を煽動して止まざる者なり

### 無血の戦争

既報の如く在留外國人主として日支兩國人は、去る三日より一齊に休業し非賣同盟を執行し新紙幣排斥中なるが去三日は土曜日にして同日午後二時より日曜日にかけて、閉店休業するは通例なれば同日は例日より二時間早く休業に就きたりと謂ふに過ぎず、而して眞實の非賣同盟休業は昨五日より開始せられたるものと謂ふも不可なきか、由來同盟罷業とし謂へば過激派の唯一の利器にして此利器をば、過激派以外の者が之を利用したることは當地に

於ては一昨年春における商工業大會が行ひたるそれと今次のそれとを然りとなさん、而して一昨年春に於ける商工業大會の彼は勞兵會に對するそれなるに反して、今次の此は臨時政府に對するそれにして一見相手を異にするが如きも臨時政府に對するそれは同時に其反面には露國々民に對するそれたるを免かれざるべく果して然らば今次の非賣同盟休業は露國々民對在留外國人主として日支兩國人の經濟的戦争とも謂ふを得べく、重大の問題たるを失はざるなり

該非賣同盟休業に對する露紙の論調は種々なるが、要するに此國民的經濟上の脅威に對しては露國々民たる者協力一致して、之に當らざるべからず差し當り蔬菜魚類等は缺乏を感ずるが此等は市の給養會をして直ちに供給の策を講せしむべしと、或は曰く主として日本人が新紙幣を排斥するは臨時政府とそが財政の基礎の鞏固を欲せざると、且つ紙幣の偽造に不便なるが故ならんなど愚論を吐ける者もあり兎も角該非賣同盟休業の目的は臨時政府に對して反省を促がすに在るなるが同時に其反面には露國々民に對する經濟的脅威も自然之に伴ふを免かれざるべく、尤も露國々民中にも在留外國人と利害を共にする者も無きにあらずらんも概して露國々民の大部分は該非賣同盟休業に對して、先づ以て反感を抱き對抗の舉に出で來

るは當然の勢と見て可ならん、斯くて露國々民對在留外國人主として日支兩國民間に開始せられんとする此經濟的大戰爭は果して如何なる形式を以て解決を告ぐるかは、此際大に張膽明目を要するなるが、結局之が勝敗の決は彼我の結束と持久の力の強弱如何に懸りて存することは多言を要せずして明かなり、夫れ然り戰を宣せざれば止む、苟くも既に戰を宣せる以上は何事を措いても直進直行して之が目的の遂行を期せざるべからず、斯くして豫定の如く完全に目的を達することを得ば極東露國は諸外國就中日支兩國を無視しては、一日も經濟的存立をなす能はざると共に、經濟的に極東露國は極東露國の極東露國にあらざること事實の上に證明するものにして之と同時に將來における極東露國の經濟的橫暴を永久に防禦するを得るなり之に反して若しも該非賣同盟休業が案外にも結束と持久の力に缺如たる所あり、中途にして破綻を生じ挫折を來すが如きこともあらば、在留外國人否日支兩國民の面目は全く潰れ國民的威信が地を拂ふのみならず、日支兩國民は露國の窮困に乗じて利己的暴威を揮ふ者となし、左なきだに橫暴なる極東露國は更に一層其甚しきを加ふに至るならん然り今次の無血沈黙の經濟的戰爭は極東露國に在留する諸外國即日支兩國民の將來における勢力の消長に重大の關係を有すや無論なれば兩國民たる者、大に結束と持久の力を鞏固にし以て極

力そか目的の達成に向つて突貫せざるべからず

### 主義の勝敗

在留十三ヶ國の外國人聯盟會が臨時政府の幣制改革令に對して、非賣同盟休業を宣するや露國々民中就中市の給養會を始め、中央同盟會購買組合同職同盟會等各種の給養其他の公設機關が一團となり對抗の態度に出で來れり、由來彼の在留十三ヶ國の外國人聯盟會の非賣同盟休業の目的は露國々民を敵とするにはあらで、臨時政府の政策其者を敵とするなるが其結果が露國々民の生活に影響を及ぼせるより、上記各種の公設機關が彼が如く對抗の態度に出で來りたるべく是れ蓋し當然免るべからざる結果と謂ふべきか、ソハ兎も角として彼の在留十三ヶ國の外國人の各個人の商店と職業とが同盟休業せるに對して、露國側は給養會を始め中央同盟會購買組合同職同盟會等主として公設機關が協力して、對抗の態度に出で來りたるは是れ取りも直さず、私有資本と公有資本の衝突と觀るを得べし、尤も露國の各個人の商店又は職業は依然として従業し非賣同盟休業に對して對抗の形に在るも此等露國の各個人の商店又は職業は其實彼の内外の私有資本と公有資本の衝突の中間に介在して漁父の利を占

めつゝある者と謂ふも不可ならんか夫れ然り既往に於て聯合與國がオムスク政府を援護して過激派に對抗せしめたるは共產主義と資本主義の武力的衝突とすれば今次の在留十三ヶ國の外國人聯盟會の臨時政府の幣制改革令に對して反抗せる非賣同盟休業に對する露國側の各種給養其他の公設機關の對抗は之を共產主義と資本主義の經濟的衝突とも見るを得るにあらざるか蓋し該衝突は偶然の如くにして實は偶然にあらざるのみならず該同盟休業は在留外國人の對臨時政府反抗なると共に其の反面は國民間の經濟的衝突を兼ねて一方主義の衝突をも含まれ居るを以て該同盟休業の内容と形式は頗る複雑多端にして從來のそれとは大に其撰を異にし且つ該同盟休業の解決の結果が其及ぼす所の影響も亦た複雑多端なるは勿論なれば該同盟休業者は此際大に結束と持久の力を鞏固にして其目的の遂行に向つて奮闘努力を要すると同時に其の將來に對しても充分の考慮を要するなり

由來露國の革命は資本革命にして去れば同革命の進展と共に公有の資本が漸次私有資本に對して脅威の傾向を示せることは事實にして彼の給養會中央同盟會購買組合同職同盟會等公有資本を基礎とする各種の公設機關の發達も之が爲めにして之に對して私有資本は常に反抗の態度を繼續し來れるなり、然るに今回在留十三ヶ國の外國人の個人資本が偶然にも一致し

て非賣同盟休業を宣するに當りて久しく個人資本の反抗の爲めに活動意の如くならざりし彼の公有資本を基礎とせる各種の公設機關は其の本來の能力を發揮するは此時に在りとなし得たり賢しと謂はぬばかりに猛然として活動を開始し來りたる者と見るを得べし、而して斯る結果若しも非賣同盟休業側の失敗に終はることもあらば各個人の彼の臨時政府の暴政の爲めに莫大の損害を被むるのみならず國民的威信は全く地を拂ひ且つ私有資本は公有資本に抵抗する能はざること及び資本主義が共產主義に對して一敗地に塗れたることを事實の上に證明するものにして其失敗は決して單純なる失敗を以て終らざるなり、勿論今次の非賣同盟休業は最初より國民的經濟戰爭を宣したるにもあらず、又主義の戰爭を宣したるにもあらずして單に彼の臨時政府の暴政より被むる損害を免れんとの意に出でたるものなれば不幸にして臨時政府に對して宣したる彼の非賣同盟休業が意外の敵の爲めに意外の失敗に終はりたりとするも彼の臨時政府の暴政より被むりたる損害に對しては必ずや露國をして之が賠償の責に任せしめざるべからず、而して此損害賠償は露國に主權の確立を待ちて本國政府をして之が要求に當らしめざるべからず、果して然らば彼の非賣同盟休業が不幸にして失敗に終るともコハ謂はば外防禦の敗北にして本防禦は各本國政府の牙城に據りて更に後日を期して防戦の餘

地なきにあらざるも本防禦における戦勢は外防禦の戦勢と大關係あるを思へば外防禦戦とも謂ふべき非賣同盟休業は益々結束と持久の力を鼓舞し百折不屈の元氣を以て之に當らざるべからず知らず彼の非賣同盟休業軍は果して這般の覺悟と決心とあるや否や

### 大山鳴動して鼠一匹

二週間餘に亘れる在留外國人の非賣同盟休業は新内閣と何等か諒解を得たるやにて昨日を以て終熄を告げ開店營業するに至りたるは先づ以て目出度と謂ふべし、唯其所謂諒解なる者に就て吾人は疑惑なき能はざるなり、該非賣同盟休業の起因は彼の臨時政府の幣制改革令は吾人の財産を沒收するものなる且つ外國通貨を以てする取引禁止は事實上營業不可能なるを以て斯る暴令を撤回さすべく偶然にも在留十三ヶ國の外國人が結束蹶起せるものにして然るに一朝同非賣同盟休業を停止し復業するは以上の二目的を貫徹せるか然らざれば貫徹し得る保證を得たる上ならざるべからず、然るに吾人は不幸にして此二目的の貫徹如何に關しては何等具體案に接するを得ざるなり

吾人の所見を以てすれば以上二目的中彼の幣制改革令を撤回せしむるか若くは外國通貨を

以てする取引禁止を解禁せしむるか、二者の内少くも其一を貫徹するを得ざりしとすれば彼の非賣同盟休業は全く無意義なりしものと謂ふべきなり

露紙の報導に據れば支那商務會に於ては總會を開らき、國際聯合委員會は外國通貨を以てする取引禁止問題に對する交渉は満足の結果を得たるを以て、十六日より開店營業する筈なる旨報告せりと、此報導も同問題に關しては隔靴搔痒の感なき能はず、彼の幣制改革令は一朝一夕に之を解決するを得ざるとするも兎も角非賣同盟休業を宣してまで、彼の暴令に反抗の意を表せる以上は責めては外國通貨流通禁止令の撤回丈も物にし度く思はれしなり、ソハ他にもあらず同令に關しては前財政部長の言に據りて、領事團は外國貨流通に對する處罰令は效力を發せざる旨臨時政府に通告せるに對し、何等の回答抗議なきを以て外國貨流通は保證を與へられつゝあるも同様なりと謂ふにあらずや、果して然らば同問題丈は半ば解決し居たるものと見るべく此半は解決の狀態に在りたる同問題丈も、非賣同盟休業の力に依りて稍々具體的に目鼻を附けべかりしなり、然るに今はそれすらも然らず斯くては在留十三ヶ國の國際聯合委員會なる大看板の下に行はれたる非賣同盟休業も、所謂大山鳴動して鼠一匹の譬喩に反して單に大山が鳴動したるのみにて一匹の鼠も飛出さざりし結果に終りたる者と謂ふ

べきなり、吾人は彼の露國當局の倨傲横暴に對しては遺憾今日に始まらず、去れば幣制改革令其他に對して圖らずも在留十三ヶ國の外國人が結束蹶起せるに對しては大に同情を表すると共に此機會に於て國民的威力を以て露國當局の反省を促がさんことを切望せる者なり、勿論其手段と方法とに就ては多少の異議なかりしにはあらざるも、既に非賣同盟休業を宣せる以上は飽くまで結束と持久の力を鞏固にして終局の目的を貫通すべく鼓舞作興に努めたるも之が爲めなり、然るに彼の如き結果に終りたるは失望落膽せざるを得ざると共に彼の在留十三ヶ國外國人の聯合委員會なる者が案外に腰の弱かりしと交渉作戦萬端が慎重を缺ける跡あるのみならず、斯くては餘りに輕舉暴動に失せるにあらざるかの嫌なきにあらず、而して吾人の所謂國民的威力なる者も全く地を拂へたるが如く思はるなり、該非賣同盟休業を宣せるに就て我在留民は表面は結束鞏固の如がりしも裏面に於て意見の一致を缺ける者の如く、同盟休業の彼が如き結果に終りたるも主として此に原因するなるべく由來日本人は各種の問題に關して相互に露骨に率直に意見を戦はし、之が討究に努めずして兎角面従腹非勝ちなると共に一方我見専行の性行なきにあらず、此等の缺點は今次の如き運動に際して特に其一大弱點たるを認むるなり、之を要するに既往は咎むべからず將來に對しては斯種の問題に關して

は先づ以て相互に露骨に率直に意見の交換に努むる一方面従腹非と我見専行とを避け結束と持久の態度を以て之に當らざるべからず

### 通商條件の研究

吾人は曾て斯ういふことを豫言したことがある、それは歐米諸國は露國を經濟的袋叩にして居たが今後は吾先に露國と通商關係を開始せんものと相互に競争し、斯くて是れまで經濟的袋叩にされて居た露國は今後は反對に歐米諸國より牡丹餅で頬ベタを叩かれるであらうと然るに如何やら吾人の此豫言が實現しはしまいかと思はれる兆候がある、昨今内外通信は英露の通商條約が成立したとか、又露支の通商條約が成立せんとするとか及び佛國の新内閣も露國と政治關係開始までは通商關係を開始する旨聲言したとか、頻々として報導して居る是れは露國が何事を措いても諸外國と通商關係開始を切望の餘り一日も速に斯る情勢を馴致せんものと大に宣傳に努むるのであつて、内外通信の報導する程度にまで進捗して居るのか如何かは蓋し疑問ではあるが、併し何れにしても歐米諸國が露國と通商關係を開始せんものと焦慮しつゝあることは内外通信の報導を待たずして天下に隠れなき事實である、所で内外通



信の報導の如く假りに諸外國と露國の通商條約が成立したとして、此條約が如何なる形式の上に行きさるゝであらうか、吾人の常に疑問とする所である、露國の提言として今日までに傳えられたる所に據れば金塊とか原料品とかを提供するといふのである、即ち物々交換を行はうといふのである、物々交換は共產政治の主張の一であるばかりでなく露國の現在に於ては此に出づるより策が無いのであらう、又工業國として立つて居る英國の如きは或は寧ろ之を歓迎するのもかも知れぬ否原料品として何にか目星い物を目を着けて居るのかも知れぬ、支那の如きは通商條約が成立しなくても露國と通商して居ることは事實である、日本人がザバイカル洲やハ府から引揚げた後は支那商人が獨り儲けをして居るといふことは吾人が屢々耳にした所である、露紙は英露通商條約成立の報導に對して是れで歐露に於ける諸外國の壓迫が多少緩和されたが極東に於ては之れと反對に彼の壓迫が益々加はつて來るであらうと論じて居る、吾人の見る所では對露通商條約が成立したとして之に依りて實際に商取引が圓滿に行はるゝや否やは別問題として、只だ對露通商條約が成立したといふ其聲丈で露國の感情を緩和し人心を收攬することは多大なものがあると思ふ、斯ういふ意味から見れば英國が率先して露國と通商開始の問題に關して交渉を繼續して來たのは、流石に英國の英國たる所以であ

るまいかと思ふのである、利權を害せぬ範圍に於て通商條約を締結した所で商人は利益が無ければ取引せぬ丈である、それでも露國の感情を緩和し人心を收攬する丈の効果はあるであらう、事實上商取引が確實に行はるゝ條件を發見した上でなければ通商開始の交渉も開かぬ通商條約も締結せぬといふのは餘りに杓子定規である、亦露國に對する所以の道でない日露個人間における各種の合辦事業が多くの場合不成立に終るのは契約書に對して杓子定規であるからである、兎も角諸外國は露國と通商開始問題に對して絶えず不即不離の交渉を保つて居る之に反して日本は絶無である、交渉は開始しなくても露國と通商を開始する場合の條件位は研究して置いても差支が無いではないか、然るにそんな豫備研究も當局の一部に於ては兎も角民間に於いてはそれも絶無の様である、斯んな條件ならば露國と通商を開始しても損は無いつて交渉を開始しても露國はオインソレと應せぬかも知れぬ、其頃は諸外國は露國と盛に取引を行ふ頃であらう、日本國民は先天的官僚國民であるから別して通商問題などにかけては常に諸外國の後に堂着たらざるを得ぬのである、當局の一部に於ては露國と通商開始條件を調査して居るそうだが、是れは杓子定規の日本の當局には六ヶ敷い問題である、現に西伯利經濟援助會が之を證明して居る、斯る問題は對露貿易當業者が大いに研究して當局

を動かさねばならぬ問題である、吾人は内外の通信が頻々として對露通商條約の成立又は成立せんとするを報導するに當りて茲に我朝野に向つて一言する所以である

### 低利資金問題

低利資金貸下請願は在留邦商間の問題となつて居たが、幾度か協議を重ねられたる末大體に於て意見も纏まり請願の爲め代表者は不日上京する由である、吾人は之が成功を切望して措かぬのである、吾人は對露貿易者に對する救済に就ては一再ならず論じたのであるが是れは對露貿易者に對する救護と謂ふよりは我國の對露貿易政策に對して時勢に適應する新しき計畫として大に必要であると思ふのである、吾人は曾て「對露貿易の形式變化」なる題下に將來における我對露貿易の態度の變更に就て大に當業者に警告する所ありしは之が爲めである、日露貿易の現状は全く行詰りの状態に在るが併し窮すれば通ずるの諺の如く此の行き詰りたる日露の貿易は早晚復活する時期のあることは何人も信じて疑はぬ所である、而して此の早晚復活する時期に對し今より是非共準備し置くと同時に今後の日露の貿易は從來のそれとは稍々形式を異にするのであるまいかといふことも考慮し置くの必要があるのである、彼の極

東政府は極東に於ては共產政治は之を實施しないと宣言して居るけれども、共產黨ならざるも給養機關とか又はコベラチ等の組織の下に需要供給の方法が漸次變形さるゝと共に大規模の下に經營されつゝあることは事實である、従つて一朝歐露と交通開始して通商關係が開始せらるることにもならば先づ以てコベラチの活動と見て差支ないのであらう、然るに從來の對露貿易の形式で之に對應せんとしたならば必ずや狼狽することがあるであらう、彼の歐洲戰爭勃興後歐露が一切の供給を極東に仰ぐに至りたる其時ですらも、既に我對露當業者は狼狽の態を演じたのである、斯れば來るべき日露貿易の復活期の對應策として第一に資本の合同又は同業間の聯盟が必要である、否必らずしも日露貿易復活期對應策のみに於て然るのみならず小資分立の日本は對外貿易上如何しても資本の合同と同業の聯盟が必要であるのである、尤も日本内地の當業者間には此に自覺せる傾向なきにあらざるも在外當業者に於いては思ひながら未だ其處までの運びにいたらぬのである、特に浦潮在留邦商に至りては歐洲戰爭前後を通じて常に一難去りて一難來たると謂つた様な次第で中々左様の運びに至る暇がないのみならず最近における日露貿易の杜絶状態に處して座食の有様は實に目も當てられぬのである、之が上海とかハルビンとかならば對露貿易が不況に陥りても他に方向展開の策も無い

でもないが蒲潮におけるそれは一方が塞がれば忽ち進退玆に谷まり二進も三進もならぬのである、おまけに金融機關が完備を缺く爲め多額の商品を抱いて居つて苦まなければならぬといふ奇態を演ずるのである、斯んな譯では是れまでの在留對露當業者が勞苦の多い割合に成功者の無いのも之が爲めであらう、歐洲戰爭勃發と共に如何やら基礎を築かんとしたる彼等はそれも束の間で留の暴落で臺無しとなり續いて貿易杜絶に遇ひ臺無しの上に更に臺無しにならないとして居るのである、蓋し既往における我對西伯利策は決して成功を以て目されぬ而して若しも我國が對西伯利問題は是れで斷念するならば兎も角如何しても將來我國としては此方面に向つて發展せねばならぬとあるならば此儘にては放任出來ぬのである、而して發展策としては何を措いても對露貿易の復興に乗するより外はあるまい、對露貿易の復興に乗せんとするには多年此方面に於て七轉八倒の經歷を有する在留當業者等を擁護して之に當らしむるが捷徑である、英米諸國も頻りに對露通商開始に焦慮して居る様であるが近き將來に於て勃興せんとする我對外貿易中我國の依つて以て乗すべきは矢張對露貿易ではあるまいか、此將に復興せんとする對露貿易に對する成功に於て始めて幾分既往における對西伯利問題の不成功を取り返しが出来るのみならず此方面に對する發展の素地も築かれるのであらう 然る

に我國の朝野を通じて不成功を轉じて成功となし、禍を變じて福となすに就ては何等準備が無い様である、聞くが如くは彼の低利資金貸下問題に對し幸に其筋に於て請願を容れて貸下げて呉れることにもならば倉庫と金融の兩機關を設備して當業者各自が各自の實力と信用の程度に應じて此兩機關を利用しようといふ組織なそうであるが是れは誠に妙案である、是れ則ち吾人の所謂資本の合同同業の聯盟である、否一種のコベラチである斯る計畫に出で、こそ始めて來るべき日露貿易の復活期に對應することが出来るであらう、我當局に於ては前に西伯利經濟援助會なる者を設けて大に活動しても餘りに效果を得られなかつたが今日は露國人を救濟せねばならぬと共に在留同胞を擁護の必要が迫まつて居るのである、而して在留同胞を擁護することそのことが西伯利經濟救濟の捷徑である、吾人は今次の代表者上京が一舉にして此目的を擧ぐるや否やは別問題として我朝野をして此方面に向つて靡然として傾かしむる上に於て有力なる宣傳運動として代表者の上京に賛同して止まぬ者である

### 伐林利權問題

本日は内外實業家の注目の焦點となつて居る森林伐採利權競賣執行の當日である、同競賣

問題に關しては當州政廳と極東政府と意見を異にして居ることは既報の通りであるが、更に其大要を擧ぐれば當州政廳は同利権は外國人には許可せざることを許可するとするも、露國人と合同の下に三十パーセントの權利を認めるといふに反して極東政府は内外人を論せず平等に之を許可するといふのであると共に同利権競賣は當州政廳之が執行に當らんとするに對して極東政府は自分之に當らんとするのである、其結果が如何に決定するかは目下交渉中に在るので未定である、兎も角以上意見の相異なる其裏面に於ては何れ種々の魂膽があるであらうと思ふ、即ち同利権競賣より生ずる利益は之を當州政廳の收入とせんとするに對して極東政府は之を同政府の收入と爲んとするなるべく、又當州政廳の意見といふもの、同意見は森林委員會を中心とする意見なるべく、同委員會は官僚即ち右派の中心とも見るべく同派は同利権競賣に關する權力を保持し置き之を同派の勢力保持に利用せんとの下心もあるなるべく、斯くて同利権は内外實業家の獲得せんとする利権なると同時に一面極東赤白兩政派の獲得せんとする利権たるかの奇現象を提出せるに至れるも實に妙である、當州政廳側は若しも其意見が極東政府の容る所とならなかつたならば總辭職をすると頑張つて居るそうであるから決心は餘程鞏固と見える、共產黨のアストーノフ氏の首班たる當州政廳が極東政府に

對して斯の如く反抗の擧に出づるといふのは官僚の遺物の制肘の力とも見るべきかツハ兎も角として、彼の森林伐採利権競賣なる者は畢竟するに外資誘入の手段の一に過ぎないであらう、所で此外資誘入の目的を達せんとするには上記兩者の意見の中何れに依るのか果して同目的を達し得るであらうかといふことが問題であらうと思ふ、然り若しも外資誘入を前提とするならば同問題の如きは多言を待たずして明かではあるまいか。

何故なれば彼の當州政廳の意見に従ひ同利権は外國人には之を許可せず、許可するとしても露國人と合同の下に三十パーセントの利権を認むること、すれば露國人の爲めには利益ではあらうけれども、併し露國人が斯る利権を獲得すべく資本を有して居るのであらうか、資本を有して居らぬとすれば表面は露國人の名義でも事實は外國人が獲得するのである、尤も斯くして露國人は名義料にて利益せんとするのであらう、即ち手を懐にして外國人の利益を搾取しようといふのであらう、又露國人の名義にして置けば之を監督し時々壓迫するの都合が好いのであらう、夫れ然り露國人の爲めに都合が好いのであらうけれども併し外國人の爲めには甚だ都合が悪いのであらう、外國人に都合が悪ければ何を苦んで斯る利権を獲得するであらうか否斯くては利権でなくて損權である、損までしても露國に投資しなければならぬ

といふ義務を外國人は負つて居ないのである、若しも然らば此利權を餌にして誘入せんとする外資は中止となることは三尺の童子でも解ることである、サテもサテも露國官僚の遺物の頭といふ者は何共奇妙な頭といふものである、斯様な頭が露國を支配したればこそ露國は現在の境遇に陥つたのであらう、否是れまで露國を支配して居た此奇妙な頭を破壊する爲めに露國は資本を食つて了まつたのである、ソコで今後之を改造するには資本が入用なのである、此資本は如何うしても外國から一時誘入しなければならぬのである、是に於て國內に於ては極力個人資本を破壊した共產黨も外國の個人の資本は之を利用してやらねばならぬといふのである、彼等にとりては矛盾であり且つ苦痛ではあるが併し是れは如何うも致方がないのである、やがては此誘入したる外國の個人資本をも國內の個人資本と同様に破壊する時期があるかも知れぬがそれまでは我慢しなければならぬのである、我慢の色も見えて居るから此際外資を誘入せんとするには餘程の安心を興へてやらねばならぬのである、然るに革命以前の帝政時代の法律に據りて外資を誘入せんとする彼の官僚の遺物の意見は外資誘入にあらずして外資驅逐である、彼の兩者の意見の相異の裏面には或は吾人の想像以外の魂膽があるか如何うかを知らぬが併しながら露國現時の急を救ふ爲めには外資を安心して流入せしむる

方法に出でられんことを露國の爲めに切望する者である

## 日本對極東

三五四

聯合與國の爲めに置去りを食はされたる日本は之を内にしては國民から失敗を叫ばれ之を外にしては露國の反感を買ひ進退茲谷の境遇に陥りたるが併しながら窮して通すといふこともあれば此進退維谷の境遇に陥りたる日本は此間將來大陸に向つて發展すべく何等か習ふ所ありしことは吾人の信じて疑はざる所なり

### 大谷軍司令官の凱旋を送る

我大谷軍司令官は本日をして將に凱旋の途に上らんとす

回顧すれば同軍司令官が昨秋を以て當地に出征上陸以來茲に年餘に及ぶ、而して出征の目的全部は未だ完結を告げたりと謂ふべからざるも、其大半は既に完結せりと謂ふも不可なかるべく此時に當りて同軍司令官は中央顯要の地位に榮轉し任を後進に譲り凱旋の途に就かるゝに當り、吾人は滿腔の敬意と感謝とを表し歡送して措かざるなり

抑今次の西伯利出兵は世界的交渉を有する一大事件にして従つて萬事が複雑多端なること

は言を俟たず、名は戰爭と謂ふと雖も敵は在るが如く無きが如く、而して戦線は廣袤千里に亘るのみならず、純全たる露領に屬するを以て絶えず反感と誤解とを生じ易く、斯くて我の一行一動をして兎角左支右吾せしめ何事も快刀亂麻を斷つが如く、一刀兩斷の舉に出づる能はざらしむる者あり、一方彼の聯合與國は其地位と勢力とを利用して動もすれば掣肘と牽制の舉に出でざるなきにあらず、然り今次の西伯利出兵はその複雑多端なること之を稱して外交的戰爭若くは戰爭的外交とも謂ふべく、同時に變體戰爭とも謂ふを得べきなり、而して外交的戰爭戰爭的外交否變體戰爭の反面には東亞百年の長計懸りて存するを以て、任に此間に在る者其苦心慘憺の情察するに餘りありと謂ふべし、唯夫れ我國の一舉一動一進一退が常に言順にして名正しきを以て前には我に反感し、我を誤解せる者も今は漸次我を信頼し我を諒解し前には我を輕視し我を利用せんとせる者も、今は時と共に我を畏敬し我に信任せんとする傾向を示すに至れり、蓋し其此に至れる所以は一は我皇威の然らしむる所と謂ふと雖も亦一は其局に當る者の人格の力に頼らずんばあらざるなり

我大谷軍司令官は人となり必ずしも武に偏せず又必ずしも文に偏せず、渾然たる徳量と從容迫まらざるの態度とを以て常に内外文武と交驩修睦樽俎折衝を怠らず、斯くて不言不語の

三五五

間に我國をして聯合與國間に隱然重きを成さしめたるは、此變局に際し誠に其人を得たりと謂ふべきか然り今や西伯利出兵は我大谷軍司令官に由りて畫龍の功を擧げられたるも、其之が點晴の業に至りては正に今後に在りと謂ふべく、同軍司令官が今回中央顯要の地位に榮轉せると共に吾人は同軍司令官か今後此中央顯要の位地に據りて更に力を點晴の業に致さんことを切望して措かざるなり、茲に其凱旋の途に上らるゝに當り在留官民一同に代りて一言以て歡送の意を表す

### 國論一致

西伯利出兵に對する我國の國論は當初より今日に至るまで、兎角一致を缺くは吾人の甚だ遺憾に堪えざる所なり、其然る所以は今次の對露問題は一は思想問題に關聯すると一は露國對諸外國及諸外國間の關係が彼此複雑錯綜し、從つて之に對する我國の態度も自然短刀直入簡易直截に出づるを得ず左顧右眄遲疑逡巡を免かれざると、我國民が全く露國政情に諒解を缺くの致す所ならんか、彼の勞農派の唱ふ共產主義なる者は其可否の如何は別問題として世界中の無産階級に對し共鳴點を有するを以て極力敵視して、之を擊滅せんとするの遂に不可

なる者あり一時は一擧にして之が根絶を期したる聯合諸國も最近に至り稍々躊躇の狀あるに至れると同時に將來に於ける對露關係に想到し中途にして從來の態度を變更するなど頗る優柔不徹底なるも畢竟するに對露問題の内容が國際的利害關係に比較してより多く、思想問題に關聯し居るにも因るならん、斯くて對露問題に對する國論の一致を缺けるは獨り我國のみに止まらず、聯合與國を通じて同一の傾向を免かれざるならん唯此間に處して我日本のみは必ずしも彼の聯合與國と同一の態度に出づるを要せざる者あり、何となれば我國の對露問題は思想問題以外に於て優に進退云爲するの餘地ありて存すればなり、否最も單純にして且つ密接なる國際的利害關係より之を解決し、亦解決せざるべからざるを以てなり即ち彼の共產主義なる者が我國の團體に如何なる影響を及ぼすや否やは兎も角として、極東に於ける一治一亂が直ちに我國の一治一亂なるを思へば、我國たる者之に對して何等か根本的解決をなし置くことは當に我國の存立上必至の問題なるのみならず、東洋平和の爲めに是非共爾があらざるを得ざればなり、斯く觀し來れば我國たる者露國の政情に對して諒解を缺くと否とを問はず必ずや之に對する態度の一致點を發見すべき筈の者なり、然るに今は然らず此重大問題に對して殆んど共鳴なきのみならず、議論區々として一致を缺ぎ彼の去月末發布せる宣言に

對してすら或者は之を以て撤兵の宣言と解釋し、或者は之を以て駐兵の宣言と解釋するといふに至りては吾人は思はず慨然として長大息を發せざるを得ざるなり、吾人は既往に溯りて之を論ずるを欲せず、否過去を咎めざるべし問題は現在にあり現在を如何にすべきか撤兵は吾人の理想なり同時に降伏なることを忘るべからず、退却なることを忘るべからず出兵は或は失敗なりしやも知れず、併しながら吾人は降伏を欲せざるなり且つ夫れ出兵をして失敗たらしむるも將た成功たらしむるも、國民の之に對する態度の一致如何に依りて決定するにあらざるか、由來我國民は現金主義の國民なり、此現金主義の國民にとりては西伯利出兵問題は餘りに理想的問題なり、是れ我國民が該問題に對して共鳴なく一致を缺く所以なるべし唯夫れ國家なる者は現在のみの存在にあらずして、過去及將來を通じて存在する者なることは三尺の兒童と雖も之を承知するなるべし、吾人は理想的國家重大の問題に對して我國朝野を擧げて何等の主張なく、何等の抱負なきのみか共鳴なく一致を缺くに至りては國家の前途に對して甚だ失望落膽せざるを得ざるなり

今對極東問題は議論の時代にはあらず、解決の時機なり吾人は國論一致の態度を以て之が解決に當らんことを我朝野に向つて大聲疾呼する者なり

### 永遠の平和

極東における内外各種の問題を解決すべく全權を委任し、勞農政府より派遣せられたりと稱するキレーンスキー氏來着せり、氏は若し日本が承諾せば直接媾和交渉を開始するを辭せざるべしと吾人の所見を以てするに、日本は聯合與國と共調を保ち始終之と一致の態度に出づるなるべく、媾和交渉の如きも巴里に於て折衝するが當然の順序形式なるべく従つてキレーンスキー氏の希望せるが如く日本が氏と直接交渉を開始するが如きことは、如何かと思はるゝなり、ソハ兎も角として勞農政府の全權委員と稱する氏の來着は日露兩國の意見の交換及び模索に萬更無益なるのみならず、之に依りて如何に勞農政府が媾和を求むるの情切なるやも知るを得ると共に極東に於て昂奮の極に達せる反日感情を幾分緩和し、併せて兩國の平和回復期を促進するにも多大の影響あるを信するなり、キレーンスキー氏は曰く勞農政府は極東に於ける日本の特種地位を承認する者なれば、日本は勞農政府の媾和提議に對しては此特種地位に對する具體案を提出すべきものなりと、然り日本は時機到來せば何等かの提案に出づるは當然にして其然らざる所以は其時機にあらざればならん、時機の到來と共に相當の



順序と形式を履みて此に出づるは勿論なり、キレーンスキイ氏の言なりとて傳ふる所に據れば勞農政府は極東は日支蒙鮮と隣接地なるのみならず、住民の種族の如きも難多なれば歐露と同一形式の政治を施行する能はざるを認め、極東に限り自治政治を施行し隣接諸國に對する緩衝地帯となすやの意向なきにあらずと、果して然らば勞農政府は稍々極東における露國の地位を理解するに至りたるものと謂ふべく、且つ革命以前の露西亞帝國の罪滅しをなすに足るべきか何となれば、極東は露國の侵略地方としては最も新しき歴史を有することは言を俟たず、其主要都市が軍人官吏の殖民地たるが如き觀を呈し萬事が全く露國化せざるに徴するも明にして、加之極東に於ける露國の侵略的態度は絶えず隣接諸國を脅威せるの跡あり左れば將來露國が隣接諸國と永遠の平和と親善關係を希望せば、極東における從來の態度と指圖を全然拋棄し經濟的にも軍事的にも根本的に開放し、隣接諸國と共存共治の方針に出でざるべからず

### 勞農政府に與へて媾和條件を論ず (上)

勞農政府侍史外電の所報に據れば、最近貴政府は我日本に對して毫も敵對行爲を採らざる

こと思想の宣傳をなさざること、極東における特種地位を承認すること等の條件の下に媾和を提議せりと、該報に接したる吾人は該提議が果して如何なる意味を有するものにや甚だ諒解に苦まざるを得ざるなり、否日露兩國が媾和するの必要ありや否やが先づ以て疑問に堪えざるなり、何となれば日本は露國に對して曾て戰を宣したることなし戰を宣せざるに和を媾する理由なければなり、尤も日本は聯合與國と共同して極東に出兵後鐵道沿線に於て鐵道を破壊せんとする者に對して防戦せり、蓋しコハ露國の國家に對して戰を交へたるにはあらずして聯合與國の軍事行動に對して聊か守備の任務を盡したりと謂ふに過ぎざるなり、加之彼の聯合與國の軍事行動なる者も固より露國と戰を交へたるにはあらずして、チエツクを援護し以て露國內より獨逸の勢力を一掃せんとせるものにして、吾に露國に對して戰を交へたるにあらざるのみならず、否寧ろ斯くして露國の統一を圖らんとの意に出でたるなり、尤も聯合與國の此行動は貴政府にとりて或は所謂難有迷惑にてありしやも料られざるも、併しそれと是れとは別問題なり、何れにしても貴政府と聯合與國の間には意志の齟齬は之れありしならんも嚴格なる意味に於て交戦關係は成立し居らざるものと見るべし、従つて貴政府に對する承認提議は兎も角として媾和提議は全く意義を成さざるもの、如く思はるゝなり、次に貴

政府の提議中日本に對して敵對行爲を採らざること思想の宣傳をなさざること、極東における日本の特種地位を承認する等所謂媾和條件なる者は、餘りに我日本を小兒視せる申條にあらざるか、ソハ兎も角日本が露國に對する聯合與國と共同の行動は交戰行爲にあらざる以上は貴政府より固より感謝を受くることは、之を豫期せざるも亦敵對行爲を採らるゝ理由もなき筈なり、それとも貴政府に於て何等か不満の點あり我日本に對して是非共敵對行爲に出づるとならばソハ貴政府の勝手にして我日本の關知する所にあらざるなり、次に思想宣傳をなさずとあるは貴政府は何れ我日本は過激派の思想宣傳に對して恐怖を抱き居るものと思ふて然るならん、無論我國には過激派の思想宣傳に對して恐怖を抱ける者なきにあらず、併しなから識者は則ち然らず、何となれば貴政府の主唱に係る勞農政治なる者は我國建國の趣旨と同一揆にして舉國皆兵農者國本とは三千餘年來我國政治の根本義なればなり、去れば我國に對して勞農政治の思想宣傳は適々以て我國建國の趣旨を闡明するなるべく、同時に或は政體を變更することなきやを保せざるも之に依りて、我國體の精華は益々發揮せらるゝならん、之を彼の政體が封建政治より郡縣政治に而して郡縣政治より立憲政治に變化せると共に我國體の精華が層一層發揮せられたるに徴するも明かなるにあらずや、斯れば我國建國の趣旨と

國體と政體の區別を知らざる無識の輩は勞農政治の思想宣傳に對して、或は恐怖を抱くならんも然らざる者は則ち然らず、故に若しも貴政府が御希望とあらば日本に對して何時にても隨意に思想の宣傳をなすも不可なく御遠慮は御無用なり、最後に極東における日本の特種地位を承認すべしとあるは是れぞ所謂餘計の御世話と申すべきか、貴政府の承認を煩はすまでもなく我日本が極東に於て特種の地位を有することは、世界を舉げて早く業に承認する所なり、今更我日本が何を苦しんでか貴政府の承認を要すべきぞ

之を要するに歐洲戰亂勃發以來我日本が聯合與國と常に共同の歩調を保ち、聯盟の誼を致すべく、日夜汲々たる所以のものは豈に貴政府の提議に係る如き區々たる條件を獲得せんが爲めならんや、然るに貴政府は之を是れ察せずして宛然子供を威どし又すかすが如き提議に出づる人は馬鹿にするも程がありと謂ふべし、抑貴政府が我日本に對して敢て斯かる提議に出でたる所以は畢竟するに貴政府が極東の事情に通せざると、日本の眞意の所在を解せざるの致す所なるべく、是れ吾人の甚だ以て遺憾に堪えざる所なり、因て吾人は左に鄙見を披瀝し聊か參考に供すべく萬一日露兩國間の理解の一助ともならば幸甚なり

### 勞農政府に與へて講和條件を論ず (下)

三六四

勞農政府侍史吾人の所見を以てするに日露兩國は、當然相依り相頼らざるべからざる趣向を有するが如く思はるゝなり、何となれば日露兩國間にはその相依り相頼るべく幾多の共鳴點ありて存すればなり、然るにも拘はらず其の然らざる所以は要するに兩者の間に理解を欠ぐの致す所ならんか、是等に關して乞ふ吾人をして少しく語らしめよ

吾人が日露兩國は當然相依り相頼るべき幾多の共鳴點ありて存すと稱する所以は他なし、之を近くしては歐洲戰爭に際して日露兩國は聯合與國の爲めに御先棒に使はれたるの觀なきにあらず、而して露國は此の御先棒の役を中途にして御免を蒙りたるに反して日本は則ち然らず而して中途にして此の御先棒の役を御免を蒙ると共に、非併合民族自決を唱へて彼の聯合與國の帝國主義に對して反抗の擧に出でたる露國は、相棒の我日本を稱して歐米諸國のそれに對すると同様帝國主義を以てするか如きも、何ぞ知らん我日本は數十年來露國を始め歐米諸國の帝國主義に對する強硬なる反抗者ならんとは、彼の東洋の諸國が露國を始め歐米諸國の帝國主義の爲めには或は侵略せられ、或は分割せられんとするに當りて我日本のみは獨

力以て之に反抗し辛ふじて之を免かれ、以て今日あるのみならず唇齒輔車の關係上隣接諸國に對しても機會均等領土保全を唱へ以て彼の露國を始め歐米諸國の帝國主義の跋扈を防壓に努めたるなり、今次の對西伯利出兵に對しても亦大に意を此に致せるにあらずや、斯くの如く既往數十年間に亘る我日本の對外關係は露國を始め、歐米諸國の帝國主義に對する孤憤奮闘の歴史ならざるはなし、然るに今は之を是れ知らざるまねして反對に我日本を稱して帝國主義呼ばりをなす者あるに至りては所謂盜人猛々しと申すべく、實に以て片腹痛き次第なりソハ兎も角も我日本が既往數十年間に亘りて機會均等領土保全を唱へて露國を始め歐米諸國の帝國主義の跋扈を防壓に努めたと最近に於て貴政府が彼の聯合諸國に對し御先棒の役を御免蒙むると共に非併合民族自決を唱へて世界各國の帝國主義に對して反抗の擧に出づるに至りたるとは前後の差こそあれ、其孤憤奮闘以て彼の帝國主義に反抗する跡は同工異曲異口同音と謂ふべきか、斯くの如く幾多共鳴點を有する日露兩國は須らく同氣相求め同情相憐み相依り相頼るべきが當然なるに、今は然らず相互に相猜疑し相反目し常に融和を缺くの跡あるは一は彼の歐米諸國の帝國主義が兩者の間を中傷離間に努むると亦一は相互の間に理解を缺くの致す所ならずばあらず、是れ吾人の常に深く遺憾とする所なり、而して吾人は是等

三六五

兩者間の理解を缺く主要の點に就て察するに、何れ貴政府は我日本が立憲君主國なる與其他の行動より我日本を帝國主義と速断せるなるべく、コハ所謂皮相の見と申すべく上述の如く寧ろ我日本は帝國主義に對する自衛的反抗者たることは、既往の歴史之を證明して餘りあるにあらずや、一方我日本は彼の過激派なる語に囚はれて露國の勞農政治に對して恐怖の念を抱くにあらざるやの感なきにあらざるも、是れ亦皮相の見にして其實我日本も建國の當初より勞農政治にして皇統の天壤と無窮なる所以も亦之が爲めの故にして、加之將來我日本が彼の歐米諸國の帝國主義に對し獨力反抗を繼續せんと欲せば、必ずや建國の趣旨を闡明し先づ以て資本を統一し皇室中心の一大家庭的國家を組織し、斯くて經濟的舉國一致の舉に出づるにあらざれば不可なるに至るならん

斯く解し來れば日露兩國は幾多共鳴點ありて存すると共に兩者の間は釋然として相理解し相一致すべき趣向を有するや明かにして此理解と一致の下に、彼我相依り相頼り以て彼の歐米諸國の自決主義に對し機會均等領土保全非併合民族自決の大義の下に敢然反抗の舉に出づることは是れ豈に日露兩國が新に負へたる一大天職にあらざるか、且つ斯くして始めて世界人類の爲めに一新紀元が開始せらるゝにあらざるか、然るに今は然らず前には歐米諸國の帝

國主義の爲めに御先棒役に使はれたる兩國は、更に彼等の中傷離間の爲めに相猜疑し相反目し以て所謂謁軒の爭漁夫の利に終はらんとするが如き傾向あるを觀る毎に、吾人は轉た長大息せざるを得ざるなり

貴政府の提議に係る媾和條件なる者が餘りに無意義にして且つ理解を缺くの跡あるを觀て吾人は敢て此に一言する所以なり、吾人の此言を聽きて貴政府のみと謂はず我日本の上下を舉げて自ら之を一笑に附するなきやを保せざるも、然る際には吾人亦東海を踏んで死するあらんのみ勞農政府侍史希くば之を諒せよ

### 我政府の宣言

我政府は去月卅一日を以て西伯利出兵に關し、別項の如く「帝國の地理的關係は他の列強と自ら其趣を異にし特に極東西伯利の政情は直ちに滿鮮地方の情況に波及するのみならず、西伯利地方に於ける多數の我居留民は其生命財産の安全を期する能はざる實情に在り、是れ帝國が遽に撤兵を執行する能はざる所以にして、其間露國に對して何等政治的野心あるにあらざる事」を宣言せり、該宣言は極めて平易簡明にして何等の奇なく我國にとりて當然且つ